

カ、ル處ニ明レハ二年正月廿二日小日向ヨリ火起リテ、本邸前邸皆類焼シ、夜戌ノ刻ニ及テ此邸モ燒亡ス。榮光夫人火ヲ愛宕下ノ邸ニ避サセ、直ニ大崎ノ邸ニ移リ住セ玉フ。大崎邸ト並セシルヘシ。其後假長屋等僅ニ造ラレシノミニテアリシト覺エテ、翌三年五月朔五日兵衛町ヨリ失火シテ、築地御屋敷平長屋板カコヒ等燒失セシヨシ舊記ニ記セリ。同六年正月廿六日執政井上河内守正ヨリ留守居役御呼出有テ、鐵炮洲屋敷五千三百餘坪ノ内三千坪御用ニ付差上ラルヘシトナリ。世ニ傳フル所ハ、火災ノ後總カコヒ等モ板カコキ事ヲ知ラス。ヤカテ地面御引渡シ有テ、殘地僅ニ二千三百坪トナレリ。素ヨリ館等造ラレシ事モ見エス。サレト享保十七年三月廿八日鳥越ノ邸類焼セシカハ、内匠頭殿政此邸ヘカリニ移ラセ、四月六日鳥越ニ歸ラセラレシ事舊記ニ見エタレハ、公邊御少シハカリノ館ハアリシニヤ。其後數年ヲ經テ明和五年ニ至リ、寶源夫人移リ住セ玉フヘキニ依テ、邸地狹隘ナレハ、西北ノ隣日向半兵衛武ノ屋敷千坪ト、本所邸ノ半ト交易アリ、是今年六月ノ事ナリ。此日向ノ屋敷モ元我邸ノ上ケ地三千坪ノ内也。カクテ都合三千三百坪餘ノ邸トナリ、此時取返サレシ千坪、今追々御館等土木アリテ、アクル六年四月寶源夫人綾姫殿後久姫殿得ノ通用門ノアタリナリ。追々御館等土木アリテ、アクル六年四月寶源夫人綾姫殿後久姫殿得ノ事ト氏ニ移リ住セ玉フ。同邸ノ南鐵炮洲ヘ渡ル橋ナリト云傳フサレト此説イカハアレシ故ノ名寄合普請ノ橋ナリシ、此事下文ニ見エ。サレハタ、我邸ノ傍ニアリト云傳フサレト此説イカハアレシ故ノ名テ寄合持ナリシヲ、安永八年八月廿一日萬年橋ノ組合ヲ御放シ、備前橋ヲ御一分ニテ御修覆等アリ、度由御普請奉行久松筑前守定ヘ御書取出サレシニ、同十月廿三日勝

手次第タルヘシトノ事ニテ是ヨリ備前橋御引受トナル。天明三年九月廿六日西本願寺ヨリ火起リ、我邸即時ニ灰燼トナル。寶源夫人火ヲ本邸ニ避玉フ。程ナク土木アリテ、明ル四年五月落成ス。同月十九日寶源夫人御移徙アリ。然ルニ又此年十二月廿六日大名小路西尾隱岐守忠ノ邸ヨリ火起リ、此火寶源夫人御移徙アリ。然ルニ又此年十二月廿六日大名小路西尾隱岐守ノ邸ヨリ火起リ、云サル故ニヤ。今モ此火ヲ機田火事ト云習ハセリ。西北ノ風強ク大火トナリ、此邸又類燒ス。ヤカテ又館造ラレ、太夫人移ラセ玉ヒ、寛政六年閏十一月廿二日爰ニシテカクレサセ玉ヒヌ。夫ヨリ十餘年ヲ經テ文化元年當世子移ラセ玉フヘキタメ修造アリテ、アクル二年正月廿六日御移徙アリ。爰ニ住セ玉フ事十一年ニシテ、同十二年二月廿四日日本邸ノ西殿ニ移ラセ玉フ、同三年四月廿七日掃部助政此邸ニ移ラセラル。是ヨリ先本邸ノ西殿ニオハセシニ、去年秋西殿改造。此邸置レシヨリ今年政元年。マテ百十五年也。

備藩邸考

森元町土器町。狸。新堀尾。本邸

一、寶永元年十月廿六日築地屋敷ト松平伊豫守池田ノ狸穴屋敷ト取換。御記錄。

一、同二年六月屋敷普請出來。奉行御記錄。子爵戸澤家回答

阿部五代目豐後守正喬幼名善七郎。後出

同月寶永元年九月。廿二日正喬部屋住料一萬石并正武宅地可差上之旨願書出、處、十月九日同氏遠江守正房被爲召、豐後守西丸下宅地并御殿屋敷願之通被召上、御殿作事之分被下置、飛驒守鍛冶橋宅地被召上、永井伊賀守櫻田之宅地拜領之。

寛政呈譜

元費省略令
元費省略令
事蹟

三日庚午

○寶永元年(紀元二三六)四月十日。○庚午、三正綜覽。

諸有司ニ元費省略ヲ令ス。

○大成令。常憲院殿御實紀。

元費省略令 左ノ如シ。

寶永元年十月三日

覺

去年より何角御物入共多御手控らへ罷成故御切米又者御拂方被下事も、至來年いへ、差控らへ可申。何方よりも出可申所無之付御用金差上積之各申合。此上罷成たけハ諸事請取物又ハ御拂方共之何ニよらば減少様ニ、無遠慮吟味可仕。たとひよ分之義ニ多も積りいへ、御勝手之爲ニ罷成事ハ間、隨分精を入相考可申。只今迄仕來い義ニ多も、當分相止障ニ罷成義ハ、格を改可申。二三年も相延い多不苦義ニ、其趣相考、存寄之趣キ、其支配々迄書付可差出。以上。申。○寶永十年。

- 寺社奉行 御留守居 大御番頭 御書院番頭 大目付
- 町奉行 御勘定奉行 御作事奉行 御普請奉行 長崎奉行
- 山田奉行 日光奉行 西丸御留守居 火消役 御目付
- 御舟手 御納戸頭 御腰物奉行 小普請奉行 御右筆組頭
- 道奉行 御馬方 御賄頭 御細工頭 御臺所頭
- 御同朋頭 御數寄屋頭

大成令

千人組防火

千人組防火
制事蹟

七日甲戌

○寶永元年(紀元二三六)四月十日。○甲戌、三正綜覽。

八王子

○武藏國多摩郡。

千人組ニ、江戸防火ヲ命

ズ。○柳營日記。常憲院殿御實紀。

千人組防火制 相傳フ、

七日○寶永元年十月。○中略。

千人組之者共三組三百人、頭三人相添、江戸に相詰、出火之節、防火可申。勤方居所之儀、追ふ可被、仰付旨、御鎗奉行に被、仰渡之。○書入御鎗奉行中へ左之書付渡之。

一、八王寺ニ罷在い千人頭三組三百人、頭三人、江戸明不申様替々相詰、向後火之番

可勤い罷在い所之儀、且又勤方ハ、追多可申渡い間、右之通可申付い。
一、日光勤番之儀ハ、只今迄之通可被相心得い。

十月

柳營日次記

七日○寶永元年十月○中略。けふ、鑓奉行して、八王寺千人頭に令せらるゝは、三隊三百人、其頭三員かはるがはる府へまかり、今より後火番つとむべし、居所并に勤のさまは、追て令せらるべし、日光勤番は、是迄のごとく心得べしとなり。
常憲院殿御實紀

十二日己卯

○寶永元年紀元二三六四年十月○己卯、三正綜覽。

消防制ニ關シテ令スル所有リ。○柳營日

消防制
消防制事蹟

次記。常憲院殿御實紀。

消防制 令有リ。云フ、

十二日○寶永元年十月

井上大和守○正御目付に被相渡御書付之寫、

板倉伊豫守○重

池田内匠○政

市橋外記○信

出火之節、方角ニ無構罷出火消可被申い。併遠方ニ定火消も不相越場所、定り有之い間被承合、定火消不參所にて參ニ不及い。

一、毎日壹人宛被相殘、小火之節ニ不及罷出い。勿論及大火い得之可被出い。

一、最前を申渡い通、火消道具まとひ革羽織等、目立不申、美々敷無之様ニ可被致い。以

上。

柳營日次記

十二日○寶永元年十月○中略。けふ、板倉伊豫守重同池田内匠政倚市橋外記信直へ仰下されしは、火災のとき、方角にかゝはらず、まいりて撲滅すべし、されど遠地にて定火消役もまからぬ所は、かねてより定制あれば、定火消役にとひて、おなしく心得べし、毎日一人づゝはのこり、小火のときは出るに及はず、大火に及はゞいづべし、前令のごとく、防火の器械あるは、纏、革羽織等、華美になすべからずとなり。
常憲院殿御實紀

〔附記〕城門石垣等取締

柳營日次記寶永元年十月十二日ノ條、井上大和守御目付に被相渡御書付之寫ト題スル内、又左ノ令ヲ載ス。

頃日所々御門并長屋之金物はつし、又ハ川端土手石垣杯之土盜い間、石垣等損可申い間、隨分心を付可被申い。尤火之元改ニ相廻りい御徒目付にも其段申渡、うろん成もの及見いハ、捕い様可被致い。并所々辻番之ものへも右之趣急度申付い様ニ、辻番改之御徒目付に可被申渡い。以上。

十三日庚辰

○寶永元年紀元二三六四年十一月○庚辰、三正綜覽。

火消役五隊ヲ減ズ。○寶永元錄。柳營日次記。憲廟實錄。常憲

火消役減隊
事蹟

實院殿御
火消役減隊 左ノ如シ。

十三日○寶永元年十月

殷昌期

定火消
本多彌兵衛法政
本多修理能忠
關伊織久盛
能勢治左衛門方額
小出主計利尹

右五人御減被成い之付、御役御免被成い。
右之屋鋪依方角與力同心共御減被成い。本多修理儀と、只今迄之御役屋敷作事等相應
之被下旨、老中申渡之。

十三日寶永元年十月十日 火消本多彌兵衛本多修理能勢治左衛門小出主計關伊織免れ。依て五
組を省く。
——寶永元錄〇柳登日次記同
——憲廟實錄

十三日寶永元年十月十日 火消役五隊を減せらる。よて本多彌兵衛政法能勢治左衛門頼方本多
修理忠能小出主計尹利關伊織久盛職ゆるさる。
——常憲院殿御實紀

寶永元甲申年十月十三日五組御減少被仰付。駿河臺土手代官町濱町鼠穴神樂坂也。右
與力同心不殘御暇被下、其後不殘諸組に御入人之被仰付。〇中略
寶永元申年十月十三日五組御減少之分、左之通。

鼠穴御役屋敷

永井十左衛門孟直 萬治二亥年八月廿一日。
池田帶刀清長 寛文八申年十二月九日。
内藤采女有信 延寶五巳年六月廿九日。

石河藏人代貞 貞享二巳年正月廿一日。
大森三次郎隆額 元祿元辰年十月廿二日。
遠山七之丞清伊 同十二卯年九月朔日。
小出主計利伊 同十二卯年十二月廿八日。

代官町御役屋鋪

内藤彌三郎額重 萬治三子年十一月廿一日。
安藤内藏助廣重 寛文三寅年三月十八日。
岡部數馬敏正 延寶九酉年九月廿八日。
酒井伊勢守英忠 元祿〇八亥年二月二十八日。
能勢次右衛門方額 同八亥年六月十日。

駿河臺土手通御役屋鋪

蒔田權佐行定 寛文二寅年二月八日。
上田彌右衛門則重 延寶三卯年三月十日。
坂部三十郎象廣 元祿〇六酉年九月十五日。
本多源兵衛法政 元祿〇八亥年七月十八日。
濱町御役屋鋪 同十寅年七月廿八日。
關伊織久盛 元祿八亥年三月十八日。

牛込神樂坂御役屋鋪

松平豊前守以勝

本多修理能忠

以上寶永元年御減少。

元祿八亥年三月十八日。

同十五年二月廿八日。

附記
備夫救濟

〔附記〕備夫救濟

廿日寶永元年

御書付出、

覺

所々御普請相濟之付、日用之罷出ハ者大勢、在所へも參兼、致流浪有之由相聞ハ間、左様之者有之ハ、可申出旨相觸之、申出ハ、在所へ段々可被返ハ、自分として歸兼ハそのハ、御料ハ御代官私領ハ地頭へ可相渡ハ、若品有之而右之むきへ渡しハらさきそのハ、當分其町々預ケ置人別ニ書立可被出之。

右之通相觸之上、若隠し置於不申出者、可爲曲事、旨可申渡之。

右三奉行へ渡之、且火之元改御目付へハ度々相廻り、御徒目付御小人目付も切々廻し可被申旨。

——柳營日次記

利根川荒川
修治

廿一日戊子寶永元年(紀元二二六六)四月十四日幕府利根川荒川修治ノ役ヲ起シ、高知土佐國城主山内豊房土佐守久保田後國城主佐竹義格次源人吉後國城主

相良頼福志摩守廣瀬雲國邑主松平近朝人正ニ命シテ工ヲ助ケシム。十一月五日辛丑寶永元年(紀元二二六六)四月十四日關東郡代伊奈忠順衛門等普請掛ヲ命セラル。二年乙酉寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守持場成功受賞シ、十八日辛巳寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守物ヲ賜フ。廿三日丙戌寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守閏四月朔日甲午寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守賞ヲ受ケ、五日戊戌寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守五日戊申寶永二年(紀元二二六七)四月十四日四月十四日酉丁丑山内豊房土佐守掛員ノ行賞有リ。柳營日次記。寶永元年錄。寶永二年。憲廟實錄。常憲院殿紀。御賞。

利根川荒川
修治事蹟

利根川荒川修治 亦大水善後施設ノ一ナル可シ。

助役。

廿一日寶永元年松平土佐守豊隆佐竹源次郎義格相良志摩守頼福松平隼人正朝近利

根川荒川を浚る人夫を出ル。

廿一日寶永元年

——憲廟實錄

松平土佐守房豊

松平隼人正朝近

佐竹源次郎格義

相良志摩守頼福

右之利根川荒川川浚御普請御手傳被仰付之旨、老中申渡之。

柳營日次記元寶永

一、同年十寶永元 廿一日、利根川荒川御普請御手傳被仰付。松平土佐守。佐竹源次郎。

松平隼人正。相良志摩守。甘露叢

廿一日年十寶永元 松平土佐守豊房佐竹源次郎義格松平隼人正近朝相良志摩守頼福、利

根川荒川の浚利に人夫出すへしと命せらる。常憲院殿御實紀

掛員任命。

五日年十寶永元

御代官 伊奈半左衛門順忠

平岡三郎右衛門宣尚

小長谷勘左衛門綱正

今井九右衛門直兼

諸星内藏助政同

比止長左衛門

柳營日次記元寶永

御代官

右之利根川荒川御普請御用被仰付之。

掛員出張。

十三日年十寶永元

御普請場の御暇。

金三枚。

同貳枚ツ。

伊奈半左衛門

今井九右衛門

同 金貳枚。

利根川荒川御普請御用罷越之付、右之通被下旨、但馬守高秋元 申渡之。元寶永 十八日寶永

月中略

利根川荒川除御普請御用罷越之付、

同五枚ツ。

御徒目付定

石丸貞右衛門通

三宅權七郎

御小人目付四人 柳營日次記

十三日年十寶永元 關東郡代伊奈半左衛門忠順并に代官等、利根荒川の浚利奉り、いと

ま給ふ。

十八日年十寶永元 利根荒川浚利にさゝれし賤吏に暇たまふ。

常憲院殿御實紀

成功授賞。

十四日年十寶永元

殷昌期

御表出御以前、松平土佐守豊山内へ今度利根川荒川筋御普請御用仕廻付、拜領物被仰付旨上意達之。

時服三十相御普請二御用

十八日寶永二年四月

檜之間

銀時服五十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

右之御普請御用相勤ひ之付被下之旨、土屋相模守出座、申渡之。
廿三日寶永二年四月

松平土佐守

松平土佐守家來

孕石主水

仙石猪太夫

村田庄八郎

長澤藤左衛門

麻田十郎右衛門

井上伴藏

出間善兵衛

小栗源兵衛

原田彌五八

西山次右衛門

時服十被下之

右同斷

朔日寶永二年四月

御白書院

時服三十

五日寶永二年閏四月

於檜之間川筋御普請御手傳被相勤ひ衆之家來御褒美被下之。

銀時服五十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

銀時服三十枚

羽折服三十枚

川筋普請仕廻二付。
同斷二付。

相良志摩守

松平隼人正

佐竹源次郎

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

同斷二付。

十四日○寶永二年略。松平土佐守豊房、利根荒川の浚利に人夫出したるをもて、時服三十た
まふ。

十八日○寶永二年略。河功の事にあづかりし松平土佐守豊房か家人等、銀時服羽織たまは
る事差あり。

廿八日○寶永二年略。相良志摩守頼福、松平隼人正近朝、河功はてしにより、時服十つゝ給ふ。
閏四月朔日○寶永二年略。佐竹源次郎義格、河功により時服三十給ふ。

五日○寶永二年略。佐竹源次郎義格、松平隼人正近朝、相良志摩守頼福家人等、河功にあつか
りしにより、銀時服羽織を給ふ。

十五日○寶永二年略。勘定奉行荻原近江守重秀、自付伊勢平八郎貞救、關東郡代伊奈半左
衛門忠順、并に代官等、利根荒川の浚利はて、歸謁し、各時服たまひ、平八郎貞救は金十
枚給ふ、屬吏にも賜物あり。

豊房○山内。兵部大輔。土佐守。從四位下。侍從。

小長谷勘左衛門
平岡三郎左衛門
諸星内藏助
比企長左衛門
天享吾妻鑑○甘露

二年○寶永。四月十四日、利根川荒川の普請を助けしにより、時服三十領を賜ひ、十八日
その事に預かれる家臣にもそのをたまふ。

義格○千代助。千代九。源次郎。大膳大夫。侍從。從四位下。
寶永二年閏四月朔日、利根川荒川の普請を助けしにより、時服三十領をたまひ、五日

家臣等にも時服白銀等をたまふ。
頼福○初長房。萬滿。采女。左兵衛。志摩守。從五位下。致仕。號梁誠。

寶永二年四月二十八日、先に上野國利根川武藏國荒川等の普請を助けしにより、時
服十領をたまひ○中五日。先に普請の事に預りし家臣等にもそのをたまふ。

正綱○傳兵衛。勘左衛門。
十三年○元。七月二十六日、御代官に復し、のち上野武藏相模駿河等の川々普請をうけ

たまはりて彼地にゆく。
十一月朔日丁酉○寶永元年。紀元二三三六。屋鋪預有リ。外ニ是月○寶永元年。紀元二三三六。四年

屋鋪授受。寶永元年十一月屋鋪ノ授受、左ノ如ク有リ。
屋鋪授受事

馬場先御門内御殿屋敷。坪數三千六百七拾貳坪。○内、建長屋貳、百八十壹坪。
東、道。南、青山伊賀守。西、秋元但馬守。北、道。

三浦明敬

馬場先御門内阿部飛彈守殿御敷上ケ屋敷三浦壹岐守^明御預ケ被成四方間數坪數右御繪圖之面并建長屋立具疊等迄御帳面を以相改相違無御座御預り申^為後日仍如件。

寶永元甲申年十一月朔日

三浦壹岐守内

成田安右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野理右衛門。右立合相改、預之。

阿部飛彈守御敷上ケ屋敷建長屋立具疊目錄

- 一、門扉 但、錠鑰有、とゞ共。 六枚
- 一、戸 但、半戸共。 百五十壹本
- 一、障子 但、半障子共。 十三本
- 一、襖 但、小襖共。 貳本
- 一、疊 但、半疊共。 貳十六疊
- 一、梯子 大小。 貳十貳挺
- 以上。

申^元寶永十一月朔日
略。

水野忠欽
牧長富

小日向臺 火消御役屋敷上ケ地 坪數三千五百九拾五坪。内建家[○] 壹陸 十六坪。
東、明地。西、道。南、土取場。道。北、がけ高廿壹間。東、七十貳間。壹尺。西、八十四間。貳尺。南、六十六間。壹尺。北、三十八間。三尺。
小日向臺小出主計利[○]尹殿火消御役屋敷上ケ地、水野左門[○]忠[○]牧七左衛門[○]寬[○]兩人[○]御預ケ被成四方間數坪數右御繪圖之面并建家立具疊長家土藏植木石等迄御帳面を以相改相違無御座御預り申^為後日仍如件。

寶永元甲申年十一月二日

水野左門内
花塚次兵衛印
牧七左衛門内
一見安左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。右立合相改、預之。

小出主計火消御役屋敷上ケ地建家立具目錄

- 一、門扉 但、錠鑰有、とゞ共。 六枚
- 一、戸 但、半戸共。 三百八本
- 一、障子 但、半障子共。 百拾壹本
- 一、襖 但、小ふをほ共。 五十七本
- 一、疊 但、半疊共。 九拾五疊
- 一、梯子 大小。 十貳挺

般昌期

一、植木 大小。
一、石 大小。

拾五本
貳ツ

申十一月二日

小日向臺小出主計殿火消御役上ヶ地屋敷御修覆殘木并諸色御帳面之通、水野左門牧七左衛門兩人に御預被成ひ之付、拙者共立合相改、相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。
寶永元甲申年十一月二日

水野左門内
花塚次兵衛印
牧七左衛門内
見安左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、預之。

圖略。

四谷御門内 火消御役屋敷 能勢治左衛門方。上ヶ地。

坪數三千七百九拾八坪。

此圖之上之張紙

本家貳千六百四拾八坪。

組屋敷千百五拾坪。

申十一月四日

四谷御門内能勢治左衛門火消御役屋敷上ヶ地坪割繪圖トアリ。

本文無之。

東、須田助之丞。鈴木八兵衛。西、榑原平兵衛。小貫吉兵衛。
南、成瀬隼人。北、道。
東、五十四間。三尺。西、三十六間。四尺。
南、七十八間。三尺。北、七十七間。三尺。

圖略。

濱町火消御役屋敷關伊織方。上ヶ地。坪數三千八百七拾三坪。内、建家千貳百五十坪。

東、北、道。西、南、青山播磨守。
東、南、永井伊賀守。西、北、堀。

東、北、六十間。壹尺。西、南、六十三間。
東、南、六十間。壹尺。西、北、六十間。

濱町關伊織殿火消御役屋敷上ヶ地、水野隼人正。忠に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具、長屋土藏、植木等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十一月六日

水野隼人正内
目賀田治部右衛門印
松原與左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、預之。

關伊織火消御役屋敷上ヶ地建家立具目錄

一、門扉 但、錠、鑑、有りとゞ共。

六枚

殷昌期

七七五

水野忠直

- 一、戸 但、半戸共。 五百六拾四本
- 一、障子 但、半障子共。 貳百五十三本
- 一、襖 但、小ふを襖共。 四十三本
- 一、植木 大小。 十四本
- 一、梯子 大小。 十六挺
- 以上。

申元寶永十一月六日

圖略

麴町 森彌五左衛門^〇定屋敷 坪數六百十六坪三合。内三十四坪七合など

東、割殘。西、道。南、織田能登守。北、道。東、貳十三間。西、貳十三間。南、貳十四間。北、貳十七間。四尺。

麴町甲斐坂遠藤源七郎殿上ヶ屋敷森彌五左衛門拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年十一月九日

森彌五左衛門内 中川安太夫印

三枝左兵衛内上野理右衛門。
右立合相改、渡之。

圖略

鍛冶橋御門内 阿部飛彈守上ヶ屋敷 坪數三千六百九拾貳坪。内、建家千六百九拾七坪。
東、林土佐守。西、道。南、道。北、酒井左衛門尉。東、六十間五尺一寸。西、六十間四尺。南、六十間壹尺。北、六十間貳尺貳寸。
鍛冶橋御門之内阿部飛彈守殿上ヶ屋敷酒井左衛門尉^〇。御預被成四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具疊長屋植木右等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預申。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年十一月九日

酒井左衛門尉内 荒加又右衛門印
根津庄左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、預之。

- 阿部飛彈守上ヶ屋敷建家立具疊植木石目錄
- 一、門扉 但、錠鑑有、之、共。 四枚
- 一、戸 但、半戸共。 千貳百九本
- 一、障子 但、半障子共。 八百九十貳本
- 一、襖 但、小襖共。 三百三十一本
- 一、疊 但、半疊共。 貳千四百三十六疊
- 一、釜 大小。 貳ッ

- 一、捕道具 大小。 六本
 - 一、寄棒 拾五本
 - 一、松明 十本
 - 一、捕繩 四筋
 - 一、石手水鉢 大小。内、壹ッ瀬戸物。 三ッ
 - 一、植木 大小。 四百六十四本
 - 一、庭石 大小。 百貳十八
 - 一、水溜桶 三ッ
 - 一、手桶 九ッ
 - 一、梯子 百十貳挺
- 以上。
- 申十一月九日
- 阿部飛彈守上ヶ屋敷土藏毀道具目錄
- 一、柱間柱共 但、長短有。 三十六本
 - 一、土臺 八本
 - 一、大引間大引共 十本
 - 一、貫小屋貫共 但、長短有。 五拾挺

- 一、根太 九本
- 一、隅木 四本
- 一、垂木 但、長短有。 三十貳本
- 一、小屋梁 五本
- 一、貳階梁 五本
- 一、飛物 六本
- 一、二階根太掛ヶ 貳挺
- 一、同根太 五十六本
- 一、軒母屋棟桁共 貳十貳本
- 一、敷居鴨居 貳挺
- 一、小屋經 貳十壹本
- 一、羽目胴縁 百四十本
- 一、棚釣り木 七本
- 一、網戸 壹枚
- 一、裏白戸 壹枚
- 一、木から戸 貳枚
- 一、窓裏白戸 三枚

一、二階梯子

一、石 大小。

一、瓦 以上。

申十一月九日

圖略。

麴町 松平出羽守屋敷割殘 坪數百六拾九坪三合。

東、松井市郎左衛門。矢部藤太夫。西、森彌左衛門。織田能登守。

南、織田能登守。本多半三郎。太夫。北、道。

東、三十間五尺。壹寸。西、三十間。

南、十壹間三尺。壹寸。北、五間五尺。

糝町甲斐坂松平出羽守殿上ケ地割殘リ私共兩人御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預リ申。并家作塀圍仕間敷。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十一月九日

矢部藤太夫印
松井市郎左衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。
右立合相改、預之。

圖略。

一、此繪圖本帳之文段無之、建具目錄計有之、付本之儘寫置之事。

矢部定行
松井義隆

服部八郎
右

本多彌兵衛^法。政火消御役屋敷立具目錄

一、門扉 但、潜り共、錠鑰有。

一、戸 但、半戸共。

一、障子 但、半障子共。

一、襖 大小。

一、梯子 但、火之見所ニ有。

以上。

申十一月十日

圖略。

小石川築地 服部八郎右衛門屋敷 坪數三百三拾坪。

東、貳十七間壹尺。西、貳十八間貳尺。

南、十貳間壹尺。北、十壹間四尺。

東、竹内平左衛門。西、道。

北、松下彦太夫。

井出藤九郎殿上リ屋敷服部八郎右衛門拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通り、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十一月廿七日

三枝左兵衛内上野理右衛門。

服部八郎右衛門内

神崎茂左衛門印

右立合相改、渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永下改元。

十一月朔日預。阿部飛騨守上ケ屋敷
一、馬場先内三千六百七拾貳坪
十一月二日預。小出主計次酒御役屋敷上ケ地
一、小日向臺三千五百九拾五坪
○一本抹消。

十一月六日預。開伊織同斷。
一、濱町三千八百七拾三坪
○一本抹消。

十一月九日預。阿部飛騨守上ケ屋敷
一、鍛冶橋内三千六百九拾貳坪
○一本抹消。

同日預。松平出羽守上ケ地割廢
麩町甲斐坂百六拾九坪三合
○一本抹消。

十一月九日渡。邊藤源五郎上ケ地
一、麩町甲斐坂六百拾六坪三合
○一本抹消。内三拾四坪五合五勺。
同日(十一月廿七日)渡。井出藤九郎上ケ地
一、小石川築地三百三拾坪

三浦壹岐守
水野左衛門
牧七左衛門
水野隼人
酒井左衛門尉
矢部藤太夫
松井市郎左衛門
森彌五左衛門
服部八郎右衛門

屋鋪授受

十二月朔日丁卯。寶永元年(紀元二三六)屋鋪受領者有リ。外ニ是月(寶永元年)十一月(寶永元年)十二月(寶永元年)屋鋪授受有リ。屋敷書拔、寬政呈請。圖證文。

屋鋪授受事

圖略。

松井宗武

裏猿樂町

松井惣左衛門屋敷。建家有。坪數九百貳拾六坪。山なとせ共。百九十坪。
東、道。水野九右衛門。西、道。南、朝比奈藤左衛門。北、大平角太夫。東、貳十九間貳尺。西、貳十五間貳尺。南、三十間三尺。北、三十九間貳尺。

八木權平殿上ケ屋敷。松井惣左衛門拜領仕。四方間數坪數。右御繪圖之面傍示杭之通。并建家立具。疊長屋塗垂植木等迄。御帳面を以相改。相違無御座。請取申。爲後日仍如件。
寶永元年甲申年十二月朔日

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、渡之。

三枝守相

四谷御門之内。火消能勢治左衛門殿御役屋敷。三枝攝津守相。殿拜領之。右殘地之内。有之建家。小普請方。御修覆并取こなし。所被仰付之。付右之建家。當分不殘。請取申。取こなし。家且又御修復場所出來い。建家帳面認直し。御預り御兩人。右帳面直し相渡置可申。旨得其意。爲後日證文仍如件。
寶永元年甲申年十二月朔日

水野權十郎様御内
永田庄助殿

圖略。

四谷御門内。三枝攝津守屋敷。建家有。坪數貳千坪。
東、須田助之丞。西、御用屋敷。南、割残り。北、道。

般昌期

東、四十八間五尺。西、三十間壹尺。東北、七間五尺。南、四十九間四尺。北、四十七間。四谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷上ケ地之内、三枝攝津守拜領之、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、并建家立具長屋土藏、右等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十二月朔日

三枝攝津守内 齋藤 奎之丞印

水野權十郎内永田庄助。

鈴木武右衛門印

右立合相改、渡之。

圖略。

四ッ谷御門内 火消御役屋敷上ケ地割残り 坪數六百貳拾坪。

東、鈴木八兵衛。西、割残り。北、三枝攝津守。南、道。東、十六間貳尺。西、十壹間三尺。南、四十八間五尺。北、四十九間四尺。

四ッ谷御門内能勢治左衛門殿火消御役屋敷上ケ地割残り、三枝攝津守に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十二月朔日

三枝攝津守内 齋藤 奎之丞印
鈴木武右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

三枝守相

林押田勝與
正榮

大瀬光房

右立合相改、預之。

圖略。

四谷御門内 御用屋敷 坪數千七百七拾八坪。

東、三枝攝津守。割残り。西、榑原平兵衛。小貫吉兵衛。南、道。東、四十三間四尺。西、三十六間四尺。南、四十九間壹尺。北、三十間三尺。

四ッ谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷上ケ地之内、押田兵庫與、林主水、正榮、兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面建長屋共、相違無御座御預り申い。但し建長屋之儀、之小普請方、此度修復有之、之付出來次第、之立具等迄相改、追々小普請方、請取預ケ置可申旨奉畏い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十二月朔日

押田兵庫内 中村 傳 藏印
林主水内 岡田 惣右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、預之。

圖略。

市谷 大瀬貞右衛門房。預り 坪數九拾坪。

東、道。東、大瀬貞右衛門。西、町屋。南、大瀬貞右衛門。北、源四郎預ケ代。伊兵衛預ケ代。東、七間五尺。西、貳間。南、十八間壹尺。北、十八間。

殷昌期

同 坪數拾坪、源四郎○湊預りらけ代。

東、道。南、大瀬貞右衛門預り地。西、伊兵衛預り地。

東、西、北、南、十間。

同 伊兵衛○町田預り地、坪數八坪。らけ代。

東、源四郎預り地。南、大瀬貞右衛門預り地。西、町田伊兵衛。

東、西、北、南、十間。

市谷長圓寺谷土取場跡私共三人に御預け被成四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申い。并家作仕間敷い。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年十二月三日

大瀬貞右衛門印

湊源四郎印

町田伊兵衛印

三枝左兵衛内上野理右衛門。
右立合相改、預之。

圖略○

小川町 石黒四兵衛上り屋敷 坪數八百貳十五坪。建家有。

東、水野伊豆守。西、藥師寺宗仙院。
南、道。北、東、宗雲、小川新右衛門。

東、十七間五尺五寸。北、四十九間壹尺。

小川町石黒四兵衛殿上り屋敷松平志摩守○直に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年十二月十一日

松平志摩守内
平山國助印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

平野善三郎、清水喜兵衛、原五郎左衛門、中村半治。

右立合相改、預之。

圖略○

鍛冶橋御門内 青山備前守屋敷 坪數三千六百九十貳坪。建家有。

東、林土佐守。西、道幅八間三尺。
南、道八間三尺。北、酒井左衛門尉。

東、六十間壹尺。西、六十間四尺。

鍛冶橋御門之内阿部飛彈守殿上り屋敷青山備前守○秘拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元年申十二月十三日

青山備前守内
齋藤德右衛門印

田邊利兵衛印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野理右衛門。

水野忠明

圖略○

右立合相改、渡之。

小川町

水野孫太夫屋敷建家有。坪數八百貳十五坪。

東、水野伊豆守。西、藥師寺宗仙院。
南、道。北、宗雲。小川新右衛門。

東、十七間五尺五寸。西、十九間。
南、四十五間貳尺。北、四十四間壹尺。

小川町石黒四兵衛殿上ヶ屋敷水野孫太夫明。拜領仕ひ。四方間數坪數右御繪圖之面

并建家立具疊長家植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年十二月十五日

水野孫太夫内
小川儀右衛門印

三枚左兵衛内上野理右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略○

馬場先御門之内朱書二篇十二月廿二日開部越前守之渡。青山備前守上ヶ屋敷建家有。坪數貳千六百拾五坪貳合。内建家九百四拾三坪。

東、道。西、秋元但馬守。
南、道。北、御殿地。

東、四十八間。西、四十四間五尺。
南、五十八間。北、五十五間三尺。

青山備前守殿上ヶ屋敷松平伊賀守周。御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面并

建家立具疊長屋土藏植木石等迄御帳面を以相改相違無御座御預リ申ひ。爲後日仍如件。

松平忠周

寶永元年甲申年十二月十五日

松平伊賀守内
仙石段右衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

青山備前守上ヶ屋敷立具疊植木石目錄

一、門扉 但、錠鑰有、と、共。 三枚

一、戸 但、半戸共。 三百七十壹本

一、障子 但、半障子共。 三百貳十四本

一、襖 但、小ふ花共。 百三十五本

一、疊 但、半疊共。 千四十八疊

一、梯子 大小。 三拾挺

一、植木 大小。 十九本

一、石手水鉢 大小。 貳ッ

一、石 大小。 七拾

以上。

寶永元年申十二月十五日

圖略○

濱町 永井伊賀守拜領屋敷 坪數三千坪

殷昌期

永井直敬

東南、永井伊賀守。西北、割餘。西南、青山播磨守。
 東道。北、道。西、稻葉與市右衛門。
 東南、六十二間。三。尺。西北、六十三間。
 東北、四十七間。西南、四十八間。
 濱町關伊織殿火消御役屋敷上ヶ地之内、永井伊賀守〇直拜領仕〇。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申〇。爲後日仍如件。
 寶永元甲申年十二月十六日
 永井伊賀守内
 小池吉左衛門印
 大竹十左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野利右衛門。
 右立合相改、渡之。

圖略

稻葉勝信

濱町 稻葉與市右衛門添地 坪數二口拾五坪九合。
 東道。西、稻葉與市右衛門。
 南道。北、稻葉與市右衛門。
 谷之御藏跡稻葉與市右衛門〇。屋敷南方新道之内添地拜領仕〇。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申〇。爲後日仍如件。
 寶永元甲申年十二月十六日
 稻葉與市右衛門内
 石井次兵衛印
 村田澤右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
 右立合相改、渡之。

青山幸督

圖略

濱町割餘リ 坪數九百五拾六坪。
 東道。西、青山播磨守。
 東、永井伊賀守。西北、堀。西南、十五間。壹尺。
 東北、十五間。壹尺。西南、十五間。壹尺。
 東南、六十三間。西北、六十四間。壹尺。
 濱町關伊織殿火消御役屋敷上ヶ地割餘リ、青山播磨守〇幸督〇御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預リ申〇。爲後日仍如件。
 寶永元甲申年十二月十六日
 青山播磨守内
 枝村助右衛門印

圖略

濱町道拾貳坪貳合。
 東道。南、松平壹岐守。大岡五郎右衛門。西、稻葉與市右衛門。
 南、松平壹岐守。大岡五郎右衛門。北、稻葉與市右衛門。
 東北、壹間三尺。西北、七間二尺。
 谷之御藏跡大岡五郎右衛門屋敷裏道則五郎右衛門〇御預ヶ被成、右御繪圖之面相違無御座御預申〇。爲後日仍如件。
 寶永元甲申年十二月十六日
 大岡五郎右衛門内
 澁谷彌市右衛門印

大岡清相

元祿十七甲申年四月寶永下改元。

- 十二月朔日渡。八木權平上ケ屋敷
- 一、裏猿樂町九百貳拾六坪
- 一本、但建家立具疊長屋垂植木共
- 同日渡。火酒御役屋敷上ケ地之内
- 一、四谷門内貳千坪
- 一本、但建家立具疊長屋土藏共
- 十二月朔日渡。火酒御役屋敷上ケ地割殘
- 一、四谷御門内六百貳拾坪
- 同日渡。同前
- 一、同所千七百七拾八坪
- 十二月三日預。土取場跡
- 一、市谷長淵寺谷百八坪

- 十二月十三日渡。阿部飛騨守上ケ屋敷
- 一、鍛冶橋内三千六百九拾貳坪
- 一本、但建家立具疊長屋土藏植木石共
- 十二月十五日渡。石黒四郎兵衛上ケ屋敷
- 一、小川町八百貳拾五坪
- 一本、但建家立具疊長屋植木石共
- 十二月十六日渡。火酒御役屋敷上ケ地之内
- 一、濱町三千坪
- 十二月十六日渡。屋敷南之方新道之内
- 一、谷之御藏跡拾五坪九合
- 同日渡。屋敷裏道
- 一、同所拾貳坪貳合
- 同日渡。火酒御役屋敷上ケ地割殘
- 一、濱町九百五拾六坪
- 一本抹消
- 十二月廿一日預。三枝攝津守上ケ屋敷
- 一、麻布千六百坪

- 同○役名不知
- 松井惣左衛門
- 同
- 三枝攝津守
- 役名不知
- 三枝攝津守
- 同
- 押田兵庫
- 同
- 林
- 同
- 大瀬貞右衛門
- 同
- 湊源四郎
- 町田伊兵衛
- 同
- 青山備前守
- 役名不知
- 水野孫太夫
- 永井伊賀守
- 役名不知
- 稻葉與市右衛門
- 同
- 大岡五郎右衛門
- 同
- 青山播磨守
- 龜井隱岐守

- 同日渡。青山備前守上ケ屋敷
- 一、馬場先御門内貳千六百拾五坪餘
- 一本、但建家立具疊土藏植木石共
- 十二月廿三日預。藤澤八郎右衛門上ケ地
- 一、内藤宿百坪

- 間部越前守
- 小林吉太夫組切手番
- 星野長左衛門
- 加藤茂右衛門組切手番
- 高尾與右衛門
- 兩人預地
- 屋敷書拔

詮房初右京。政官内。間部越前守。

同年。○寶永元年十二月。同月十一日馬場先御門内青山備前守上り屋敷拜領。

源忠稠。從五位下。右京亮。始右京忠登。幼仙千代。

寶永元年甲申年十二月。日不。深川八幡前下屋鋪芝下高輪之町二千七百坪と引替願之通

被仰付い。寛政呈譜

附記 屋鋪地收

元祖名乘不知。太田監物。

權現様御鷹野被爲成い節、監物○寛政重修諸家譜信盛二作ル御供仕い。右御成先御馬上之御乘廻被遊御足跡附い内之、小身之有之い間爲勝手下屋敷之被下置い旨奉蒙上意、於目白臺六萬坪餘屋敷拜領仕い由、代々申傳所持仕い。寶永元年申年右屋敷五萬九千坪餘御用地之被召上、千坪屋敷御殘被下置、今以所持仕い。權現様御鷹野被爲成い節、監物御供仕い。右御成先奉蒙上意、武州豐島郡長崎村鼠山壹萬貳千坪餘林共爲勝手被下置い旨申傳、代々所持仕い。

殷昌期 寛政呈譜 七九五

社寺異動

是年○寶永元年(紀元二二六四年)社寺ノ異動若干有リ。○文政寺社帳。拜領寺社帳。御朱印拜領地。寺社

帳。屋鋪波預繪圖證文。屋敷書拔。府内誌殘編。

社寺異動事

寶永元年ノ社寺異動左ノ如シ。

富山町稻荷社及別當光寶寺

富山町稻荷社及別當光寶寺 覈査ノ上寺社帳ニ張紙ス。

蹟

一、當地古跡年數不知

增上寺臺門前
稻荷社
青龍寺末寺禪宗
別當光寶寺

開地

一、當地別當四拾七年。

一、寺内東西拾七間。南北拾五間。

增上寺院内古跡

增上寺臺門前
富山町稻荷社

南之方ニ多東西へ九間四尺。北之方ニ多東西へ九間。南北へ拾九間三尺。

外六拾六坪 光寶寺へ借置。

右同所 西久保青龍寺末
曹洞宗 光寶寺

一、境内貳百貳拾貳坪。

外稻荷社地之内六拾六坪預り地。

右證文ニハ五拾壹坪と有之。此度相改い處、拾五坪過、合六拾六坪。

釋地大明
神宮

釋地大明神宮 改造。

古跡除地

一、境内四拾八坪。

下高輪 名主支配。

右釋地之宮、丹波國永澤寺末寺禪宗南山寺致支配い處、住持病氣ニ付、先年寺號潰本國

殷昌期

今度富山町之者共、稻荷神職之者指置度旨、寺社奉行所へ願出い處、社地并ニ光寶寺地共ニ増上寺境内之由申之ニ付、光寶寺方相尋い得之、社地寺地共ニ除地と申之。寺社方帳面ニ爰除地別當光寶寺と相載有之ニ付、重々遂詮議い處、社地ハ從古來所之氏子共致支配、散錢爰所へ相納、祭禮之雜用ニ任來い。光寶寺急度別當と申證據無之、其上先年社地之内五拾壹坪光寶寺へ借置い由ニ多、寛文三卯年増上寺代官奥住平七方へ取置い借地證文、今度富山町名主伊左衛門指出之。然上ニ社地ニ増上寺境内ニ無紛之條、先規之通光寶寺方より借地證文可指出い。光寶寺境内地面之儀、除地之證據不分明い。又増上寺境内ニ多數十年之間地面之沙汰も不任可指置無謂い、重々双方ニ慥成證據爰有之いハ、可申出い。其節遂吟味、地面相極可申い。夫迄ニ唯今迄之通り可相心得い。神主願之儀、氏子共相談ニ多、差置可申之勝手次第ニ。寺社奉行所よりハ不申付い。稻荷社用等之儀、光寶寺前々勤來い通ニ可相勤旨、双方へ申渡之。社地寺地坪數相改、右之趣寺社方帳面致張紙い旨、寺社奉行衆より連印之斷手紙を以て申越い。依之寶永元甲申年七月、右之趣申上、御張紙差上之。

地子古跡寺社帳

へ引込、明神宮地之名主へ相返、名主致支配。有來三尺四方外覆有之宮致被損候之付取毀、此度九尺四方茅葺建、貳間之拜殿附之、有來鳥居修復并之惣圍南東三拾四間丸太矢來、内壹間之明格子引戸板屋根致し度旨相願ひ之付、見分之者遺、被遂吟味、處障儀無之、付差免之。且坪數前々之百坪在之、處之、拾年以前亥年檢地之節五拾貳坪減、水帳之面四拾八坪之罷成候由證文差出候之付、寺社方帳面直置候旨、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越ひ、依而寶永元甲申年十月右之趣申上、御帳面張紙仕候。

——地子古跡寺社帳

谷中稻荷社

谷中稻荷社 社地上野役人屋鋪ト共ニ、公收セラレ、中堂領其他ニ於テ代地ヲ支給セラ

ル。

谷中 稻荷屋敷代地 坪數二百拾六坪五合。

東、明地。南、上野役人五人分屋敷代地。西、道。北、道。

東、西、十七間四尺六寸二分。南、北、十二間一尺壹寸二分。

同 上野役人五人分屋敷代地 坪數四百貳拾五坪。

東、三十四間三尺三寸二分。西、三十五間一尺三寸。南、十二間一尺一寸。北、十二間一尺一寸。

上野役人五人屋敷并稻荷宮地共ニ御用地ニ被召上、爲代地、同所屋敷續所中堂領之内并知光院上ヶ地之内墓所ニ多無之所、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數右御繪圖之

面御定杭之通相改、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月十日

御官方護法院支配

星野 松 知印

同 田 中 松 立印

同 中村 善 右衛門 印

御佛殿方東漸院支配

原 田 源 七印

同 勸善院支配

鈴 木 彈 助 印

稻荷宮地支配田村權右衛門手代

平野 伊 兵 衛 印

——屋鋪渡預繪圖證文

稻荷宮地支配上野目代

田 村 權 右 衛 門

同 星 野 松 知

同 田 中 松 立

同 上野御官方護法院支配

中 村 善 右 衛 門

同 上野御佛殿方東漸院支配

原 田 源 七

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

同(三月十日)渡同斷(○中堂領之内)并知光院上ヶ地之内

一、同所○谷貳百拾六坪五合

但、上野附稻荷宮地右同斷。○御用地ニ被召上候。

三月十日渡。中堂領之内并知光院上ヶ地之内。爲代地、元坪之通被下。

一、谷中四百貳拾五坪。村權右衛門手代平野伊兵衛。

但、上野役人五人元屋敷御用地ニ被召上、爲代地、元坪之通大繩ニ多渡す。

清水稻荷社

清水稻荷社 轉地。

同 同勸善院支配
鈴 木 彈 助
屋敷書拔

一、元祿十六未年法恩寺上ヶ地跡之替地上野御用地ニ相成候ニ付、同十七申年三月十日谷中智光院上ヶ地之内ニ勿替地拜領仕候。

經覺寺

經覺寺 寺社帳改訂。

淺草駒形八軒町
清水稻荷大明神略○中

一、寺内貳百貳拾坪。

一、當地百年餘

右之外町並之所買添。

一年數同斷。

一、寺内表五間。裏へ四間半。

一、家寺を差置、町役仕。

右二ヶ所勢州四ヶ市御代官佐野平兵衛借地。

右坪數亥年八〇元祿御檢地之系五坪増貳百八拾五坪之成申由、名主申由。

右坪數之内亥年八〇元祿御檢地之系貳拾七坪減、貳百八拾四坪之成申由、名主申由。

平兵衛借置の所、年季明、酉八月地を返し申聞、寺を取立申由、同月七日之住持申來。

一、境内貳百拾貳坪

築地本願寺末
經 覺 寺

右芝金杉築地本願寺末經覺寺、此度屋作寺社奉行所へ願出由、寺内之儀故差免、境内坪數寺社方帳面之貳百貳拾坪と在之相違ニ付、遂吟味處之、元祿八亥年檢地之節、貳百拾貳坪之相極由、所之名主證文差出由、依之、寺社方帳面相改由、旨、永井伊賀守直方より斷手紙を以て申越由、依之、寶永元甲申年四月右之趣申上、御張紙指上之。

地子古跡寺社帳

光圓寺

光圓寺 寺社帳改訂。

淺草本願寺末 西久保切通
光 圓 寺

一、境内四百八拾三坪

右淺草本願寺末西久保切通光圓寺屋作寺社奉行所へ願出候ニ付、境内坪數寺社方帳面四百貳拾坪と在之相違ニ付、遂吟味處、元祿八亥年檢地之節、四百八拾三坪之相極由、所之名主證文差出由、付、寺社方帳面相改由、旨、永井伊賀寺直方より斷手紙を以て申越由、依之、寶永元甲申年十月右之趣申上、御帳面相直之。

地子古跡寺社帳

德明寺

德明寺 本願寺兼帶所ト爲ル。拜領寺社帳左ノ如シ。

境内千三百四拾七坪餘。

白金村二本覆 德明寺

内、七百五拾坪。借領之時分より年貢之元祿十七甲申年二月德明寺先住不届有之、去夏追放申付、無住罷成。依之向後看坊差置。間本願寺兼帶所之肩書相直度由申出。之付、願之通帳面相直、此段屋敷改間宮靱負松下與兵衛方へ伊賀守より以手紙申遣。

寶塔寺

寶塔寺 寺社帳改訂。

一、當地百貳拾八年

一、社内四千四拾坪。

下大崎村 子宮
山王門徒 別當 寶塔寺

〔地子古跡寺社御帳之内、下大崎村寶塔寺と有之。〕中略。

除地古跡 一、境内千八百三拾九坪。

山王觀理院末 寶塔寺

一乘寺

一乘寺 寺社帳改訂。

右山王觀理院末下大崎村寶塔寺作事、寺社奉行所へ願出。之付、境内坪數寺社方帳面四千四拾坪と有之相違。之付、遂吟味。處、元祿八亥年檢地之節、千八百三拾九坪之相極候由、所之名主證文差出。之付、寺社方帳面相改。旨、永井伊賀守方より斷手紙を以て申越。依之寶永元甲申年十月右之趣申上、御帳面相直之。——地子古跡寺社帳

道源寺

道源寺 寺社帳ヲ改訂シ、及門前町屋ノ模様替ヲ許可ス。

一、境内三百六拾八坪。

西久保三德寺末 源寺

一、門前町屋壹軒間口三間。

右麻布今井谷町西久保三德寺末淨土宗道源寺門前町屋壹軒間口三間之所、舊冬類焼、其後地震之町屋裏之方崩れ。有、表之方之間四方程相殘、住居難仕。之付、地續南之方へ間口四間之町屋建之、唯今迄之表店間口三間と南へ壹間之所、外之打廻し四間扉を掛有來。處、表口三間に仕、其外之表口を塞勝手之仕度旨、寺社奉行所へ願出。之付、見分、もの遣之、遂吟味。處、障儀無之に付、願之通り差免。之、町屋表間口三間之外表へ口明、中間敷旨證文申付、且亦境内坪數三百七拾三坪と書出し、寺社方帳面之相違有之。之付、伊奈半左衛門方承合候處、三十四年巳前亥年檢地之節、三百貳坪と帳面之相載候處、元

祿八亥年織田越前守久信檢地之節、境内三百六拾八坪之罷成由申來由付、寺社方帳面張紙候旨、阿部飛驒守正方より印形之斷手紙を以て申越由、依之場所、遂見分相違無御座候に付、寶永元甲申年六月右之趣申上由處、願之通り爲仕候様之被仰渡、則相違之御帳面相直之。

龍潭寺

龍潭寺 寂靜寺ヲ移シテ改宗改號ス。

一、境内百壹坪 年貢地。

外、抱地、四百五拾七坪。

抱地、屋敷四拾貳坪。

麻布本村 上州黒瀬不動寺本寺
黄蘗派 龍潭寺

芝西應寺町東本願寺末寂靜寺、貧寺之多相續難成之付、麻布本村黄蘗派長光庵竹堂へ寺號讓渡、度段竹堂儀、爲寺號讓請、伊奈半左衛門御代官所、麻布本村年貢地六百坪之所、京橋南壹丁目庄左衛門店町人六右衛門抱地を數年致借地罷有由、願相叶由、右抱地と寂靜寺寺地引替可遣由、六右衛門申由間、麻布本村へ寂靜寺引移、黄蘗派之致改派住寺仕度由、寺社奉行所へ願出由付、遂吟味御老中へ伺之上、麻布本村へ寂靜寺を引移、六百坪之内之多寂靜寺元坪數之通り、百壹坪寺地渡之、殘抱地と寺地との間、致生垣境相立、殘る四百五拾七坪ハ抱地之任、抱地入口に有來門用之門内四拾貳坪之所ハ寺と抱地へ之道之用之、左右之致生垣、北之方之抱地入口四尺之口を明、枝折戸を附可致、通路由、其外抱地へ之口一切不明之、抱地に在來立家四拾六坪半之外、堅作事不仕、卵塔

大泉寺

大泉寺 寺社帳改訂。

一、境内三百四拾八坪

甲州大泉寺末 麻布今井寺町
禪宗 大泉寺

右甲州大泉寺末麻布今井禪宗大泉寺、阿部飛驒守勤役之節、作事願出、差免之、境内坪數寺社方帳面四百三拾七坪と有之、相違之段申送由付、御代官伊奈半左衛門方被承合由處、元祿八亥年檢地之節、三百四拾八坪之相極由申來由付、猶又見分之者、差遣し被、遂吟味由處、大泉寺書出由坪數相違無之に付、寺社方帳面致張紙由、本多彈正少弼晴方より印形之斷手紙を以て申越由、依之寶永元甲申年十二月右之趣申上由、御帳面相直之。

法音寺

法音寺 寺社帳改訂。

一、境内三百九拾四坪

芝泉岳寺末 麻布今井村
曹洞宗 法音寺

一、門前町屋五軒 惣小間拾四間半。

右芝泉岳寺末麻布今井村曹洞宗法音寺作事、寺社奉行所へ願出由處、寺社方帳面四百

六拾貳坪半と有之、坪數相違ニ付、伊奈半左衛門方開合候處、半左衛門方帳面三百九拾四坪と有之、元祿八亥年檢地之節、後増減無之旨申來いニ付、猶又見分遣被、遂吟味い處、法音寺書出い坪數相違無之故、寺社方帳面致張紙、門前町屋小間相改い旨、本多彈正少弼方より印形之斷手紙を以て申越い。依之寶永元甲申年十月右之趣申上、御帳面相直之。

願生院

願生院 外一人ト共ニ、赤坂寺町ノ上ケ地ヲ預ル。

圖略○

赤坂寺町 山本理圓上ケ地 坪數百三拾坪。

東、大塚宗佐。西、小野友閑。南、廣小路。北、道。

東、貳十四間。西、貳十四間。南、五間二尺五寸。北、五間貳尺七寸。

同 小野友閑屋敷 坪數百三拾坪。

東、山本理圓。西、稻荷別當願生院。南、廣小路。北、道。

東、西、貳十四間。南、北、五間二尺五寸。

赤坂寺町 山本理圓小野友閑上ケ地、兩人ノ御預ケ被成、四方間數略○中 御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月十八日

三寶院末 願生院印
大塚宗佐印

大塚宗佐

城田半三郎

三枝左兵衛内高山庄左衛門。右立合相改、預之。

圖略○

赤坂割餘坪數八拾六坪六合六勺。

東、城田半三郎。西、稻荷別當願生院。南、廣小路。北、道。

東、西、貳十四間。南、北、三間三尺六寸餘。

赤坂寺町小野友閑上ケ地割殘り、兩人ノ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申い。勿論家作塀圍仕間敷い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿五日

三寶院末 願生院印
古川善喜支配 城田半三郎印

三枝左兵衛内上野理右衛門。右立合相改、預之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

同日○九月十八日預。山本理圓小野友閑兩人上ケ地。一、赤坂寺町 貳百六拾坪。

○一本抹消。

同日○十月廿五日預。小野友閑上ケ地割餘り。一、同所○赤坂八拾六坪六合六勺。

○一本ニ、本證文無之、寫證文ニ而書被。

般昌期

三寶院末 願生院
大塚宗佐
三寶院末 願生院

東福寺

東福寺 持添地寺社帳登錄。

一金王御影堂地百四拾七坪三合餘 持添。

右澁谷山王觀理院末天台宗東福寺境内有之三間四方之閣魔堂、右持添地へ引移、新規
之貳間半之四間番人小屋相建度旨寺社奉行所へ願出、所持添地寺社方帳面之不相
見、之付致吟味、明曆年中奉行所へ差出、控帳之右之堂地相戴、猶又見分遣、遂
吟味、年來東福寺持添地無紛旨澁谷村名主共證文差出、之付、寺社方帳面之相戴、
願の通り差免し、以來修復建直等致、ハハ相願、此方へも相届、様と申渡、最右之外
新規之屋作不任、且亦卵塔場之發仕間敷段證文申付、旨、永井伊賀守方より印形之斷
手紙を以て申越、依之場所、遂見分、相違無御座、之付、元祿十七甲申年三月右之趣申
上、其通申付、様被仰渡、則相違之御帳面相載。

城田半三郎
——屋敷書拔

千手院

千手院 寺社帳改訂。

一、當地六拾貳年

一、寺内表拾四間。裏へ四拾五間。

拜領地
一、境内千五拾七坪半

眞言宗 牛込 本寺武州總持寺
千手院

西新井總持寺末 牛込七軒寺町
新義眞言宗 千手院

智香寺

智香寺 寺社帳改訂。

境内千八百坪

門前町屋間口間數三拾七間五尺。

表門前 北之方小間拾五間。南之方小間六間。

裏門前 西南折廻し小間拾六間。

右智香寺裏門前屋四軒之内貳間梁桁行五間建家崩、殘る三軒之内貳軒建直度旨、寺社
奉行所へ願出、境内表三拾間裏行六拾間と書出、寺社方帳面表七拾壹間裏行四拾
間と有之、間數相違、之付、遂吟味、處、智香寺書出、間數無相違障儀無之、之付、貳間梁桁
行五間之家潰、以後作事仕間敷旨申付、殘る三家作事差免、兩門前小間相改、三拾七間五
尺寺社方帳面相直、由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越、場所、遂見分、寶永
元甲申年四月申上、其通り御帳面相直、様被仰渡、則智香寺申渡之。

傳通院末 小石川
智香寺

古跡寺社帳

喜福寺

喜福寺 寺社帳改訂。

殷昌期

- 一、當地年數不知
- 一、寺內三千四百四拾四坪七合。
- 一、門前町屋拾軒。
- 一、借シ地壹ヶ所家中。

本郷 本寺淨光院 禪宗 喜福寺

拜領地 一、境內三千四百四拾四坪七合

小石川淨光院末 曹洞宗 喜福寺 本郷六丁目 東本願寺末 永福寺

門前町屋拾軒、是之町奉行支配。境內借地壹ヶ所此坪百坪。

右喜福寺作事寺社奉行所へ願出ひ處、門前町屋古來より町奉行支配之由雖申之、寺社方帳面無之ニ付、遂吟味ひ處、五拾三年以前承應元辰年より町奉行島田彈正○神尾光勝、右谷貞清の誤歟。利半津勘兵衛政。田支配ニ罷成、其節より爾今町並之儀相勤之由、喜福寺并之所之名主證文差出ひ之付、町奉行所へ相尋ひ處、喜福寺書出ひ通り相違無之ニ付、作事差免、且喜福寺境內表六間裏行拾間東本願寺末永福寺へ借置ひ處、此度年季明ひ之付、當申四月より午四月迄拾ヶ年之内、百坪借し申度旨相願ひ、遂吟味ひ處、障儀無之ニ付、相對次第借ひ様申付、寺社方帳面相直ひ由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越ひ、依之場所遂見分、寶永元甲申年四月申上ひ處、其通爲仕ひ様被仰渡、則喜福寺、永福寺召寄申渡之、御帳面

相直之。

古跡寺社帳

正運寺

正運寺 寺社帳改訂。

一、當地六拾年

本郷 本寺日光御門跡 天台宗 正運寺

一、寺內表九間壹尺。裏へ貳拾間。

一、門前町屋八軒。

拜領地 一、境內 表九間壹尺五寸。裏行貳拾間。

東叡山末 本郷 天台宗 正運寺

門前町屋一棟、店數四軒。

是者町奉行支配。

右正運寺作事寺社奉行所へ願出ひ之付、願之通り差免、門前町屋之儀者以前より町方支配之由申付、屋守名主召寄相尋ひ處、古來より町奉行支配之由町役等相勤之、四拾貳年已前卯年之歲町並之水帳書上ひ由、吟味之上相違無之ニ付、門前町屋之儀者小間不相改ひ由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越ひ故、寶永元甲申年十月申上、御帳面相直之。

古跡寺社帳

等正寺

等正寺 代地給與。

圖略。

湯島元町 等正寺代地坪數貳百坪。

殷昌期

東、道。西、明キ地。
南、興安寺。北、明地。
東、十間貳尺八寸。西、十間壹尺貳寸。
南、十九間三尺。北、十九間三尺。

湯島元町拙僧寺地御用地被召上ハ爲代地、同所興安寺隣ニ元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。
元祿十七甲申年正月十一日
東本願寺末等 正 寺印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永卜改元。
正月十一日渡。
一、湯島元町貳百坪

東本願寺末等 正 寺

但、同所元地御用地之被召上ハ爲代地被下。

東本願寺末 正 寺

一、境內貳百坪
右等正寺儀湯島元町無年貢地ニ之罷在ハ處今度御用地之被召上、同所興安寺隣ニ元坪之通被下ハ之付拜領地之相極、寺社方帳面相直ハ由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て被申越ハ故場所遂見分、元祿十七甲申年二月申上ハ處、御帳面相直ハ様之被御渡、借地古跡寺帳ニ有之、名所張消、此所へ張出之。

築地本願寺末湯島 古跡寺社帳

但し、應供山々相唱院號無御座候。
一、古蹟拜領地境內貳百坪。

三念寺

三念寺 代地給與。

圖略。

本郷元町三念寺道切レ地代地 坪數七拾六坪。

東、御中間。西、道。
南、三念寺。北、御中間。
東、西、一間四尺八寸。
南、北、二間。

拙僧境内道御用之被召上ハ爲代地、寺續北之方ニ元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。
元祿十七甲申年正月十四日
本所彌勒寺末 三念 寺印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永卜改元。
正月十四日渡。
一、本郷御弓町七拾六坪

本所彌勒寺末 三念 寺

但寺地内道御用地之被召上ハ爲代地、地續ニ元坪之通被下。 屋敷書拔

蓮久寺

蓮久寺 駒込ニ來リ移ル。文政寺社書上ニ據レハ、受命ハ前年ニ在ル歟。

一、境内坪數千六百十三坪貳合ニ御座蓮久。

但シ拜領地ニ御座蓮久。元々神田明神之下拜領地ニ御座蓮久。其後寛永元甲子年谷

中東寺町蓮久引、其後元祿十六癸未年當地蓮久別申蓮久。

一、宗旨、法花宗。本寺池上本門寺。

一、山號、朗昌山。院號無御座蓮久。

一、境内千六百拾三坪六合

右蓮久寺谷中ニ罷在候處、去年十一月類焼いたし寺地御用地ニ罷成、代地駒込ニ御被

下之蓮久。坪數之儀ニ奥田八郎右衛門蓮久。遂吟味、元坪數改、有坪之通り此度相渡之、寺社

方帳面張紙いたし蓮久由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越蓮久。依之場所遂見分、元祿

十七甲申年三月申上、其通り御帳面相直蓮久様被御渡、谷中之所名張消、此所へ張出之。

古跡寺社帳

圖略。

駒込鷄聲ヶ窪横丁 蓮久寺代地 坪數千六百拾三坪六合。

東、土井周防守。西、割殘蓮久。

南、道。北、土井主水。

東、五十間三尺。西、四十三間。

南、三十間貳尺六寸。北、二十間三尺。

同 大乘寺代地 坪數八百七拾三坪八合。

東、妙清寺。西、福相寺。

南、白山權現社地。北、道。

東、四十八間。西、四十一間。

南、十九間。北、十三間。

同 福相寺代地 坪數三百五拾六坪六合。

東、大乘寺。西、割殘蓮久。

南、白山權現社地。北、道。

東、四十間三尺。西、三十九間。

南、八間。北、九間五尺。

拙僧共谷中元寺地御用ニ被召上蓮久爲代地、駒込土井甲斐守殿上ケ地之内ニ銘々元

坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申蓮久爲。

後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十二日

池上本門寺末 蓮久 寺印

水戸久昌寺末 大乘 寺印

身延久遠寺末 福相 寺印

屋鋪渡預繪圖證文

池上本門寺 蓮久 寺

屋敷書拔

但、谷中元寺地御用地ニ被召上蓮久爲代地、元坪之通被下。

大乘寺 谷中ヨリ駒込ニ轉ス。

境内古跡拜領地八百七拾三坪八合

日蓮宗 常州水戸久昌寺禰頭 駒込 大乘寺

行山 大乘寺

八二五

大乘寺

殷昌期

池上本門寺末 蓮久 寺印

水戸久昌寺末 大乘 寺印

身延久遠寺末 福相 寺印

屋鋪渡預繪圖證文

池上本門寺 蓮久 寺

屋敷書拔

但、谷中元寺地御用地ニ被召上蓮久爲代地、元坪之通被下。

大乘寺 谷中ヨリ駒込ニ轉ス。

境内古跡拜領地八百七拾三坪八合

日蓮宗 常州水戸久昌寺禰頭 駒込 大乘寺

行山 大乘寺

八二五

一、當寺ハ元來京本國寺末ニノ、相州竹鼻村ニ居ス、其開闢ハ天正五年也。神君御入國已來谷中移居ス、元祿十三年水戸中納言西山公御貫ニテ離末シ、久昌寺末觸頭トナリ、已來水戸家代々江戸ノ位牌所トナル。同十六年類焼、同十七年寺地御用ニ付、代地トメ今地ヲ賜フト云。

——文政寺社書上

一、境内八百七拾三坪八合

水戸久昌寺末、駒込、寺

右大乘寺谷中之罷在ハ處、去年十一月致類焼、寺地御用地罷成、代地駒込ニ移被下之。且大乘寺儀京本國寺末寺ニ御座ハ處、五年已前辰年致離末、水戸久昌寺末寺ニ罷成。坪數之儀ニ與田八郎右衛門遂吟味元坪改、有坪之通此度相渡之、寺社方帳面張紙いたし由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越ハ故、場所遂見分、元祿十七甲申年三月申上ハ處、其通り御帳面御直ハ様被仰渡、谷中之所ニ有之名所張消、此所へ張出之。

——古跡寺社帳

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

水戸久昌寺末、乘、寺

同日(二月十二日)渡。同斷(土井甲斐守上ノ地之内)

一、同所、駒込八百七拾三坪八合

屋敷書拔

但、右同斷、谷中元寺地御用地ニ被召

日蓮宗、福、相、寺

一、境内三百五拾六坪貳合

右福相寺谷中ニ罷有ハ處、去る年十一月致類焼、寺地御用地罷成、代地駒込ニ移被下之

福相寺

い。且福相寺儀唯今迄年貢地ニ移ハ得共、寺地御用地ニ罷成ハ付、此度拜領地被仰付い。坪數之儀ニ與田八郎右衛門信。遂吟味元坪改、有坪之通此度相渡之、寺社方帳面致張紙ハ由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越ハ故、場所遂見分、元祿十七甲申年三月申上ハ處、其之通り御帳面相直ハ様被仰渡、年貢地古跡寺帳有之名所張消、此所へ張出之。

——古跡寺社帳

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

身延山久遠寺末、駒込、寺

同日(二月十二日)渡。同斷(土井甲斐守上ノ地之内)

一、同所、駒込三百五拾六坪六合

但、右同斷、谷中元寺地御用地ニ被召

麟祥院

駒込 麟祥院領代地 坪數六百七拾三坪九合。

東、松平播磨守上ノ地割殘リ。西、畑。

南、松平播磨守上ノ地割殘リ。北、畑。

東、八間貳尺餘。十五間。西、貳十間。

南、十八間。貳十一間。五尺。北、四十間。壹尺。

谷中麟祥院領御用地ニ被召上ハ爲代地、駒込松平播磨守殿御上ノ地之内ニ移、元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十三日

麟祥院内、芦野、徳兵衛印

殷昌期

八一七

麟祥院

安達半助。

市川三十郎。吾孫子幸七。安川清兵衛。

——屋鋪渡預繪圖證文

麟 祥 院

——屋敷書拔

寛永寺

但、谷中麟祥院領御用地ニ被召上ひ爲代地。元坪之通渡ス。
寛永寺 日光門主隠居屋鋪ヲ給セラレ、又上野役人五人屋鋪並ニ稻荷社地代地ヲ給セラレ、前者ハ謂フ所ノ根岸御隠殿ノ地也。

圖略。

根岸 日光御門主御隠居御屋敷 坪數壹萬五百三拾五坪。

東、上野。西、道。
南、上野。北、道。
東、三十九間三尺。九十九間三尺。西、百五間一尺。
南、百壹間三尺。十一間三尺。北、百七間。

日光御門主御隠居御屋鋪御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ひ、爲後日仍如件。

寶永元年甲申年六月十五日

役者
住 心 院印
同 願 王 院印
同 慈 運 院印

——屋鋪渡預繪圖證文

日光御門主院。一本ニ、役者住心院。願王院。慈雲院。

——屋敷書拔

後者ハ、上野役人五人屋鋪及稻荷社地ノ代地タリ。

圖略。

谷中新清水坂 中堂領畑切レ地 坪數百七拾五坪六合。

東、有來中堂領。西、中堂領畑切レ地。
南、道。北、預り地上野役人五人。稻荷屋鋪共。
東、十間五尺。西、十間。
南、十五間二尺三寸二分。北、十五間二尺三寸二分。

同 中堂領畑切レ地 坪數百五拾坪貳合。

東、中堂領畑切レ地。西、上野役人五人屋鋪。
南、道。北、道。
東、十間。西、十間四尺。
南、十間一尺一寸。北、十二間一尺壹寸。

同 中堂領代地 坪數三百貳拾五坪八合。

東、道。有來中堂領。西、領り地上野役人五人。稻荷屋鋪共。
南、有來中堂領。北、道。
東、十五間。西、十三間。
南、十五間。北、九間壹尺。十五間九寸。

中堂領畑之内上野役人五人ノ衆代地、并五人ノ衆稻荷屋敷共御預り地之内ニ、後御繰

替御渡被成いニ付、右爲代地、知光院上ケ地割殘并古道共御足シ、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、請取申い爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月卅日

田村權右衛門手代 平野 伊兵衛印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

三月晦日渡。知光院上ケ地割殘并古道共

一、谷中清水坂三百貳拾五坪八合

但、中堂領畑爲代地渡ス。

上野目代

田村權右衛門

屋敷書拔

妙法寺

妙法寺 轉移。

下總國葛飾郡中山村法華經寺願頭 谷中三崎町 法華宗 龍江山妙法寺

境内拜領地。但、横貳拾九間三尺裏行四拾六間壹尺裏地尻横六間壹尺長拾五間壹尺。右坪數千四百五拾坪。

預地、中門ノ惣門迄、横三間四尺長貳拾八間。

右中門之儀、明和九年ノ類燒仕候。

惣ノ千五百五拾貳坪内、貳百三十三坪餘墓所内、地中坊跡四軒御座い處、明和九年ノ類燒仕候。其外門前町家無御座候。拙寺往古神田ノ御座候。

承應元年ノ谷中茶屋町い替地被仰付候。

其後元祿十六年迄茶屋町い御座候處、同年十一月廿九日大火ノ類燒仕候節、被地上

野御用地ノ相成候節、三崎い替地被仰付候。當寺七代目日禪代三崎い替地拜領被仰付候。

茶屋町い拜領地表口三拾五間裏行五拾五間、坪數千九百貳拾五坪、三崎い替地拜領

仕候節、坪數四百五十五坪不足仕候。

先々御公儀様書上候坪數右之通ノ御座候。

文政寺社書上

妙法寺 三崎町ニアリ、龍江山ト號ス、下總國中山法花經寺ノ末觸頭ナリ。慶長十三年

ノ創立ニシテ、モトハ神田ノ地ニアリシカ、承應元年當所茶屋町ニ移サレ、斯テ元祿十

六年十一月ノ火災ニ罹リシ後、再ヒ御用地トナリ、今ノ地ニ轉セラレシト云フ。○中境

内千四百五十坪、拜領地ナリ、外二百二坪ノ預リ地アリ。

府内誌殘編

一、當地六拾壹年

同所○谷中 本寺中山法華寺 法華宗 妙法寺

一、寺内表三拾五間、裏へ五拾五間。

古跡拜領地 一、境内千五百五拾三坪。

中山法花經寺末 谷中三崎 日蓮宗 妙法寺

右妙法寺谷中ノ罷在い處、去年十一月致、類燒寺社御用地ノ罷成、代地同所三崎い被

下之候。坪數之儀ハ、奥田八郎右衛門○忠 遂吟味、元坪數改、有坪之通り此度相渡之、寺社

方帳面張紙いたしい由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越されい故、場所遂見分、元

祿十七甲申年三月申上、御帳面相直之。

古跡寺社帳

圖略○

谷中三崎 妙法寺代地 坪數千五百五拾三坪。

東、薛田權之助。西、妙圓寺代地。三浦壹岐守。北、天龍院。正運寺。道。妙圓寺代地。

東、三十六間壹尺。西、二十八間壹尺七寸。六間。南、三十五間三尺。北、三十間貳尺。十八間。

同 妙圓寺代地 坪數八百三拾貳坪四合。

東、道。妙法寺代地。西、三浦壹岐守。割殘。南、妙法寺代地。北、道。

東、五十四間五尺七寸。西、五十五間三尺。南、十八間。

拙僧共谷中元寺地御用之被召上ひ爲代地、谷中三崎齋藤佐源太殿青山藤藏殿兩人上ケ地之内ニ多、銘々元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十五日

中山法花經寺禪頭 妙法寺印

本庄法恩寺末寺 圓寺印

屋鋪渡預繪圖證文

屋敷書拔

妙圓寺

妙圓寺 轉移。

元祿十七甲申年

二月十五日。齋藤左源太青山藤藏上ケ地之内

一、谷中三崎千五百五拾三坪

但、谷中元寺地御用地之被召上ひ爲代地、元坪之通被下。

同所(○谷中) 本寺法恩寺 法華宗 妙圓寺

一、當地五拾八年 一、寺内表貳拾壹間四尺。裏へ四拾貳間。

古跡拜領地 一、境内八百三拾貳坪四合

本所法恩寺末 谷中三崎 日蓮宗 妙圓寺

右妙圓寺谷中罷有い處、去年十一月致類燒、寺社地御用罷成、代地同所三崎之多被下之い。坪數之儀之奥田八郎右衛門遂吟味、元坪改、有坪之通り此度相渡之、寺社方帳面張紙仕い由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越い故場所遂見分、元祿十七甲申年三月申上、御帳面相直之。

古跡寺社帳

境内古跡拜領地 慶長四亥年八百三拾貳坪四合、元祿十六未拾壹月類燒之付、寺地御用地之被召上、代地拜領元祿十七甲申年二月十五日、坪數八百九拾八坪四合。○中

一、日蓮宗 本所法恩寺末谷中三崎圓住山妙圓寺。○中

文政寺社書上

妙圓寺 三崎町ニアリ、圓住山ト號ス、本所法恩寺ノ末ナリ。慶長四年ノ起立トイヘト其地ヲ詳ニセス。元祿十六年丙丁ノ災ニ罹リ、後御用地トナリ、翌ル十七年二月今ノ地ヲ代地ニ拜賜シテ移轉セシト云フ。○中 境内八百九十八坪餘、拜領地ナリ。

府内誌殘編

元祿十七甲申年

同日(二月十五日)渡。同斷(齋藤左源太青山藤藏上ヶ地之内)

本庄法恩寺末

寺

一、同所三崎。八百三拾貳坪四合

妙圓寺

屋敷書拔

但、右同斷。谷中元寺地御用地ニ被下。上候爲代地元坪之通被下。

屋敷書拔

屋鋪渡預繪圖證文及屋敷書拔ニ據レハ、同時ニ谷中三崎ニ於テ六十六坪ノ地ヲ三浦壹

岐守ト共ニ預リタルコト別項ノ如ク、尋テ之ヲ添地ニ賜ヒタル者ノ如シ。即チ、

一、境内八百三拾貳坪四合。

本所法恩寺末 谷中三崎

寺

今度拜領之添地六拾六坪。

右妙圓寺當春代地拜領之節、割殘地六拾六坪奥田八郎右衛門方より三浦壹岐守^{敬。明}

妙圓寺へ預置い處、右預り地六拾六坪拜領仕度旨妙圓寺願出いニ付、御老中へ相伺い

處、願之通り拜領被仰付候、坪數等之儀水野權十郎^{願。忠}方ニ多遂吟味相渡之、寺社方帳

面張紙仕い由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越い故、場所遂見分、寶永元甲申年十

古跡寺社帳

月申上、御帳面相直之。

圖略。谷中三崎 妙圓寺添地六拾六坪。

東、妙圓寺。妙法寺。西、三浦壹岐守。

南、三浦壹岐守。北、道。

東、北、南、西、三角地ニ多三十壹間三尺。

谷中三崎齋藤左源太殿上ヶ地割殘、三浦壹岐守殿拙僧兩人預り之所、今度爲添地拙僧

拜領仕い。間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十三日

本庄法恩寺末寺 妙圓寺印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

右立合相改、渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永卜改元。

本所法恩寺末

圓

添地寺

同日(八月十五日)渡。齋藤左源太上ヶ地割殘リ

一、谷中三崎六拾六坪

屋敷書拔

但、右同斷。屋敷續

同所(谷中) 本寺眞開弘法寺

寺

龍泉寺 轉移。

一、當地七拾三年

法華宗 龍泉

寺

一、寺内表貳拾五間。裏へ三拾六間。

拜領地古跡

下總眞開弘法寺末 谷中

寺

一、境内九百坪

右龍泉寺谷中罷在候處、去年十一月致類燒、寺社御用地罷成、元寺地近所谷中ニ多代地

被下之、元坪數奥田八郎右衛門方ニ多遂吟味、有坪之通今度相渡之、寺社方帳面張紙い

たしい由、寺社奉行衆より連印之斷手紙を以て申越い故、場所遂見分、元祿十七甲申年

八二五

龍泉寺

龍泉寺 轉移。

一、當地七拾三年

一、寺内表貳拾五間。裏へ三拾六間。

拜領地古跡

一、境内九百坪

右龍泉寺谷中罷在候處、去年十一月致類燒、寺社御用地罷成、元寺地近所谷中ニ多代地

被下之、元坪數奥田八郎右衛門方ニ多遂吟味、有坪之通今度相渡之、寺社方帳面張紙い

たしい由、寺社奉行衆より連印之斷手紙を以て申越い故、場所遂見分、元祿十七甲申年

殷 昌 期

八二五

三月申上、御帳面相直之。

圖略。

谷中 龍泉寺代地 坪數九百坪。

東、中堂領。道。西、松平伊豆守。中堂領畑。
南、中堂領。北、善光寺分畑。松平伊豆守。
東、三十九間五尺。西、二十五間。十三間三尺。
南、二十三間五尺。三寸二分。北、十五間。八間三尺。

拙僧元寺地御用之被召上、爲代地近所中堂領之内之多元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定枕之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月十日

弘法院末寺

龍泉寺印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

三月十日渡。中堂領之内

弘法院末寺

龍泉寺

但、元寺地御用地之被召上、爲代地、元坪之通被下。

京妙心寺末

屋敷書拔

海藏院

海藏院 卵塔場ヲ轉ス。

拜領地 境内貳百七拾坪

禪宗 海藏院

外、百四拾坪卵塔場、此度添地分。

右海藏院卵塔場差詰り致難儀。幸境内續西之方谷中村六藏と申百姓屋敷、百四拾坪之處、年久敷海藏院預り置、此度地主六藏致寄進度由申之間、右之地へ卵塔場引移

し度旨、寺社奉行所へ願出、遂吟味候處障儀無之付、願之通り差免、旨、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越。依之場所見分を遂け、寶永元甲申年七月申上、い處、願之通り爲仕、様被仰渡、即海藏院召寄申渡之。

古跡寺社帳

一、當地貳拾壹年

禪宗

本寺妙心寺

海藏院

一、寺内坪數貳百八拾六坪。

此寺上野金杉村之罷在、い處、延寶八庚申十一月上野御用地之上り、谷中七面前之ろ元坪之通り替地被下、拜領地之罷成。

惣持院

惣持院 貸地ス。

天台宗 惣持院

一、當地五拾八年

一、寺内貳拾間四方。

天台宗

惣持院

一、拜領地

天台宗 惣持院

右惣持院境内東方門前町屋裏之ろ五拾坪之所、深瀬素庵と申町醫師、當申年六月より巳年六月迄借地仕、門前町屋東方間口壹間借地へ之出入口之致度旨、寺社奉行所へ願出、い處、其通差免、由阿部飛彈守○正方より斷手紙を以て申越。素庵儀も右地面致

古跡寺社帳

借地、屋作住宅仕度旨口上書差出、惣持院へ申來候。依之場所遂見分、寶永元甲申年六月申上の處、願之通り爲仕候様被仰渡、即惣持院并之素庵召寄申渡之。

淺草東光院末天台宗惣持

院

前張紙之有之惣持院境内東方町家之裏之五拾坪之所、深瀬素庵寶永元甲申年より正徳三癸巳年迄拾年季之借地いたし、巳之年限之年季明々之付當午年より卯年迄有來る家作之拾年季之借地仕度旨、寺社奉行所へ願出、其通り差免之旨、土井山城守利方より手紙を以て申越、素庵儀も右之地面直之借地仕度旨、口上書差出、惣持院へ借置申度旨書付を以て申來、因茲場所遂見分、正徳四甲午年三月申上の處、願之通り爲仕候様被仰渡、即惣持院并之素庵召寄申渡之。

古跡寺社帳

〔參考〕古跡寺社帳ニ、

門前町屋間口拾七間。

淺草東光院末天台宗惣持

院

右惣持院門前町屋間口間數拾七間と寺社方帳面相直候由阿部飛彈守方より斷手紙を以て申越、惣持院之惣之字此方帳面之と宗持院と有之、文字違申候段相尋ひ處、寺社方帳面之惣持院と有之、紛無之由口上書差出候之付、元祿十五閏午年十一月三日右之趣申上、御帳面張紙仕候。

正覺寺

正覺寺 貸地ス。

一、境内 四千九百坪。

淺草天龍寺末下谷坂本

寺

長安軒

長安軒 起立。

一、境内古跡東叡山年貢地 表貳拾間裏行拾四間。

谷中 長安寺

一、寶永元年之長安軒建立。略。下

文政寺社書上

智光院

智光院 谷中ヨリ淺草ニ轉ス。

一、境内七百坪

京妙心寺末淺草 智光院

右智光院谷中罷在候處、去年十一月類焼いたし、寺地御用地罷成、於淺草代地被下之、元坪數奥田八郎右衛門方之る遂吟味、有坪之通り今度相渡之、寺社方帳面張紙いたし、由、寺社奉行衆より連印之斷手紙を以て被申越、故場所遂見分、元祿十七甲申年三月申上の處、其通り御帳面相直し、様被仰渡、年貢地古跡寺社帳有之名所張消、此所へ張出之。

御朱印拜領地寺社帳

圖略。

淺草 智光院代地 坪數七百坪。

東、萬龍寺。西、割殘り。北、百性地。

東、四十間壹尺七寸。西、四十間五寸。南、十七間貳尺七寸。北、十七間貳尺七寸。

淺草御小人拾三人上ケ地之内、願之場所ニ多元坪之通代地御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十五日

妙心寺末 智心寺末 智心寺末 院印

屋鋪渡預繪圖證文

同日(○二月十五日)渡。御小人拾三人上ケ地之内

一、淺草七百坪

一本二、但、元寺地差上候爲代地、願之場所ニ多渡ス。

萬隆寺

萬隆寺 寺社帳改訂。

一、當地拾貳年。

一、寺内表三拾六間。裏へ五拾間。

淺草 本寺永昌寺 萬隆寺

本寺加州 大乗寺

古跡拜領地 境内貳千貳百八拾八坪

加州大乗寺末 淺草 禪宗 萬隆寺

東表四拾四間三尺五寸。西之方三拾八間三尺。南之方五拾四間五尺。北之方五拾五間貳尺。

右萬隆寺作事寺社奉行所へ願出い處、境内間數東西五拾四間南北四拾五間と書出、社方帳面相違之付、境内間數相改、帳面相直い由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越い。依之寶永元甲申年十二月申上、御帳面相直之。

御朱印拜領地寺社帳

増林寺

増林寺 卵塔場ヲ轉ス。

一、拜領 一千五拾坪。

起立寛永五戊年。

駒込高林寺末 増林寺

一、拜領 境内千五拾坪

駒込高林寺末 深川 曹洞宗 増林寺

外 三百八拾四坪

今度卵塔場之指免。

駒込高林寺末曹洞宗深川増林寺卵塔場差詰り、致難儀い之付、境内續東之方海邊新田分伊奈半左衛門御代官處、濱町町人茂兵衛所持仕い地面三百八十四坪之地子抱屋敷、此度地主相對ヲ以卵塔場之仕度旨願出い之付、見分之者差遣遂吟味障儀無之之付、願之通差免、勿論御年貢諸役所並ニ相勤、此度指免い場所東之方十六間之處竹垣仕、拜領地之御年貢地之之境、有來ル藪垣之入口一ヶ處、明、枝折戸相附、卵塔場之致置家作等堅仕間敷旨證文申付い由、阿部飛驒守之印形之添手紙ヲ以申越い。依之場處遂見分相違無之之付、寶永元甲申年七月御帳面相直シ可申段申上い處、其通仕い様之被仰渡い之付、御張紙差上申い。如此相認、豊後守殿エ上ル。

拜領除地寺社帳

市街ノ異動若干有リ。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。文政町方書上。拜領寺社帳。寛永録。古跡寺社帳。拜領除地寺社帳。

市街異動 寶永元年若干市街ニ異動有リ。

麴町山本町 湯島壹町目ヨリ來リ移リテ割込ミタル者有リ。

殷昌期

市街異動

市街異動事

麴町山本

略。上南側者、天和三戌年十二月廿八日不殘致類燒、翌四亥年十一月中壹丁目五丁目中程迄、子細不相分、御用地ニ被召上、略。中北側町屋ニ、元祿十六未年十一月中不殘致類燒、其節南側同様御用地ニ被召上、代地之儀者、翌寶永元年申年九月中柳原土手下、并内神田町、麴町山本町ニ、畚割込ニ、代地被下置、右代地之内柳原土手内之儀者、町名豊島町と其節ニ相唱申略。下。

——文政町方書上

筋違橋御門内略。中

一、寶永元年申年六月新シ橋邊水野隼人正務先中、高木十左衛門都筑安右衛門兩人屋敷元

甲斐庄喜右衛門左一色、四人屋敷被召上、町屋出來、但、此町屋當時豊島町ニ多、湯島邊ニ有之、聖堂御取建後、此所ニ引候由。東西貳

ヶ所ニ南北ニ之道式貳筋出來。

——御府内往還沿革圖書

豊島町一丁目

沿革 此町往時湯島ニ在リ。元祿四年辛未聖堂建築ノ時用地ト爲リ、其代地幕士水野

高木都築等ノ邸址ニ移ル。此町是レナリ。相傳フ、豊島郡ノ内ニ豊島村アリテ豊島町

ナケレハ、此町ニ其名ヲ加フト。明治二年元岩井町ノ内ヲ併ス。凡ソ三町。

豊島町二丁目

沿革 已ニ一丁目ノ條下ニ詳ニス。

豊島町三丁目

沿革 已ニ一丁目ノ條下ニ詳ニス。

——東京府誌

岩井町

東京府誌元祿四年ノ轉移トスルハ、恐ラクハ誤ル。

岩井町 上屋鋪ヲ町支配トス。

圖略。

岩井町 松本善甫上ヶ屋敷 坪數京間九拾八坪四合四勺。

東、町屋。西、津川清伴。

南、町屋。北、道。 東、京間五間。西、京間五間。南、京間五間。北、京間四間五尺。

松本善甫老上ヶ屋敷町方支配所ニ御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座

相改請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年七月廿一日

丹羽邊江守組與力 谷村郷右衛門印
林土佐守組與力 柴田市郎左衛門印
丹羽邊江守組同心 香山七太夫印
林土佐守内 早乙女清助印
町年寄 奈良屋市右衛門印
——屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。
七月廿一日渡。松本善甫上ヶ地
一、柳原岩井町九拾八坪四合四勺。

但、右同斷。○京間坪ニ多渡ス。

町 奉 行

——屋敷書拔

谷之藏 土地町支配

圖略○

谷之御藏跡 水野式部上ヶ地 坪數京間千七百四坪壹合四勺。

東、道。西、入堀。北、道(向側米澤町屋)。
東、南、入堀。北、道(向側米澤町屋)。
東、南、入堀。北、道(向側米澤町屋)。
東、南、入堀。北、道(向側米澤町屋)。

水野式部殿上ヶ屋敷町方支配所之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座
請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月廿日

丹羽遠江守組與力 石堂甚五左衛門
林土佐守組與力 藤助印
丹波遠江守組同心 野彌兵衛印
林土佐守組同心 早乙女清助印
町年寄 喜多村彦右衛門印

奥田八郎右衛門内中野又六郎安立半助。
立合相渡。

——屋鋪渡預繪圖證文

町 奉 行

同日(七月廿日)渡。水野式部上ヶ地
一、谷之藏跡千七百四坪壹合四勺

元祿十七甲申年 四月寶永卜改元。

但、京間坪之ヲ渡ス。

——屋敷書拔

通鹽町線橋際方、大通南側、○中
淺草橋橋門内迄、
寶永元申年之頃、前書略。谷之御藏跡保田越前守屋敷上ヶ地之成、表坊主其外町屋敷被
下、町屋出來○當時米澤右町屋中程より、兩國廣小路之方有來町屋間ヲ通り、南北之新
道出來。同所東之方元松平右京大夫屋敷之、主代り水野式部屋鋪之節、同年七月上ヶ地
町地ニ成、町屋出來。○當時米澤右町屋南續藥研堀端有來道式、東之方大川端通ハ折廻
し新道出來。

——御府内其外選沿革圖書

麻布谷町代地 三田老増町續ニ給與ス。

麻布谷町代地

一、當町起立之儀、元祿十七申年三月谷町元地之内、新道御附有之候ニ付、右之道敷貳
百坪御用地之被召上、三田老増町續之元坪之通代地被下置候ニ付、麻布谷町代地ニ
相唱申候。其後正徳三巳年閏五月、元地一同町方御支配ニ相成申候。

——文政町方書上

白金 德川綱豐白金邸ヲ永峰町名主ノ預地トス。

圖略○

白金 中納言様御屋敷 坪數壹萬坪。

外、千五百坪、南之方長百十間、
東、畑。西、畑。南、畑。南、中央、明地千百坪。長百十間。畑。北、畑。

殷 昌 期

東、百三十三間。南、七十五間。西、百三十三間。北、七十五間。

中納言様白銀御屋鋪私共の御預ヶ被成。四方間敷坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十二月廿九日

永峯町名主
右 衛門 印
左 衛門 印
同 吉 兵 衛印

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改、預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。
十二月廿九日預。甲府中納言殿御上ヶ地
一、麻布白金壹萬坪
○一本抹消。

永峯町名主
太 左 衛門

——屋敷書拔

外千百坪入口道坪共。

麻布今井寺町代地 麻布網代町續ニ給附ス。

麻布今井寺町代地

一、當町之儀、元祿十二卯年四月中御代官伊奈半左衛門様御支配之節、元地之内御道廣ク相成。之付、爲代地寶永元甲申年中麻布網代町續武家方御上ヶ地被下置。所、正徳三巳年中元地一同町方御支配罷成候。
——文政町方書上

麻布今井寺町代地

善福寺門前

善福寺門前 小間間敷を更正ス。

西本願寺末 麻布

寺

一、境内壹萬七千七百七拾四坪餘

一、門前町屋惣間口合貳百拾六間四尺五寸。

内

表門之方 西に折廻

小間六拾貳間 三尺

表門之方 南に折廻

小間九拾八間

寺向東南之町屋

小間貳拾四間 貳尺

寺向東南之町屋

小間拾壹間 五尺五寸

同所後之方東北折廻

右西本願寺末麻布善福寺門前町屋修覆之儀、寺社奉行所願出。ニ付、門前町屋小間間敷相改。旨、本多彈正少弼方。印形之斷手紙ヲ以申越。依之此方御帳面致張紙。ニ付、寶永元甲申年十月右之趣申上、御張紙差上之。

——拜領寺社帳

麻布六本木 割殘リノ地ヲ名主預トス。

圖略。

麻布六本木割殘リ名主預リ 坪數九拾六坪。

東南、道。西北、名主理左衛門。

東北、道。西南、戸田土佐守組屋敷。

東南、十間。西南、八間。西、南、拾壹間。三、尺、五、寸。

松平伊賀守殿抱屋敷上ヶ地割殘リ、私に御預ヶ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面御定

殷 昌 期

八三九

麻布六本木

寶永元甲申年六月廿日

名主

理 左衛門

八四〇

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

同日(六月廿日)預。同斷(松平伊賀守上ケ地之内)

一、同所(麻布)九拾六坪

名主

理 左衛門

屋敷書拔

麻布龍土材木町 拜領屋鋪ト爲リタル處有リ。

麻布龍土材木町

一、御役料町屋敷

小石川御藥園御奉行岡田左門漢御支配同心衆

鹽村彦五郎

右御役料屋鋪之儀、寶永元申年中初、堀田尉右衛門ト申者拜領仕上ケ屋敷ニ相成
い哉、委細相知不申、其後年代不知石井唯七ト申者拜領致、天明三卯年五月中上ケ屋敷
ニ相成、寛政二戌年六月中鹽村彦五郎御役料屋敷ニ拜領仕。

文政町方書上

筭橋

筭橋 上ケ屋敷ヲ名主ニ預ク。

圖略。

筭橋 服部四郎兵衛上ケ屋敷 坪數貳百坪。

東、道。南、藤田伊右衛門上ケ地。西、道。北、道。
東、六間五尺。南、十九間壹尺六寸。西、拾四間。北、貳十間壹尺六寸。

澁谷筭橋近所服部四郎兵衛殿上ケ屋敷、私ニ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面
相違無御座、御預リ申。爲後日仍如件。

櫻田町名主

十 兵衛印

屋鋪渡預繪圖證文

櫻田町名主

十 兵衛預地

屋敷書拔

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

三月廿九日預。服部四郎兵衛上ケ地

一、筭橋貳百坪

櫻田町名主

十 兵衛預地

赤坂新町 上ケ屋鋪ヲ名主ニ預ク。

圖略。

赤坂 木村卷三上ケ屋鋪 坪數百拾七坪壹合。

東、松島意伯。西、大塚支佐。
南、明地。北、新道。
東、西、十四間。南、北、四間五尺三寸。

赤坂新町 木村養三殿上ケ屋鋪、拙者ニ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無
御座、御預リ申。爲後日仍如件。

赤坂新町名主

八 兵衛印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

殷昌期

八四一

正月廿七日預。木村善三士ヶ地
一、赤坂百拾七坪壹合
○一本ニ、本證文無之寫證文ニ多書拔。

赤坂新町名主
八 兵

屋敷書拔

四谷鹽町
貳丁目

四谷鹽町貳丁目 文政町方書上ニ據レバ、是年ヨリ町内居住ノ舊家有リシト云フ。

一、舊家

家持
與 兵 衛

右與兵衛先祖之義之、武州多摩郡飯能村産之、百姓田中與右衛門二男與兵衛と申之
の之有之、去ル百貳拾四ヶ年以前寶永元申年三月中、當町に罷出借地住居仕、藥種商賣
相始、元文四未年七月中病死仕、實子惣領辰之助義與兵衛と改名、家業相續罷在、内延享
四卯年八月六日當町北側表京間三間裏行町並之家屋敷買求、居付地主之相成、室曆十
三未年七月中病死後、實子惣領與十郎義與兵衛と改名致し、跡式相續罷在、天明六
午年十一月中病死仕、跡相續之義之右與兵衛弟與右衛門義與兵衛と改名、家督相續中、寛
政二戌年十二月中相果相續人無之、牛込御細工町家主與平次二男佐兵衛と申之、同
店之縁ヲ以養子相成、是亦與兵衛と改名相續罷在、文政五午年二月中病死仕、其後當與
兵衛之四代目與兵衛甥之續を以、右同年同月中養子相成、都合六代凡百貳拾四ヶ年當
町住居罷在ルもの之御座い。

但、系圖古書古器物等無御座い。
内藤宿 割殘地其他ヲ名主預トス。

内藤宿

圖略○

内藤宿 割殘地坪數貳百七坪。

東、津田平左衛門。西、道。北、津田平左衛門。
南、道。東、八間。西、十間。四尺五寸。
南、貳十間。北、貳十間。

内藤宿松波五郎太夫殿上ヶ屋敷割殘り、拙者共兩人に御預被成、四方間數坪數、右御繪
圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月七日

千駄ヶ谷名主
三郎 兵 衛印
年寄
武 兵 衛印

水野權十郎内中村傳右衛門。

服部七右衛門、平野善三郎、清水喜兵衛、中村三左衛門、宇野小兵衛。

右立合相改、預レ之。

圖略○

内藤宿 吉田内藏助上ヶ屋敷 坪數四百貳坪五合。

東、道。西、重本五郎兵衛。相原善太夫。
南、大久保三左衛門。北、石川又十郎預り割殘り。

内藤宿吉田内藏之助殿上ヶ屋敷拙者共兩人に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之
面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿三日

千駄ヶ谷名主
三郎 兵 衛印

門前町屋間口五十九間五尺五寸。右養善院作事願出の付、門前町屋間口間數五拾九間五尺五寸と寺社方帳面相直の由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越の付、寶永元甲申年四月申上、御帳面相直之。

小石川白山下

小石川白山下 上ケ屋鋪ノ一部ヲ名主預トシ、一部ヲ上水請負人四人ニ給ス。後者ハ所謂千川屋鋪是也。

圖略。

白山下 余語古菴上ケ屋敷 坪數三百三拾三坪。

東、鈴木兵右衛門。西、道。南、伏屋頼母。北、道。

東、十四間三尺。西、十三間三尺。南、十四間三尺。北、記入ナシ。

小石川余語古菴老上ケ屋敷、拙者に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申。爲、後日仍如件。

寶永元甲申年八月九日

水野權十郎内永田庄助。右立合相改、預之。

名主 六 之 丞印

圖略。

小石川白山下 上水請負四人屋敷 坪數貳百拾三坪。

東、表六尺。西、道。南、伏屋頼母。北、道。東、十四間。西、十三間三尺。南、十四間。北、十三間四尺五寸。

巢鴨拜借屋敷指上、爲代地、小石川余語古菴様御上ケ屋敷内之、私共四人に御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲、後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿三日

千川 德兵衛印
同 太兵衛印
同 善九郎印
同 善左衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。右立合相改、渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

名主 六 之 預地助

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

八月九日預。餘語古庵上ケ地。一、小石川三百三拾三坪。

八月廿三日渡。餘語古庵上ケ地之内。一、小石川白山下貳百拾三坪。

但、巢鴨拜借地差上、爲代地、大繩之、勿渡ス。

上水請負人 千川 德兵衛
同 太兵衛

同 善九郎
同 善左衛門
屋敷書拔

白山前町千川屋鋪

一、當町往古之小石川村百姓地之有之い處、年代不知余語古庵拜領町屋鋪之相成、其後拜領替有之い哉、右上リ地跡之多、東西之南之方之多、二十間貳尺、北之方之多、拾壹間五尺、南北之西之方之多、十五間五尺、東之方之多、十四間貳尺、此坪數貳百拾三坪之場所、元祿九子年中千川上水請負人太兵衛之申者拜領仕之處、其後上水御差留之多、上之ケ地之相成、正徳四甲午年二月二十七日小石川御殿地上水請負人役屋敷上リ地之相唱、白山前町名主六之丞之御預地之罷成居之處、其後年代不知右太兵衛儀、根津惣門前橋三ヶ所新規修復共自分入用ヲ以相勤度段願濟之上、又々元地拜領仕、夫レ引續當時迄、金七拜領仕罷在之い。右金七儀之本石町四町目新道善藏店之罷在之い。○中略

小普請組淺野集人組

川崎平八郎

右寶永元申年八月廿三日、先祖川崎嘉兵衛拜領仕之い。

小普請組佐野前守組
谷口拾次郎

一、同六十三坪

右享保十三申年十二月廿六日、内藤十五郎拜領仕、其後安永二巳年十一月十四日、右拾次郎拜領仕之い。○中略

一、千川金七由緒書左之通。

一、千川屋鋪拜領仕之儀之、元祿九子年、乍恐常憲院様御代東叡山聖堂小石川御殿、淺草御殿、右四ヶ所御成御殿御上水御用之付、御若年寄加藤越中守○明様道御奉行毛利兵橋○重様伊勢平八郎○貞様、竹島次郎左衛門○武島様、佐橋内藏之助○佳様御掛リ之多、先祖太兵衛儀之右御上水御普請御用被御付之處、被下置之御入用金高之多之出來兼之い故、其段御願申上之い處、急御用之い間、如何様之多相勤、御上水掛渡シい様被御付之い之付、自分入用金四百八拾貳兩壹分差出、御普請成就任、無滯掛渡之い之付、水元役并拜領地被御付、千川村之申所之御上水開發仕之い之付、千川之申名目被下置、千川上水御普請御用相勤罷在之い處、正徳四卯年、右御殿向御上水御不用之相成之い之付、町屋敷拜領仕、乍罷在、何之御役儀之不奉相勤、冥加之程恐多奉存之い之付、根津惣門前御入用之多相掛リい橋三ヶ所、新規修復共奉相勤度段、其節之道御奉行高林又兵衛様之奉願い處、願之通被御付、相勤來い處、享保年中、道御奉行大久保三太夫○忠様御勤役之節、右三ヶ所内根津惣門前御成橋一ヶ所橋幅減少被御付、其代リ谷中通之多橋三ヶ所相増、都合橋數六ヶ所新規修復共相勤來い處、明和五年御普請方御役所御掛リ之多、右橋六ヶ所之内、貳ヶ所減少被御付、其代リ年々錢十七貫文ツ、上之い多、吹所人足爲賃錢、上納仕來い。殘橋

四ヶ所唯今新規修復共相勤罷在外之千川用水増水口一尺四方明和八卯年御普請方御役所被仰付爲水料金四兩一分ツ、年々御普請方御役所之私并相仕練馬村之罷在い千川善藏兩人之系上納仕來い先祖太兵衛之私迄代々右御奉公奉相勤町屋敷拜領仕罷在い御上。

文政九丙戌年十一月

千川 金 七

表間口田舎間 拾五間五尺。

裏間口 拾四間貳尺。

北裏幅 拾壹間一尺五寸。

南裏幅 貳十間貳尺五寸。

府内備考

戸崎町

戸崎町 町屋鋪領受者有リ。

戸崎町略中

一、前書略申上い拜領人名前左之通。一、節

御先手加藤勝兵衛組同心 岩澤良之助

一、同町屋鋪百貳拾坪

寶永元申年五月中高祖父岩澤利兵衛拜領仕其後年號月日不知右良之助拜領仕い。

府内備考

關口村

關口村 上地割殘ヲ名主預トス。

關口村略

關口村 石野八兵衛組與力拾騎上ヶ地割殘リ地坪數千坪。

東、近藤備中守。西、道。南、道。北、道。

東、三十九間三尺。西、二十四間。南、三十壹間三尺。北、三十貳間四尺。

石野八兵衛殿組與力拾騎上ヶ地割殘リ拙者之御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預リ申い爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十八日

名主 權 右 衛 門

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

同日(七月十八日)預。同斷(石野八兵衛組與力拾騎上ヶ地)割殘

名主 權 右

衛 門 預地

屋敷書拔

關口駒井町 起立。

關口駒井町

一、右町名之起草創人之名相知不申い町内之儀之往古關口村之内畑地有之い處寶永元申年御代官今井九右衛門真。兼様之町家奉願い所願之通被仰付其後町御奉行所御支配之相成い年代相知不申い其以來御代官兩御支配所御座い併町續き關口大泉寺同新長谷寺兩門前之儀之元文二巳年町御奉行御支配之相成い之付同時之儀之系之御座い哉之奉存い。

巢鴨 上ヶ地ヲ名主ニ預ク。

府内備考

巢鴨

殷 昌 期

圖略○

巢鴨

松平右京大夫上ヶ地

坪數千三百坪

東、松平右京大夫

西、水野式部

南、土井周防守

北、松平右京大夫

東、三十四間四尺

北、三十四間五尺九寸

松平右京大夫殿御上ヶ地私御預ヶ被成、四方間數坪數、御繪圖之面并御定杭之通相改、相違無御座御預り申い。尤少之小屋掛等も仕間敷い。爲後日仍如件。

圖略○

元祿十七甲申年二月十八日

名主 德右衛門印

巢鴨

御金拂方同心上ヶ地割残り 坪數四百七拾三坪

東、山崎平四郎

西、山田半助

南、五十間三尺

北、久保權四郎

東、北、九間

西、五十三間四尺

巢鴨御金拂方同心上ヶ地割殘拙者い御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申い。勿論家作塀圍仕間敷い。爲後日仍如件。

圖略○

寶永元甲申年十月十四日

小石川名主 兵衛印

三枝左兵衛内上野理右衛門

右立合相改、預之。

巢鴨

山田半助上ヶ地 坪數四百貳十六坪

東、御金拂方同心

西、道

南、久保權四郎

北、道

東、十五間三尺

西、貳十壹間

南、貳十三間一尺

北、貳十四間

巢鴨山田半助殿上ヶ地拙者い御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申い。并家作塀圍仕間敷い。爲後日仍如件。

圖略○

寶永元甲申年十一月十五日

小石川名主 兵衛印

三枝左兵衛内上野理右衛門

右立合相改、預之。

巢鴨

松風伊左衛門上ヶ地 坪數四百坪

東、神田御殿同心

西、小石川御殿番同心

南、道

北、稻荷柏屋與右衛門上ヶ地

東、貳十貳間壹尺五寸

西、貳十四間四尺五寸

南、十六間四尺

北、十壹間五尺五寸

巢鴨松風伊右衛門殿上ヶ地拙者い御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申い。爲後日仍如件。

圖略○

寶永元甲申年十一月廿七日

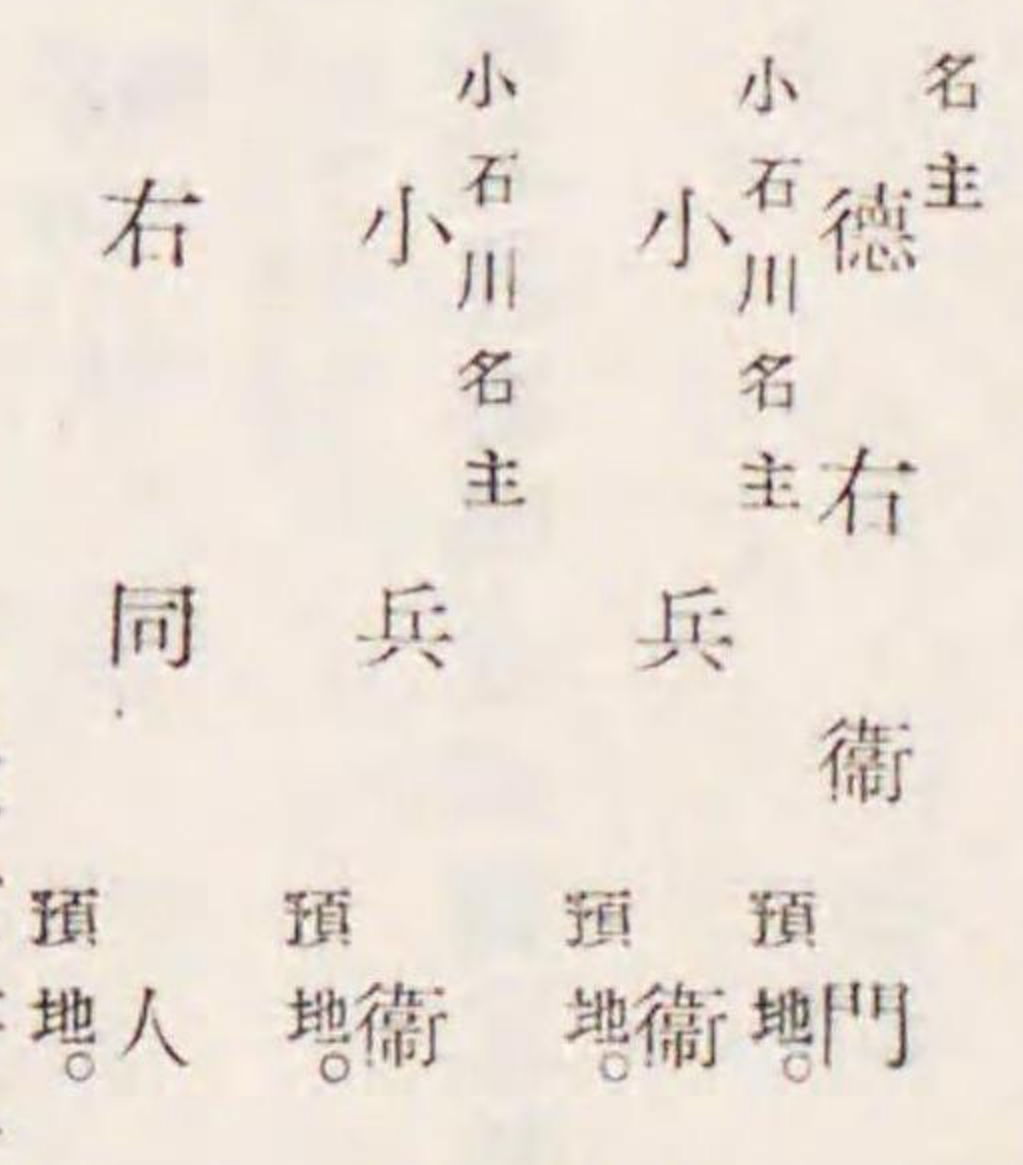
名主 小 兵衛印

三枝左兵衛内上野利兵衛

右立合相改、預之。

元祿十七甲申年四月實永卜改元。

- 二月十八日預。松平右京大夫上ヶ地
- 一、巢鴨千三百坪
- 同日(○)十月十四日預。同斷(○)御金拂方同心上ヶ地之内(御殘)
- 一、同所。巢鴨四百七拾三坪
- 一本二。本證文無し之、寫證文ニ書拔。
- 十一月十五日預。山田半助上ヶ地
- 一、巢鴨四百貳拾六坪
- 一本採海。
- 十一月廿七日預。松風伊左衛門上ヶ地
- 一、同所四百坪
- 一本採海。



湯島天神社地門前

湯島天神社地門前 新ニ町屋二箇所ヲ許可ス。寺社帳ニ據レハ同社ハ、是ヨリ先町屋二箇所ヲ有シタル如シ。

一、町銘起立之義、寶永元年六月申寺社御奉行所永井伊賀守^{○直}様^{○直}御願申上、社地之内を初多町家御免之相成、延享二丑年閏十二月中町御奉行所御支配之相成、右社地ニ有之の間、天神社地門前之唱申也。尤地所三ヶ所ニ相分レ有之得共、立始年代何レ^{○直}我同時之御座也。且天神社地門前之義之得之、不殘別當喜見院之地所之御座也。尤武州峽田領湯島郷之趣申傳ニ御座也。

一、當地三百拾五年

湯島天神社地門前

——文政町方書上

天台宗 喜見院

- 一、社地南北百七拾八間四尺、東西百貳拾間。
- 一、借シ棚四百貳拾四軒。
- 一、借シ地三拾六ヶ所。

上野住心院兼帶 湯島天神別當 喜見院

- 拜領社地
- 一、境内壹萬貳千七百六拾五坪餘
- 有來社内町屋貳ヶ所、
- 西之方小間拾貳間半、
- 東之方小間拾貳間、
- 新規社内町屋壹ヶ所、
- 小間三拾貳間、
- 新規社地町屋壹ヶ所、
- 小間四拾三間半、但シ西向、
- 惣町屋小間百間、

右天神境内新規之町屋貳ヶ所、寺社奉行所へ住心院願出也之付、遂吟味也處、障儀無之也付、御老中へ相伺、願之通差免、小間相改、且又境内町奉行支配之町屋有之得共、支配違故不及吟味、尤帳面相載不申也、由、寺社奉行衆連印之斷手紙を以て申越也。新町屋之儀故、場所遂見分寶永元甲申年六月申上也處、願之通り爲仕也様被仰渡、則住心院へ申

渡之。

湯島 樽屋借地上ケ地及新道ヲ地割棟梁十人ノ預地トス。

圖略。

湯島 樽屋藤左衛門拜借上ケ地 坪數千八百九拾九坪。京間千六百十八坪。

道坪三百四十六坪六合。

坪數貳千貳百四十五坪六合。

東、道。南、道。湯島四丁目。西、道。北、明地。

南、西、八十壹間。北、八十間。北、八十六間四尺。

湯島明地之内、樽屋藤左衛門拜借屋敷上地并新道共、拙者共拾人ノ御預被成四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申。勿論家作塀圍仕間敷。爲後日仍如件。

寶永元甲申十月廿三日

棟梁 市川三十郎印

同 服部七右衛門印

同 平野善三郎印

同 清水喜兵衛印

同 中村三左衛門印

同 宇野小兵衛印

同 吾孫子幸右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。右立合相改、預之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

十月廿三日預。樽屋藤左衛門拜借上ケ地并新道共。一、湯島貳千貳百四拾五坪六合。○一本抹酒。

地割棟梁拾人 屋敷書拔

本郷御弓町 上ケ屋鋪ヲ名主預トス。

圖略。

本郷御弓町 久永丹波守上ケ屋敷 坪數七百六拾三坪。

東、眞光寺。南、割殘。本郷二丁目分町屋。吉田永傳。西、道。北、吉田内藏助。大森三次郎組の場。

御弓町久永丹波守殿上ケ屋敷、拙者共兩人ノ御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿日

本郷貳丁目名主 八郎右衛門印 眞光寺門前名主 清兵衛印

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合相改、預之。

右屋敷境立合相改、如先規紛無御座い。爲後日仍如件。

大森三次郎祖同心與頭
芳賀郷右衛門印
同
大野瀨兵衛印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年
八月廿日頭。久永丹波守上ヶ地
一本郷御弓町七百六拾三坪
一本抹消。

本郷二丁目名主
八郎右衛門
眞光寺門前名主
清兵衛

屋敷書拔

本郷貳町目代地

本郷貳町目代地 本郷三丁目横町ニ移リ、此ノ稱ヲ加フ。

代地起立之儀、元本郷二丁目西側里俗大横町と相唱い横町之地所ニ有、慶長五子年西丸表坊主吉野榮仁先祖吉野久圓、間數不相知拜領仕罷在い處、三代目吉野永傳之節寶永元年三月廿九日新道御用被召上、同日本郷三丁目横町續御旗本古田兵九郎上地之内、表京間三間五尺、表幅同斷裏行廿八間、坪數百五坪五合三勺拜領仕い。其節より本郷二町目代地と相唱申い。

文政町方書上

本郷古庵屋鋪

本郷古庵屋鋪 起立。

一、町名起立之儀、當時御寄合御醫師餘語古庵様、寶永元年七月廿七日表京間拾九間五尺六寸、裏行東之方貳拾間四尺七寸、西之方拾八間六尺四寸、表幅貳拾六間、此坪四百貳拾六坪三勺二才拜領被致、右之内表京間七間二尺九寸、裏行二十壹間三尺五寸、裏幅拾三間四尺二寸、自分住宅ニ被致、残り表京間拾九間五尺六寸、裏行東之方貳拾間四尺七寸、西之方拾壹間三尺五寸、此坪貳百四拾七坪七合三勺貳才町屋敷ニ有、寶永元年十一月十五日町御奉行御支配ニ被仰付、其節本郷古庵屋敷と唱來申い。但、拜領以前之儀、年古き儀ニ有書留申傳へ等、羨無之、相分り不申候。

文政町方書上

駒込

駒込 屋鋪上地ヲ代官支配ニ入ル。

圖略。

駒込 松平播磨守上ヶ地割残り 坪數千坪。

東、松平播磨守。西、畑。北、麟祥院領畑。

南、道。東、西、五十五間、三尺三寸。

松平播磨守殿駒込御上ヶ地、今井九右衛門支配所ニ御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月廿九日

八六〇

今井九右衛門手代
高田 東 藏印

松本 彌五郎印

葛岡 菅助印

屋鋪渡預繪圖證文

今井九右衛門

支所ニ渡ス。
屋敷書拔

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。
四月廿八日渡。松平、播磨守上ケ地割殘
一、駒込千坪

感應寺門前

感應寺門前 日光門主下屋鋪用地ト爲リ、谷中東側町屋並ニ感應寺門前新茶屋町ヲ轉
ズ。感應寺中門前町ノ起立是年ニ在リ。

圖略。

谷中東ケ輪町屋、感應寺門前新茶屋町代地 坪數八百八拾坪。

東、道。西、道。北、道。南、道。
東、道。西、道。北、道。南、道。

東、道。西、道。北、道。南、道。
東、道。西、道。北、道。南、道。

谷中東町屋代地 坪數八百八拾壹坪六合。

東、道。西、道。北、道。南、道。

感應寺門前新茶屋町代地 坪數六百六拾四坪。

東、道。西、道。北、道。南、道。

東、道。西、道。北、道。南、道。

東、道。西、道。北、道。南、道。

御門主様御下屋鋪御用之付、谷中東ケ輪町屋并感應寺門前新町屋繰替被仰付、四方間
數坪數、右御繪圖之面御定枕之通、相違無御座請取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月十五日

谷中感應寺役僧

現 受 院 印

正 福 院 印

田村 權右衛門 印

屋鋪渡預繪圖證文

感 應 寺

感 應 寺

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。
六月十五日渡。
一、谷中貳千四百貳拾五坪餘

但、谷中門前町屋御用地被召上爲代地渡ス。

谷中東町屋代地一ヶ所。

感應寺門前新茶屋代地二ヶ所。

但、元地御門主御下屋敷御用ニ付、繰替、爲代地渡ス。

感應寺役僧

院

現

受

院

正福院 山村權右衛門 屋敷書拔

谷中感應寺中門前町

一、町銘之起り、往古より感應寺領之有之、元祿十七申年三月中感應寺祝住佛頂寺社御奉行本多彈正少弼様は町屋家作之儀御願申上ひ處、同年四月九日願之通被仰付町屋之相成、夫より中門前町を唱申ひ。尤何故中門前町を唱申ひ哉、相分り兼申候。

一、御賄方倉地甚四郎感應寺境内借地致、古來より右地所へ笠森稻荷安置致有之、當町内中程より右社入口地所有之。

谷中中堂領 龍泉寺上地ヲ中堂領トシテ代官ニ引渡ス。

圖略。

谷中 龍泉寺上り地 坪數九百坪。

東、道。西、本行寺。

南、道。北、町屋。

東西、三十四間。

南北、三十四間。三尺。

谷中龍泉寺御用地ニ被召上ひ爲代地、中堂之内ニ多元坪之通御渡し被成、右中堂領之爲替地、龍泉寺上ヶ地九百坪之所御繰替御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申ひ。此方より中堂領に引渡可申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月二日

今井九右衛門手代 杉江十藏

屋鋪渡預繪圖證文

一本ニ御代官 今井九右衛門

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

四月二日渡。龍泉寺上ヶ地 一、谷中九百坪

但、中堂領爲替地、渡ス。

一本ニ、但、谷中龍泉寺御用地ニ被召上、爲代地、中堂領之内ニ多元坪之通相渡、右中堂領爲替地、龍泉寺上ヶ地九右衛門に相渡ス。追而九右衛門方中堂領に可引渡

旨證文有之。

屋敷書拔

淺草並木町

淺草並木町 名主役ヲ替フ。

淺草並木町

名主 淺草並木町 鈴木伊兵衛

右伊兵衛先祖之儀之、鈴木修理亮と申、淺草寺僧正京都より下着之砌、御當地に供仕罷下り候處、同人義多病之付、其砌悴伊兵衛に並木町名主役并地面被下置、御年貢諸役銀等御免被成候。尤茶屋町之儀之、貞享元錄之頃迄之、又左衛門と申者名主役相勤、其後同町家持半三郎と申者、右役相勤罷在候處、同人義元錄之末ニ至り、名主役御免奉願上候之付、寶永元甲申年中四代目伊兵衛に同町名主役兼帶被仰付、支配相續仕當伊兵衛に十代名主役相勤罷在候儀ニ御座候。右修理亮死去之年月相分り不申候。悴伊兵衛儀ハ慶

殷昌期

八六三

安三年正月死去仕候。被下候地所之儀ハ、中古他人に譲渡シ申候。

西照寺門前

西照寺門前 小間更正。

——文政町方書上
淺草 本寺東本願寺
一向宗 西照寺

- 一、當地三拾三年
- 一、寺内表貳拾六間。裏へ三拾間。
- 一、門前町屋貳拾五軒。

門前町屋惣間口三拾九間。

南表門より西北折返小間貳拾三間。

同所より東裏門迄小間八間。

裏門より東南迄小間八間。

右西照寺門前町屋作事、寺社奉行所へ願出ひ之付、作事差免、小間相改、寺社方帳面相直ひ由、永いたし由、本多彈正少弼方より斷手紙を以て申越ひ之付、寶永元甲申年十一月申上、御帳面張紙仕ひ。

大圓寺門前 小間更改。

——古跡寺社帳

- 一、當地十王堂五拾年
- 一、堂内表貳拾四間。裏へ貳拾五間。

淺草 本寺東叡山
天台宗 大圓寺

本所松坂町

門前町屋惣間口拾五間半。
右大圓寺作事之儀、寺社奉行所へ願出ひ處、門前町屋小間相改、寺社方帳面相直ひ由、永井伊賀守方より斷手紙を以て被申越ひ故、元祿十七甲申年二月申上、御帳面張紙仕ひ。

——拜領地古跡寺社帳

本所松坂町 壹町目貳町目ノ内、吉良氏下屋鋪跡町屋ト爲ル。内一部ノ町屋鋪ト爲ル、翌

二年其他ニ在リ。

本所 松坂町壹町目

- 一、略中東側之分之、元御竹藏跡之多、元祿初年之頃、近藤登之助殿屋敷之相渡り、其後吉良上野介殿下屋敷之相成ひ處、元祿十六未年十一月上り屋敷跡拜領町屋敷之相成申
- い。

——府内備考

本所松坂町貳町目

一、町内起立之儀之、元御竹藏跡元祿初年之頃、近藤登之助殿屋敷之相成、其後年月不知、吉良上野介殿下屋敷之相渡り候所、元祿十六未年十一月上り屋敷之相成、右跡寶永年中町屋之相成候之付、町名松坂町貳丁目と相唱申候。町名之義之同所壹丁目之多申上候通之御座候。且又公役之義之、町内御年貢地之分相除、京間四拾間之所廿間之壹人役、

松坂町貳町目

松坂町壹町目

一ヶ年拾五遍勤之積ニ多上納仕候。
一、町内里俗上野長屋と相唱申候。

右之元祿十六未年吉良上野介殿上り屋敷を拜領地又之拜借地御年貢町屋敷代地之被下、町屋之相成、其比右町内ヲ上野長屋と唱來申候。

町内中程
一、表間口京間。貳拾間。
此坪數三百六拾坪。

林大學頭様御支配儒者
菅野 信平

右拜領町屋敷之儀之吉良上野介殿上り屋敷跡寶永二酉年五月四日御普請御奉行水野權十郎様奥田八郎右衛門様、白銀御堀常浚受負人市郎兵衛拜借助成地之被下置候所、正徳三巳年十一月上り地之相成小石川御養生所附御入用屋敷之相成候處先祖菅野彦兵衛義享保十五戌年九月十一日、深川一色町拜領屋敷之引替地之致拜領當時信平所持仕候。

同續東角
一、表間口京間。貳拾間。
此坪數五百六拾坪。

赤坂水川別當大乘院
地守和吉

右地面之儀之吉良上野介殿上り屋敷之、寶永二酉年五月四日白銀御堀常浚請負人市郎兵衛義御普請御奉行より拜借地之被御付候所、正徳三巳年十一月上り地之相成、小石川御養生所附屋敷之相成、其後延享三寅年十一月水川明神社内辨天堂護摩堂御造營ニ付爲御修復料御寄附被御付候段、寺社御奉行本多紀伊守永○正様、別當大乘院

被御渡、町年寄樽屋與左衛門掛之相成地代金取立置、御修復之節々大乘院申出次第、右金子町御奉行所之御渡之相成候所、寛政八辰年九月右町屋敷大乘院御引渡之成候旨、寺社御奉行松平右京亮様被御渡、右地所御引渡之相成申候。

同所丁日續西橋町東側南角
一、表間口京間。六間。三尺。
此坪數七拾坪四合一勺六才。

芝龜塚町代地
御年貢地

高貳斗三升四合七勺貳才。

此反別貳畝拾步四合一勺六才。

北橋町南角東側
一、表間口京間。五間。貳尺五寸。
此坪數百拾七坪三合六勺一才。

同 右 同 斷

高三斗九升一合貳勺。

此反別三畝廿七步三合六勺一才。

同斷同側北角
一、表間口京間。五間。貳尺五寸。
此坪數百拾七坪三合六勺一才。

同 右 同 斷

高三斗九升一合貳勺。

此反別三畝廿七步三合六勺一才。

裏通り中程北側
一、表間口京間。七間。三尺五寸。
此坪數八拾貳坪壹合五勺三才。

同 右 同 斷

高貳斗七升三合八勺四才。

此反別貳畝貳拾貳步一合五勺三才。

同所續東之方西側
一、表田舍間五間貳尺五寸。

此坪數七拾六坪貳合八勺四才。

高貳斗五升四合貳勺八才。

此反別貳畝拾六步貳合八勺四才。

右五ヶ所地面之義々、芝龜塚町秋月式部殿所持屋敷之所、元祿十六未年八月十六日松平紀伊守様御拜領地ニ相渡候ニ付、當所吉良上野介殿上り屋敷之内ニ有寶永元年五月御代官伊奈半左衛門様御掛りニ有、右代地ニ相渡り申候。尤御年貢之義々、元地芝伊皿子臺町年寄重右衛門方ニ取立、御代官中村八太夫様ニ上納仕、町役之義々、當町ニ有町並之通相勤申候。

裏通り北側西角ヨリ式許目
一、表京間三間。

此坪數拾五坪。

町内源藏買下ヶ
沽 券 地

右地所之義々、古來北之方土屋平八郎様本多内藏助様御屋敷附往還ニ有之候所、延享四卯年新道付替之義々、願右御屋敷付之方ニ町屋敷引下ヶ、中通りニ新道相付申度、左候得々、只今迄之南北往還北之方往留りニ相成候間、右袋地前書間數坪數之處買下ヶ地ニ仕度段、町内源藏ニ申者町御奉行馬場讚岐守○向様御番所ニ奉願候得々、御吟味

之上同年四月十八日同御番所御内寄合ニ有、願之通被仰付、金四兩三分上納仕、右地所買下ヶ地ニ仕、新規町屋ニ相成申候。

中横町西側南角
一、表田舍間六間三尺。

此坪數七拾坪四合一勺六才。

高貳斗三升四合七勺貳才。

此反別貳畝十步四合一勺六才。

裏通り西側北角
一、表田舍間五間貳尺五寸。

此坪數七拾六坪貳合八勺四才。

高貳斗五升四合貳勺八才。

此反別貳畝貳拾六步二合八勺四才。

右貳ヶ所地面之義々、芝田町五丁目之内、元祿十六未年八月十六日松平紀伊守様御拜領地ニ相渡候ニ付、當所吉良上野介殿上り屋敷之内ニ有寶永元年五月御代官伊奈半左衛門様御懸ニ有、右代地ニ相渡申候。尤御年貢之義々、元地芝伊皿子臺町年寄重右衛門方ニ取立、御代官中村八太夫様ニ上納仕、町役之義々、當町ニ有町並之通相勤申候。

文政町方書上

本所尾上町

本所尾上町 材木藏手代ノ拜領町屋鋪ト爲レル所有リ。

殷 昌 期

町内北角
一、表間口田舎間拾壹間。
裏行四間五尺餘。
此坪數五拾三坪五合五勺。

宮道傳藏
江守乘右衛門
廣瀬三右衛門
金田權兵衛
中村熊太郎
鶴澤新太郎

右拜領町屋敷之儀、御材木藏手代鶴澤七郎左衛門廣瀬三右衛門高山彌左衛門江守直助岡野市右衛門皆川惣十郎右六人濱町拜領屋敷有之、所牧野備後守様御成之付、御道筋廣り申上之付、切地之罷成、足地之被仰付、寶永元年八月當所明地之處致拜領。尤御役屋敷之義、御座の間、役人替り次第跡役之もの段々拜領仕、當時右六人之所持仕。

——文政町方書上

南本所横網町

南本所横網町 町並家作御免地ト爲ル。

南本所横網町

一、町内之儀、元來南本所村之内町屋相建、南本所横網町と相唱、永代賣之場所之、表裏共家込商賣仕、何方に及御斷不申上家作仕來り、元祿九子年家作御改之節不念仕、其段不申上、故家作御改場之相成、勿論前前々町屋之儀、故田畑一切所持不仕、右町屋之助成を以、町並御年貢諸役等相勤來り、之付、寶永元年八月申屋敷御改赤井六

南本所石原町

南本所石原町

家作免許シ、代地給與ス。府内備考ニ、

兵衛公。様阿部甚三郎。正様御勤役中奉願、永々町並家作御免被仰付、正徳三巳年中町御奉行松野壹岐守。助様坪内能登守。定様丹羽遠江守。長様御勤役中、町方御支配之相成。尤地方之儀、御代官所御支配之御座、横網町と相唱、義と相分り不申候。

——文政町方書上

南本所外手町

南本所外手町

町屋家作免許。

殷昌期

南本所外手町

略。上元祿九子年中初ゝ家作御改之節、右之段、不申上の故、家作御改場之内に相成、迷惑仕の付、寶永元申年中屋敷御改赤井六兵衛様阿部甚三郎様御勤役中奉願、永々町屋家作御免被仰渡略。中

一、町内北之方飛地

東西南側北表間口田舎間九間五尺。南北裏行西之方九間三尺六寸。

右飛地之儀、元祿十丑年中町内北續御用地に被召上、阿部對馬守様御藏屋敷に相渡、其後、略。中不相知寶永元年之比、町内北之方大川端に有代地被下置略。中

一、同東之方飛地

南北東側西表間口田舎間九間五尺。東西裏行北之方三間三尺七寸。

右飛地之儀、古來大川端町並に有之の處、元祿十丑年中御用地に被召上、阿部對馬守様御藏屋敷に相渡、略。中不相知寶永元年之頃、同所石原町續元御藏屋敷跡に有代地被下置略。中

一、同東之方飛地

東西北側北表間口田舎間六間壹尺。南北裏行西之方三間壹尺。

右飛地之儀、古來大川端町並に有之の處、元祿十丑年中御用地に被召上、阿部飛驒守様御藏屋敷に相渡、其後、略。中不相知寶永元年之頃、同所石原町續元御藏屋敷跡に有代

府内備考

南本所瓦町

地被下置の。

南本所瓦町 家作許可。

南本所瓦町

略。上元祿九子年中屋敷替地奉願の處、前書同町。代地續北側之有代地被下置、右兩所共、南本所瓦町に相唱、永代賣御免之地所に有之の處、同年初ゝ家作御改之節、譯存不申、元來町屋家作御免之段不申上、家作御改場に相成の付、寶永元申年中屋敷御改赤井六兵衛様阿部甚三郎様御勤役中奉願、永々家作御免之町屋に被仰付の。

府内備考

永代寺門前

永代寺門前 内堀敷ト爲リテ轉移シタル所有リ。

一、境内六萬五百八坪。

内、百五十六坪下水敷。

門前町屋坪數二萬八百五十六坪。

北間口千百九十七間五尺。

深川八幡別當永代寺境内に有之堀并橋附替之義、東横町四十二間半之門前町屋地之分堀敷に相當の候に付、馬場通り社役人屋敷六十間之處、引移シ度由、繪圖ヲ以相願候。尤間口坪數先年差免候通り、見分遣相改候處、相違無之に付、御老中エ親之上、願之通リ指免候旨、本多彈正少弼方に印形之添手紙ヲ以申越候。依之場處、遂見分、寶永元甲申

年五月申上候。

寺社御帳之内拜領地深川永代寺と有之。

拜領除地寺社帳

深川獵師
町河岸

深川獵師町河岸 家作免許。

一、寶永元年河岸家作御免之寫
乍恐口上書を以御訴訟申上候

一、獵師町之儀川端屋敷共七十六年以前、汐除堤之外干瀉之所、古半十郎様之獵師之取立申度旨奉願ひ得之、古雅樂頭清様大炊頭利様之被仰上候處、台徳院様之被爲遊言上、獵師町之被爲仰付、水之上を築立、町屋之取立、其砌之御城様之御肴、一ヶ月三度宛于今無恙差上申候。御年貢之儀も所起立之四十餘年餘相納不申、當所繁昌之付、三拾五年已前之町並御年貢仕候、從古來田地一切作り不申、町屋計之亦、其外町役等江戸町同前之相勤申候。勿論川端屋敷之儀も、御年貢御役等、本家同前之相勤申候。大川通川端屋敷之儀、先年之本家同前之家藏不殘建續罷在候處、町人共勝手之家藏當分疊置申候之付、中絶之様之罷成候得共、其已後奉願家藏數ヶ所建來申候。勿論本家之儀之、三年前午年元祿十五年御訴訟申上候家作御免之町家被爲仰付被下候。尤獵師町近邊江戸川端屋敷之儀も、家藏建續罷在候。依之、獵師町川端屋敷之儀、本家同前之家作御免之被爲仰付被下置候ハ、難有可奉存候。

右川端屋敷家作御免之儀、町人共奉願候之付、屋敷改御奉行赤井六兵衛阿部甚様、阿部甚

三郎美様之繪圖口上書を以、御訴訟申上候處、川通出水之節、水吐之様子御尋被遊候之付、前々之獵師町之義、海近キ場所故、水吐能所之亦、度々出水之儀も水上之義無御座、其上當年出水之節之御役船所々之御用次第相勤申候。殊之川端屋敷之儀、本家同前之御年貢諸役相勤候段申上候得之、被爲聞召分ケ、右之趣御印判頂戴仕候ハ、願之通被仰立可被下旨、被仰付候。御慈悲之御印形被爲成被下候ハ、難有可奉存候。以上。

寶永元年甲申年十月

- 獵師町清住町人惣名代 年番七 兵衛
- 同所佐賀町町人惣名代 年番五 郎左衛門
- 同所相川町町人惣名代 年番六 右衛門
- 同所熊井町町人惣名代 年番太 兵衛
- 同所富吉町町人惣名代 年番仁 右衛門
- 同所藤町町人惣名代 年番次 郎兵衛
- 同所大島町町人惣名代 月行亥 豐右衛門
- 同所黒江町町人惣名代 年番三 郎右衛門

御代官様

差上申一札之事

一、獵師町清住町佐賀町相川町熊井町富吉町諸町、大島町、黒江町、右八ヶ町本家、先達之家作御免之被仰付候節、川端屋敷之儀之、御残り被成候。依之、此度町人共本家同前之家

作御免之御訴訟申上、御印狀奉願ひ之付段々御吟味被遊、右川端屋敷前々不殘家藏
 建續い内、町人共當分勝手之寄、家作所々疊置、中絶い様之罷成い得共、其後段々奉願家
 藏數ヶ所被仰付建來い。尤獵師町川通ハ水吐能度々之出水も水上り不申い。右願之
 通被仰付い之も、満水之節、水吐之障も不罷成い。其上川端屋敷本家同前之御年貢
 諸役相勤、御茶之御肴差上、淺草川通其外所々ハ満水之節、御役船相勤、常共之御用之寄
 度々船役等相勤申い處、相違無御座い之付、拙者共之右之段町人共同前奉願い。右之
 趣少も相違之義申上いハ、拙者共迄何様之曲事之も可被仰付い。爲其一札差上申い。
 仍如件。

寶永元甲申年十月

御代官様

獵師町清住町 名主 彌 兵衛
 同所佐賀町 名主 藤 左衛門
 同 清 左衛門
 同所相川町 名主 新 兵衛
 同所熊井町 名主 利 左衛門
 同所富吉町 名主 助 十郎
 同所諸町 名主 彦 左衛門
 同所大島町同所黒江町 名主 助 左衛門

獵師町之相勤申い御役之品々

- 一、七拾六年以前獵師町之取立、其砌ハ御城ハ御茶之御肴、壹ヶ月之三度宛差上申い御事。
- 一、從先規川通御成之節ハ、御役船五拾艘宛當所之置、諸事御用等相勤申い御事。
- 一、角田川御成之刻、品川迄御賄道具積送り之御役船相勤申い御事。
- 一、從先年以橋之御用之、芝品川筋ハ御役船御用次第出申い御事。
- 一、惣ハ公家衆御通之時分、千住迄御賄道具積送之船、相勤申い御事。
- 一、増上寺御法事之刻、御賄道具積送之御役船相勤申い御事。
- 一、惣ハ中川御番所御破損之刻、御役船御用次第出申い御事。
- 一、惣ハ御用木浦繼之參い刻、同船出申い御事。
- 一、日光御社參之刻、平柳領川口迄、御賄道具積送之船相勤申い御事。
- 一、御國廻之御船參い刻、同船出申い御事。
- 一、大水之時分、兩國橋新大橋、永代橋ハ、人足并御役船每度大分相勤申い御事。
- 一、諸國御城米船入津之砌、満水風雨之時分、助船破船之節、御役舟、御用次第出申い御事。
- 一、四拾八年已前大火事之橋々燒落申い之付、錢龜橋、一石橋兩所之御役船着ヶ置、御城様ハ御用之節、御假橋出來仕い内、晝夜相渡申い之付、江戸傳馬町芝金杉同前之、御銀拜領仕い御事。

一、貳拾年已前丑年迄、唐船造之船参り、節、淺草御藏、品川海面迄銅、并天草御城米積送御用、百俵積之大茶船、每度大分相勤申、御事。

一、當年之出水、永代橋、御役船并人足大分晝夜共、水落切申迄、毎日相勤申、尤當所之義、水吐能場所、水、水上、不申、付、本所筋、御用之御役船、并近在水入之場所、淺草御藏、御救之御米積送り、御役船共、御用次第相勤申、御事。

右、條之外、降來、御役儀、御年貢等之儀も、宿賃藏敷、相勤申、場所、御座、御事。

一、獵師町大川通、水吐之義、先年、満水之節も、海近キ場所故、水吐能御座、付、獵師町川通、前々も出水上り、義、無御座、尤當年之出水、茂、川端石垣之上、壹尺又、貳尺餘、水下り御座、御事。

一、當所町々之儀、方角能所、四拾八年已前酉年、三〇明曆、大火事、其後度々之類火、も、本家并川通家藏共、相残り申、御事。

右之通、少も相違無御座、御事以上。

寶永元年甲申年十月

獵師町清住町 兵衛
 名主 彌 左衛門
 同所佐賀町 兵衛
 名主 藤 左衛門
 同所相川町 兵衛
 名主 清 左衛門
 同所熊井町 兵衛
 名主 新 左衛門
 同所大島町同所黒江町 兵衛
 名主 利 左衛門

同所富吉町 十郎
 名主 助 左衛門
 同所諸町 左衛門
 同所大島町同所黒江町 右衛門
 名主 助 右衛門

一筆致、啓上、私御代官所深川獵師町清住町佐賀町相川町熊井町富吉町諸町大島町黒江町、右八ヶ町川岸屋敷家作御免、之奉願、旨申出、付、致、吟味、處、右町々本家、先達、家作御免、被、仰、付、節、川岸屋敷之義、先年、八建込罷在、處、町人共、勝手之家、取、毀、い、多、家藏中絶、仕、場、所有、之、付、本家計家作御免、之奉願、被、仰、付、然、ル、所、右、河、岸、之、義、今、以、家、土、藏、相、残、り、場、所、も、有、之、其、上、外、と、違、獵、師、町、之、義、と、御、役、敷、多、相、勤、申、川、岸、屋、敷、共、屋、敷、高、之、入、本、家、同、前、之、年、貢、諸、役、相、勤、來、間、川、岸、屋、敷、之、義、本、家、同、前、之、家、作、御、免、奉、願、旨、申、出、尤、右、之、段、相、違、無、之、旨、名、主、共、改、證、文、願、申、控、川、岸、之、筋、と、違、申、間、可、罷、成、義、之、御、座、は、願、之、通、被、仰、付、可、被、下、差、出、書、付、并、繪、圖、懸、御、目、之、恐、惶、謹、言。

十一月朔日〇寶永元年

赤井六兵衛様 阿部勘三郎様

覺

伊奈半左衛門 御判

一、獵師町河岸屋敷家作御免、之奉願、旨申出、付、御船藏火除之義、御尋被遊、右、河、岸、屋、敷、と、御船藏之間、明地、左右、之、拾、三、間、餘、宛、御役屋敷之内、之、畠、地、有、之、其、外、ハ、獵、師、町、河、岸、屋

敷地面之形、本家同前之御年貢御役相勤、御船藏左右共之、前々家藏建來申ひ。委細別紙之繪圖差上申ひ。

一、満水之節、獵師町川通水吐之義、御尋被遊ひ。先達申上ひ通當所之義、海近キ場所故、水吐能前々出水上りひ義無御座ひ。殊之當年之出水、近年之無御座満水之御座ひ得共、當所川岸ハ水上り不申ひ故、少も水吐之障之も罷成不申ひ。右御尋之付、差上申ひ。繪圖口上書之通、少も相違無御座ひ以上。

寶永元甲申年十一月二日

- 彌兵衛
- 藤左衛門
- 清左衛門
- 新兵衛
- 利左衛門
- 助十郎
- 彦左衛門
- 助右衛門

御代官様

差上申一札之事

一、深川獵師町伊奈半左衛門様御代官所清住町佐賀町相川町熊井町富吉町諸町大島

町黒江町、右八ヶ町、三年已前午年十五元家作御免ニ奉願ひ處、本家計御免被仰付ひ、右八ヶ町之相付ひ川端屋敷之義、先年ハ家藏建込罷在ひ處、町人共勝手ニ寄取毀、家藏中絶仕ひ場所も有之ひ故、本家計家作御免被仰付ひ。右河端屋敷、今以家藏相殘ひ場所多有之、其上外之違、御役數多相勤、川端屋敷共之屋敷高之内之御座ひ之付、本家敷同前之御年貢諸役相勤申ひ之付、本家敷並家作御免奉願ひ之付、半左衛門様御印狀差上申ひ之付、場所御見分被遊、段々御吟味之付、別紙書付を以申上ひ處、御伺之上、願之通家作御免、本屋敷同前之被仰付、難有奉存ひ。爲其一札如斯御座ひ以上。

寶永元甲申年十一月九日

赤井六兵衛様

阿部甚三郎様

——寛永録

屋鋪授受

二年乙酉二〇寶永〇紀元正月九日甲辰〇甲辰、三正綜覽屋鋪受領者有リ。外ニ是

屋鋪授受事

屋鋪授受 寶永二年正月左ノ各屋鋪授受有リ。

寶永二乙酉年

荒木政羽

一、小日向火消御役屋敷上ケ地之内四百八拾坪

一、同所同前四百六拾七坪

一、同日同前向臺五百三坪

水野忠欽

一、同日同前向臺五百三坪

役名不知
荒木志摩守〇政羽

右 同 預地人

役名不知
水野左門〇忠欽

殷昌期

八八一

牧長富

岩城秀隆

石黒易慎

青山幸澄

正月十八日渡。大瀧越中守上ヶ地之内

一、下谷六百坪

同日築。同斷割餘リ

一、同所三百六坪

○一本抹消。

一、龍慶橋近所五百六拾七坪

○一本二、建築立其疊長、屋植木共。

同日渡。火消御役屋敷上ヶ地割餘

一、濱町九百五拾坪

圖略○

小日向臺 荒木志摩守屋敷建家有。坪數千四百八拾坪。

東、割殘リ。西、道。南、道。北、割殘リ。

東、四十六間壹尺。西、四十三間五尺。南、四十四間五尺。北、四十四間三尺。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上ヶ地之内、荒木志摩守拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永二年酉正月九日

荒木志摩守内 安田又兵衛印

小野源左衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。右立合相改、渡之。

圖略○

小日向臺割殘四百六拾七坪。

東、明地。南、土取場。町屋。西、荒木志摩守。北、明地。

東、十七間五尺。西、三十間。南、二十間五尺。北、十六間三尺。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上ヶ地之内、割殘、荒木志摩守に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座、御預り申。爲後日仍如件。

寶永二酉年正月九日

荒木志摩守内 安田又兵衛印

小野源左衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。右立合相改、預之。

圖略○

小日向臺御用屋敷 坪數千八拾七坪。

東、明地。割殘リ。西、牧七左衛門。道。南、割殘リ。北、切死丹屋敷。

東、三十四間四尺。西、三十六間壹尺。南、三十三間五尺。六間三尺。北、三十六間三尺。

同 割殘坪數五百三坪。

東、明地。南、荒木志摩守。西、道。北、御用屋敷。

東、十四間三尺。西、四間壹尺。南、十四間三尺。北、三十三間五尺。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上ヶ地之内、御用屋敷并割殘共水野左門牧七左衛

濱町 青山近江守屋敷 坪數九百五拾坪。

東南、永井伊賀守。西北、堀。西南、青山播磨守。

東北、六十間一尺四寸。西南、六十一間一尺五寸。

濱町關伊織殿火消御役屋敷上ヶ地割殘、今度青山近江守拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年正月廿六日

甲斐庄喜右衛門、岡直右衛門。

市川三十郎、平野善三郎、中村三左衛門、吾孫子幸右衛門。

——屋鋪渡預繪圖證文

幸澄 兵部近江守、又駿河守。

一、寶永二己酉年正月廿一日願之通濱町關伊織跡屋鋪被下之旨、井上大和守 ○正寶永 殿被仰渡之。

〔附記、一〕町觸

一頃日浪人體之者町々徘徊いさし、押そらひいさし由相聞、不届之由間、左様之者於有之、留置、早速月番之番所可申出、右之趣町々可觸聞、以上。

正月十三日 ○寶永

——撰要永久錄 ○正寶永

町觸、一

附記、二
評定所立
合日變更

〔附記、二〕評定所立合日變更

撰要永久錄 ○正寶永、

一、御評定所十四日之御立合日、自今以後、十三日之成、此旨相心得、町中可被相觸、以上。

正月十九日 ○寶永

町年寄 三 人

廿八日癸亥 ○寶永二年(紀元二二六五)正月、○癸亥、三正綜覽。 江戸町奉行林忠和 ○土佐守。 病免シ、先手頭坪内定鑑 ○源五郎。 町奉行ニ任ズ。 ○柳營日記、寶永二錄、常憲院御實紀、撰要永久錄、柳營補任。

町奉行更任 傳フ、

廿八日 ○寶永二年

町奉行 林土佐守跡

御先手 坪内源五郎 ○定鑑。

右御前よりをひて被仰付之。 ○中願之通御役御免。

願之通御役御免。

林土佐守 ○忠和。

右老中列座、申渡之。

——柳營日記記 ○寶永

町奉行

寶永二酉四月廿八日御先手、

坪内源五郎 ○定鑑。 柳營補任

廿八日 ○寶永二年 町奉行林土佐守忠和は病免し、先手頭坪内源五郎定鑑は町奉行にな

町奉行更任
事蹟

り、○下

——常憲院殿御實紀

一、林土佐守様御病氣之付、御願之通今日御役御免、坪内源五郎様町御奉行之被仰付、尤源五郎様御悦之伺公仕、義前々より御出入之町人之外、重ろ此方より申渡、迄、無用之可仕、此旨町中不殘可被相觸、已上。

正月廿八日○寶永二年

町年密 三 人

一、明後十五日坪内源五郎様町中名主之御禮御請被成、月代を剃、麻對之上下を着、十五日朝六ツ前、喜多村所、參着可仕、若病氣差合之ろ不罷出、ハ、其斷、今明日中樽屋所、早々可申來、ハ。

二月十三日○寶永二年

町年密 三 人

一、坪内源五郎様、明十六日より公事訴訟御聞被成、ハ、間、林土佐守様御掛之者、源五郎様、可罷出、旨、町中不殘可被相觸、以上。

二月十五日○寶永二年

町年密 三 人

定鑑 源五郎能登守、但馬守、從五位下。

——正寶事錄久○撰要永

十五年 正月十一日御先鐵炮の職にうつり、十二月晦日盜賊追捕のことを役し、寶永二年正月二十八日町奉行に進み、二月二十三日從五位下能登守に叙任し、享保四年正月二十八日職を辭し、寄合となり、八年十月十六日死す。

本所奉行更

是日○寶永二年(紀元二三)本所奉行亦更任シ、小姓組北條氏英藏○新 坪内定

任事蹟

常○覺左ニ代ル。○寶永二年(紀元二三)柳營日次記。柳營門。○營補任。寛政重修諸家譜。

廿八日○寶永二年

御小姓組稻葉紀伊守組

本所奉行 坪内覺左衛門(○定常)跡。

北條・新 藏英○氏

本所築地奉行

寶永二酉正月廿八日同(○御小姓組稻葉紀伊守組

坪内跡 北條 新 藏英○氏

氏英 ○孫七郎。新藏。安房守。從五位下。

——寛政重修諸家譜

屋鋪受授

二月四日己巳○寶永二年(紀元二三)屋鋪受授有リ。外ニ是月元二(寶永二年)紀元二(寶永二年)屋鋪受授有リ。

屋鋪受授事蹟

若千人屋鋪ヲ受授セラ。○屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書拔。圖略。

志村正光

下谷 志村又兵衛○正 屋鋪 坪敷三百六坪。

殷昌期

東、道。南、久松内記。西、三宅備前守。北、御徒組屋敷。東、西、十四間壹尺。五寸。南、西、十壹間貳尺。北、西、十壹間四尺。

小石川御殿近所拙者屋鋪差上い爲代地、下谷大澤越中守殿上ケ地之内ニ願之通拜領仕い。四方間數略。中請取申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月四日

三之御九張番志村又兵衛印

水野權十郎内中村傳右衛門。右立合相改、渡之。

安川善太夫。吾孫子幸右衛門。中村半治。

圖略。

四谷御門内御用屋敷。建家有。坪數千百七拾八坪。

東、三枝攝津守。割餘地。西、禰原庄兵衛。小貫吉兵衛。南、成瀬隼人。北、道。東、西、三十三間四尺。南、西、三十三間四尺。北、西、三十三間四尺。

四谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷之内、押田兵庫殿林主水殿御兩人い御預ケ置い場所、此度爲御用屋敷小普請方い御渡被成、四方間數坪數、御繪圖之面無相違請取申い。建家之儀之右兩人い宸前御預ケ置い立具目錄等、御預之御家來中立會相改、是又相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月五日

石川傳太郎組小尾友右衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。右立合相改、渡之。

殿部七右衛門。平野善三郎。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略。

麻布六本木 遠藤源五郎屋敷前道 坪數貳百三拾貳坪。道幅四間。

東、阿部志摩守。西、道。南、戸田土佐守組屋しき。北、遠藤源五郎。東、西、四間。南、西、四間。北、五十六間。

麻布六本木松平伊賀守殿上ケ地之内、遠藤源五郎屋敷前道之分并植木拾七本、阿部志摩守明。正遠藤源五郎常。兩人い御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月五日

阿部志摩守内岩村仁右衛門印
遠藤源五郎内高垣久助印

三枝左兵衛内上野利右衛門。右立合相改、預之。

圖略。

小日向臺御用屋敷 坪數千九拾五坪壹合。東、割殘り。西、牧七右衛門。道。南、新道。割殘。北、切死丹屋敷。

小普請方

小日向臺小出主計火消御役屋敷之内、牧七左衛門殿水野左門殿御兩人の御預ケ被置
い場所、此度爲御用屋敷小普請方の御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面無相違請取
申い。建家之儀ハ右兩人の最前御預置い立具目錄等、御預りの御家來申立合相改、是又
相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永二酉二月六日

石野新五兵衛代

高木 小兵衛印

三枝左兵衛内上野理右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

小日向割残り 坪數五百三坪。

東、切死丹屋敷。割残り。西、御用屋敷。道。
南、荒木志摩守。北、御用屋敷。

東、十四間三尺。西、八間四尺。四間壹尺。
南、十四間三尺。北、十三間五尺。六間三尺。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上ケ地之内割残り、水野左門○忠、牧七左衛門○長
兩人の御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月六日

水野左門内
花塚 治兵衛印
牧七左衛門内
小松 理兵衛印

三枝左兵衛内上野理右衛門。

水野忠欣
長富

本多忠能

右立合相改、預之。

圖略。

牛込神樂坂 割残り地 坪數六百五拾坪。
宋書ニ多、嘗二月廿二日松浦與次郎と渡トアリ。

東、小西甚左衛門。西、道。
南、本多修理。北、道。

東、十九間壹尺四寸。西、十九間壹尺。
南、三十四間壹尺。北、三十三間三尺。貳寸餘。

牛込神樂坂上本多修理火消御役屋敷上ケ地割残り、則修理○本多の御預ケ被成、四方間
數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申い。爲後日仍如件。

寶永二年酉二月十四日

本多修理内
石原 助右衛門印
筒井 只右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。

右立合相改、預之。

牛込神樂坂上本多修理殿火消御役屋敷上ケ地割残り、修理殿の御預ケ被成い地面之内、
建長屋小普請方の御渡し被成い立具目錄を以、御預りの御家來申立合相改相違無御
座建長屋立具請取申い。爲後日仍如件。

寶永二年酉二月十四日

永田半助組
服部 傳助印
加藤源四郎組
河合 重右衛門印

三枝左兵衛内
上野理右衛門殿

殷 昌 期

小西正之

圖略○

牛込神樂坂小西甚左衛門之屋敷。坪數五百三拾六坪。內社地三拾六坪。建長屋敷有。

東、道。西、割。殘。り。

南、本、多、修、理。北、道。西、十九間一尺四寸。

東、十九間一尺六寸。

南、北、七間五尺餘。

牛込神樂坂上本多修理殿火消御役屋敷上ヶ地割殘之内之芻、小西甚左衛門屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、并建長家立具共之御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永二年酉二月十四日

小西甚左衛門内

隱岐國右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。
右立合相改、渡之。

圖略○

小川市郎兵衛

小日向

小川市郎兵衛屋敷。坪數六拾八坪。

東、溝、口、伊、左、衛、門。

西、高、(○)蟲喰、左、衛、門。

南、道。北、山、川、角、之、丞。

東、十四間壹尺。

西、十三間。

南、十四間四尺三寸。

北、五間貳尺壹寸。

東、十四間四尺三寸。

北、五間貳尺壹寸。

同 溝口伊左衛門屋鋪。坪數六拾八坪。

東、山、田、長、左、衛、門。

西、小、川、角、之、丞、兵、衛。

南、道。北、山、川、角、之、丞。

東、十五間壹尺九寸。

西、十四間壹尺九寸。

南、十四間四尺九寸。

北、十四間四尺九寸。

山田長左

同

山田長左衛門屋鋪。坪數六十八坪。

東、黑、田、喜、左、衛、門。

西、溝、口、伊、左、衛、門。

南、道。北、山、川、角、之、丞。

東、十六間。

西、十五間。

南、十四間貳尺貳寸。

北、十四間三寸。

篠原左太夫殿上ヶ地、今度私共願之通拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座銘々請取申。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月十五日

御臺様仕丁

小川市郎兵衛印

溝口伊左衛門印

山田長左衛門印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。
右立合相改、渡之。

市川三十郎。服部七右衛門。清水喜兵衛。原五郎左衛門。安川善太夫。

圖略○

牛込神樂坂 松浦與次郎屋敷。建屋有。坪數六百五拾坪。

東、南、小、西、甚、左、衛、門。

西、北、道。西、南、本、多、修、理。

東、南、十九間一尺四寸。

西、北、十九間一尺。

東、北、三十三間一尺四寸。

西、南、三十四間壹尺。

牛込神樂坂上本多修理殿火消御役屋敷上ヶ地割殘、松浦與次郎正。信拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、并建家立具等迄、御目錄を以相改、相違無御座請取申。

殷昌期

八九五

松浦信正

い。爲後日仍如件。

寶永二年酉二月廿二日

三枚左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、渡之。

松浦與次郎内
岩佐江藏印

圖略。

巢鴨火番町 久島十郎兵衛上ケ屋敷 坪數貳百貳拾坪。内、建家五十七坪。

東南、道。西北、池田忠兵衛。
東北、道。西南、成瀬久右衛門。
東南、貳十間。西北、貳十間。
東北、十間。西南、十間。

巢鴨火之番町久島十郎兵衛上リ屋敷、拙者共四人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具疊長屋植木等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月廿四日

小普請井戸對馬守組
池田忠兵衛印
同大久保玄蕃頭組
成瀬久右衛門印
同米津周防守組
坂部勝次郎印
同松平主計組
庵原與八郎印

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合相改、預之。

小普請方
四人

神尾甚四郎

久島十郎兵衛上リ屋敷建屋立具植木石目錄

- 一、門大戸 但、々々共。 貳枚
 - 一、戸 但、半戸共。 三十九本
 - 一、障子 但、半障子共。 貳十壹本
 - 一、襖 但、小襖共。 十五本
 - 一、疊 大小。 四疊
 - 一、石 大小。 十貳
 - 一、植木 大小。 四十本
- 以上。

酉二月廿四日

圖略。

四谷大番町 深津武左衛門上屋敷 坪數貳百三拾坪。

東、神尾甚四郎。西、水野傳藏。
南、逸見勘右衛門。北、道。
東、貳十四間三尺。西、貳十五間貳尺(藪)。
南、九間五尺(藪)。北、八間五尺(藪)。

四谷大番町深津武左衛門殿上リ屋敷神尾甚四郎に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申ひ。勿論小屋掛塀圍等も仕間敷ひ。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月廿五日

神尾甚四郎内
山田徳左衛門印

般昌期

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合相改、預之。

圖略○

小日向臺割残り 坪數三百五拾七坪。
東、割残り。西、御用屋敷。
南、新道。北、御用屋敷。
東、九間三尺。西、十間。
南、三十三間。北、三十六間五尺。
同 割残り數貳百五拾坪。

東、新道。西、割残り。
南、新道。北、赤井七郎兵衛組屋敷。道代地。
東、十五間。西、十間。
南、十三間三尺。北、八間壹尺。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上ヶ地割残り空地共、牧七左衛門、水野左門兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申。爲後日仍如件。
寶永二乙酉年二月廿六日

牧七左衛門内
一一見安左衛門印
水野左門内
田中郡右衛門印

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改、預之。

圖略○

小日向臺 赤井七郎兵衛組屋敷新道代地 坪數八拾八坪三合。

牧長富
水野忠欽

赤井正幸
組與力

赤井正幸
組與力

圖略○

小日向 赤井七郎兵衛組屋敷裏方をき 坪數百拾坪。
東、赤井七郎兵衛組屋敷。西、新道(幅三間)。
南、百性地。北、延テ七十九間。
東、赤井七郎兵衛組屋敷。西、新道(幅三間)。
南、百性地。北、延テ七十九間。

小日向臺赤井七郎兵衛組屋敷裏方をき、則組中の御預被成、間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、并植木大小雜木共拾壹本、右相改、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。
寶永二乙酉年二月廿六日

赤井七郎兵衛組與力
下田六右衛門印
同組同心組頭
村瀬五右衛門印

小日向臺赤井七郎兵衛組屋敷之内、今度新道御用之差上ヶ爲代地、組屋鋪新道向空地之内、元坪之通り御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通り相改相違無御座請取申。爲後日仍如件。
寶永二乙酉年二月廿六日

赤井七郎兵衛組與力
下田六右衛門印
同組同心組頭
村瀬五右衛門印

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改、渡之。

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改、預之。

堀内貞良

堀内貞良

小日向臺 堀内善次郎^{貞良}屋鋪 坪數三百三拾坪。

東、新道。西、荒木志摩守。
南、新道。北、志摩守。

東、十六間四尺。西、十六間五尺。
南、十八間貳尺。北、十三間。

同 同屋敷續ふさき 坪數四拾坪。

東、道。西、荒木志摩守。
南、堀内善次郎。北、新道。

東、四間。西、貳間壹尺。
南、北、十三間。

小日向臺小出主計殿火消御役屋敷上地割殘之内ニ有、今度堀内善次郎屋鋪拜領仕、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、并屋敷續ふさき則善次郎御預被成、是又御繪圖之通相改御預り申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年二月廿六日

堀内善次郎内
中村安兵衛印

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改、渡之。

服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三右衛門。善孫子幸右衛門。安川善太夫。原五郎左衛門。

小日向臺火消御役屋敷上地之内ニ有、私拜領仕、屋敷裏ニ有來堀拾六間三尺相添、御渡被成、無相違請取申、爲後日仍如件。

寶永二年酉二月廿六日

坂部五郎太夫
關覺右衛門印

覺

水野權十郎様御内
永田庄助殿

小日向臺火消御役屋敷上地之内ニ有、私拜領仕、屋敷裏ニ有來堀拾六間三尺相添、御渡被成、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二年酉二月廿六日

堀内善次郎印

水野權十郎殿

圖略。

馬場先御門内 阿部飛彈守上ヶ地 坪數三千六百七拾貳坪。建長屋有。

東、道。南、間部越前守。
北、道。西、秋元但馬守。

東、六十六間五尺。西、六十五間五尺。
南、五十五間。北、五十五間三尺。

馬場先御門内阿部飛彈守殿上ヶ屋敷、小普請方御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之通并建長家立具疊等迄三浦壹岐守殿御家來立合相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二年酉二月廿七日

伊藤新右衛門組
溝口清次郎印

殷昌期

小普請方

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寶永二乙酉年
二月四日渡。大瀨越中守上ヶ地割渡
一、下谷三百六坪

三之御九張番
志村又兵衛

但、小石川御殿近所屋敷差上、爲代地被下。

二月五日渡。火酒御役屋敷上ヶ地之内
一、四谷御門内千七百七拾八坪

小普請方
傳太郎組、小尾左衛門。

但、爲御用屋敷渡ス。

同日預。邊藤源五郎屋敷前道
一、麻布六本木貳百三拾貳坪

役名不知
阿部志摩守明。正

二月六日渡。火酒御役屋敷上ヶ地之内
一、小日向臺千九拾五坪壹合

但、爲御用屋敷渡ス。

二月十四日渡。火酒御役屋敷上ヶ地割渡之内
一、牛込神樂坂上五百三拾六坪

二月廿二日渡。同斷。
一、同所六百五拾坪

○一本ニ、但建築立具共被下之。

二月十五日渡。篠原左太夫上ヶ地
一、小日向八拾八坪宛

○一本ニ、貳百四坪。但一人六拾八坪ツ。

役名不知
小西甚左衛門

二月廿四日預。久島十郎兵衛上ヶ地
一、巢鴨火番町貳百貳拾坪

○一本抹消。

山田長左衛門
小普請方

池田忠兵衛

成瀬久右衛門

坂部勝次郎

庵原與八郎

同 役名不知 右四人預地
神尾甚四郎

同 牧七左衛門

水野左衛門

同赤井七郎兵衛組
組中預地 一本ニ、彼名不知赤井七郎兵衛與力下田

同日預。赤井七郎兵衛組屋敷上ヶ地
一、同所百拾坪

二月廿六日渡。組屋敷向空地之内
一、小日向臺八拾八坪三合

但、組屋敷之内新道御用ニ差上ハ爲代地、元坪之通渡ス。

同日渡。火酒御役屋敷上ヶ地之内割渡
一、同所三百三拾坪

外地續カレ四拾坪同人預
二月廿七日渡。阿部飛騨守上ヶ屋敷
一、馬場先内二千六百七拾貳坪

○一本ニ、但建築立具共。

赤井七郎兵衛組與力
下田六右衛門

同組同心組頭
村瀬五右衛門

役名不知
堀内善次郎

小普請方
屋敷書拔

同代。初越智下總守清武一萬石加封ノ頃。
一、木挽町

寶永二年二月十五日拜領。寶永三年二月銀冶橋ト代ヘル。

千人組江戸
消防

十五日庚辰

○寶永二年(紀元二三六五)庚辰、三正綜覽。

八王子

○武藏國南多摩郡。

千人組同心ヲシテ江

戸ノ消防ニ當ラシム。

○柳營日記。寶永二錄。選要永久錄。延寶事錄。常憲院殿御實紀。

千人組江戸消防

ノ消防ニ當ラシム。

十五日○寶永二年
二月○中略。

一、稻垣對馬守○重被渡御書付寫

覺

一、千人組之同心、向後常々相廻火之元龜末ト仕體及見ハ、可相斷ハ。且又火事之節、千人組之頭同心召連罷出火を消ハ道具等ト、其所ト有合ハ用可申ハ間借ハ渡可申ハ。右之趣可相心得旨寄ト可被達ハ。

一、火事場ト之御目付中御使番申差圖有之、火を消ハ様可被仕ハ以上。

十五日○寶永二年○中略。また令せらるハ、は、千人組の同心、今より後常に巡察し、火を鹿略ニす

柳營日記記○寶永二錄同。

るさま見及は斷るべし、かつ火災の時、千人組頭同心召具し、防火の具は其地にあるにまかせ用ゆべければ借すへし、其地にては、目付使番指揮により、火を消すへしと常憲院殿御實紀

一、今度八王寺千人衆之内、江戸町火消ニ被仰付、晝夜廻り可申ハ。尤皮羽織トとひ口トてうちんの類ト、御公儀様ト御渡被成ハ。其外之道具ト町方ト有來道具遣可申、由被仰渡ハ間、其心得可仕ハ。

右之趣、今日樽ト多町々名主ト被申渡ハ。

西○寶永二年二月十六日

末○寶永五年子四月頃相止みハ由。

右御火消同○寶

一、今日於評定所申渡之覺

舊冬御簞笥同心野澤喜太夫ト伊兵衛草履取、及口論ハ節之仕方不届ニ付、閉門被仰付者也。

野澤喜太夫

舊冬長谷川伊兵衛家來ト口論之節、仕方惡敷追放申付者也。

殷昌期

九〇五

附記
處罰

十九日○寶永二年
二月○中略。

御小姓組内藤越前守組
長谷川伊兵衛○宜就。

追放

長谷川伊兵衛草履取

内

申渡之覺

御勘定

野田源右衛門

舊冬茶屋一宿仕其上召仕を打擲いせし仕方、旁不届之付、追放被仰付者也。

御勘定 久島十郎兵衛

舊冬野田源右衛門同道茶屋へ罷越い節、不埒之仕方、依之追放被仰付者也。

野田源右衛門中間 左 五 平

構無之

右之通横田備中守大目付。坪内源五郎町奉行。中山出雲守定時奉行。久留重左衛門目付。正清。

長崎半左衛門目付。列座、申渡之。

柳營日次記寶永二年。

三月朔日乙未寶永二年紀元二二三五。屋鋪預有リ。外ニ是月寶永二年紀元二二三五。

ヲ以テ屋鋪ヲ領受シタル者若干。屋鋪預有リ。外ニ是月

屋鋪預領 寶永二年三月中、屋鋪ヲ渡預シタル者左ノ如シ。

圖略

濱町 小西甚左衛門上ケ屋鋪 坪數四百六拾貳坪貳合。内、建家七十八坪。

東南、道。東北、櫻井九右衛門。西南、道。西北、金丸又左衛門。

東南、十六間五尺。西南、十七間五尺。東北、十六間。西北、十七間壹尺。

濱町小西甚左衛門殿上ケ屋敷、堀長門守御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面

屋鋪預

屋鋪預事蹟

堀直佑

并建家立具、長屋土藏石等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預り申爲後日仍如件。

堀長門守内 櫻井源兵衛印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、預之。

小西甚左衛門上ケ屋敷建家立具石目錄

一門 竹扉。但、錠、鑰有。 貳枚

一戸 但、半戸共。 三拾本

一障子 五本

一石 大小。 百十ヲ

以上。

西寶永二年三月朔日

圖略

小石川御殿近所 村越市郎兵衛上ケ屋敷 坪數百八拾八坪六合。

東、道。南、高柳孫助。西、松平彈正忠。北、重田彌平次。

東、西、八間貳尺。南、西、貳間五尺。北、貳十貳間三尺。

小石川御殿近所眞田伊賀守上ケ地之内、村越市郎兵衛上り屋敷、高柳孫助、重田彌平次、右兩人御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申爲後日仍如件。

高柳孫助 重田守澄

殷昌期

九〇七

寶永二乙酉年三月四日

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

宇野小兵衛。安川善太夫。

右立合相改、預之。

圖略。

四ツ谷御門内 仁科五郎左衛門屋敷 坪數六百貳拾坪。

東、鈴木八兵衛。西、御用屋敷。

南、道。北、三枝攝津守。

東、十六間貳尺。西、十壹間三尺。

南、四十八間五尺。北、四十九間四尺。

四谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷上ヶ地割残り、仁科五郎左衛門○信麻布屋敷差上ヶ地爲代地、今度拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面御定枕之通相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年三月廿五日

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、渡之。

圖略。

小石川御殿近所 小石川御殿同心四人分屋敷上ヶ地 坪數三拾坪。

東、御長屋跡。中野太右衛門。西、御長屋跡。松岡孫右衛門上地。

南、道。北、道。

東、四、五間。

南、六、六間。

小石川御殿近所御長屋跡、久松久右衛門飯島市郎右衛門永田兵太夫河崎新七、右四人上ヶ地、唯今迄松岡孫右衛門の御預ヶ置い處、此度孫右衛門屋敷差上い之付、右四人之上ヶ地拙者共兩人の御預替被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預ヶ申い爲後日仍如件。

寶永二乙酉年三月廿七日

小普請手代 上野平内印
御本九次之番 村高五郎左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、預之。

圖略。

小石川御殿近所御長屋跡松岡孫右衛門屋敷上ヶ地貳拾貳坪八合。

東、御長屋跡上ヶ地。西、宮本九郎左衛門。

東南、道。西南、道。

東、南、五間。西、北、五間壹尺。

東北、四間三尺。西南、四間三尺。

小石川御殿近所松岡孫左衛門上り地、拙者共兩人の御預ヶ相成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年三月廿七日

小普請手代 上野平内印
九〇九

上野平内
左村高五郎

上野平内

般昌期

仁科信乘

小普請松前伊豆守組
高柳孫助内
古畑與兵衛印
小普請三枝攝津守組
重田彌平次内
齋藤文右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、預之。

清水喜兵衛、原五郎左衛門、中村半治。

御本九火之御番
村高五郎左衛門印

圖略。

元誓願寺前 成瀬又八郎博屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、久永内記上ヶ地。西、吉田主馬。

南、丹羽小左衛門、松野權十郎。北、道。

東、西、八間三尺。北、貳十五間五尺六寸。南、貳十五間五尺五寸。北、貳十五間五尺六寸。

私本所之屋敷差上、願之通爲御引替元誓願寺前佐田玉淵上ヶ屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年三月廿九日

御徒目付
成瀬又八郎印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

右立合相改、渡之。

宇野小兵衛、安川善太夫、吾孫子幸右衛門。

——屋鋪渡預繪圖證文

寶永二乙酉年

三月廿五日預。火給御役屋敷上ヶ地割殘
一、四谷御門内六百貳拾坪
三月廿七日預。久松久右衛門、飯島市郎左衛門、永田兵太夫、河崎新七四人上ヶ地
一、小石川御殿近所三拾坪
○一本二但松岡孫右衛門御預ヶ有之、之、預ヶ替ニ相成ル。
同日預。御長屋跡松岡孫右衛門上ヶ地
一、同所貳拾貳坪八合
三月廿九日預。佐田玉淵上ヶ地
一、元誓願寺前百貳拾坪餘
但、本所屋敷願之通引替被下。

堀長門守
小普請 田孫助

重田彌平次
役名不知
仁科五郎左衛門
小普請手代
上野平内
右 同 人

御徒目付
成瀬又八郎
——屋敷書拔

〔附記、一〕奉公人關係町觸

一、奉公人之請ニ立有付置、其奉公人之請人人主申合、僞暇を取、或ハ脱落爲致、又ハ奉公人請狀相極、主人方ニ之ニ指遺、請人手前ニ差置、外ニ有付爲致、脱落、古主ニ取替金、爰不立、永々捨置、請人有之由、此等之仕形ニ多出入有之ハ、吟味之上、曲事ニ可申付事。

一、前々爰相觸、通、町中出居衆指置、ハ、家主方ニ相斷、出居衆請狀、家主方ニ取置、之、可指置、家主方無斷、出居衆差置、ハ、牢舍可申付事。

右之趣、從前ニ相觸、近頃は猥ニ罷成、請人等作法不宜、様ニ相聞、不届、向後彌書面之通相守可申、當年ハ出替以後、別多奉公人無數有之由、不依男女、辱ん辱んと浪人之多、不差置、早々有付可申、此旨町中ニ急度相觸可申、以上。

西二〇寶永三月。

右を三月十七日○寶永二年御觸町中連判。

〔附記二〕本庄道章

廿三日○寶永二年三月○中略

都合壹萬石ニ被成下。

御小姓並本庄 宮内少輔○道

柳營日記○寶永二録同。

廿三日○寶永二年三月○中略。小姓並本庄宮内少輔道章には、六千石くはへて、一萬石になさる。

——常憲院殿御實紀

道章太郎吉。織部。和泉守。宮内少輔。從五位下。○本庄。

天和三年生る。元祿十年七月十一日遺跡を繼五時に十。八月十三日はじめて常憲院殿にまみえたてまつり、十一年六月十九日上野國邑樂郡の采地を下野國梁田足利二郡のうちにつさる。十二年十月二十一日中奥の御小姓に列し、十二月十八日從五位下和泉守に敘任す。十六年八月十三日御小姓にうつり、二十二日おほせによりて宮内少輔にあらたむ。寶永二年三月二十三日美濃國山縣方縣二郡のうちをいて六千石の地を加へられ、すべて一萬石を領し、岩瀧を居所とし、六月十日領知の御朱印を下さる。四年十一月十一日仁壽の二大字をかゝせたまひし掛軸をたまふ。六年薨御により二月二十一日より務をゆるされ、菊間の廣縁に候す。のち代々おなじ。八月居所を山縣郡高富にうつす。享保十年七月二十七日卒す。年四十三。榮嶽喜繁、威音

院と號す。坂本の養玉院に葬る。

——寛政重修諸家譜

附記三
日用座更

〔附記三〕日用座更置

一、唯今迄申付置ひ日用座東湊町市兵衛、伊勢町又右衛門店三右衛門請負取上ひニ付、今度下谷長者町貳丁目九右衛門淺草御藏前片町宗吉三河町貳丁目忠右衛門橋本町貳丁目五郎兵衛ひ日用座申付ひ間、町々日用之者、本銀町三丁目會所ひ參札を取可申旨、其外ひ前々御文言之通御觸。

三月廿九日○寶永二年

——撰要永久錄

附記四
紺屋抽稅

〔附記四〕紺屋抽稅

この月○寶永二年五月○中略。又市井の紺屋藍の抽稅は、一瓶より錢二百文つゝ、毎年十二月までに出すべき旨令せられしに、出さゝるものあるよし、こたび官の紺屋土屋宇右衛門うたへ出れば、未進の輩は、前々のごとく出すへしとなり。

——常憲院殿御實紀

四月三日丙寅

○寶永二年(紀元二三六)屋鋪領受者有リ。外ニ是月(紀元二三六)

屋鋪渡預

○寶永二年(紀元二三六)屋敷書拔。寛政呈請。圖證。文。

屋鋪渡預事

寶永二年四月ニ於ケル屋鋪渡預ヲ舉ク。

圖略。

麻布 仁科五郎左衛門殿上ケ地 坪數五百六拾五坪。

屋鋪渡預

屋鋪渡預事

伊藤重之

東南、伊藤安兵衛。西北、赤井五郎作組屋敷。
東北、十七間。東、一丈五寸。西南、南部右近。
東、北、三、十、壹、間。西、北、三、十、五、間。三、尺、五、寸。
麻布仁科五郎左衛門殿上ヶ地、伊藤安兵衛之。御預被成、四方間數坪數右御繪圖之
面相改相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月三日

伊藤安兵衛内
片野忠左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、預之。

圖略。

赤坂築地 脇坂甚兵衛上ヶ地割残り 坪數三百八拾六坪四合。

東、土手ふさぎ。西、道。
南、櫻井甚五左衛門。北、向坂内藏之助。
東、十五間七寸。西、十九間三尺七寸。
南、貳、十、貳、間。北、貳、十、三、間。壹、尺。

櫻井甚五

赤坂築地 脇坂甚兵衛殿上ヶ地割残り、櫻井甚五左衛門御預ヶ被成。四方間數坪數
略。御預り申。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月四日

櫻井甚五左衛門内
服部萩右衛門印

三枝左兵衛内高山庄右衛門。
右立合相改、預之。

圖略。

櫻井甚五

赤坂築地 櫻井甚五左衛門屋敷 坪數四百坪。

東、道。土手ふさぎ。西、道。
南、岡部八郎左衛門。北、脇坂甚兵衛上ヶ地割残り。
東、西、十七間。貳、尺、三、寸、三、分。
南、貳、十、四、間。貳、尺、三、寸、三、分。北、貳、十、貳、間。

赤坂築地 脇坂甚兵衛殿上地之内、櫻井甚五左衛門拜領仕。四方間數坪數右御繪
圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月四日

櫻井甚五左衛門内
服部萩右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。

右立合相改、預之。

圖略。

四谷御門内 仁科五郎左衛門屋敷 坪數五百六拾五坪。

東、鈴木八兵衛。西、御用屋鋪。
南、道。北、三枝攝津守。
東、十六間貳尺。西、十壹間三尺七寸。
南、四十三間五尺七寸餘。北、四十四間四尺七寸。

四谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷上ヶ地割残り、仁科五郎左衛門麻布屋敷
指上ヶ爲代地、元坪之通拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通り相改、相違
無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月五日

仁科五郎左衛門内
村上十郎左衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村平次。

小普請方

圖略○

四谷御門内御用屋敷添地 坪數五拾五坪。

東、仁科五郎左衛門。西、御用屋敷。北、三枝攝津守。

南、道。東、十壺間三尺七寸。西、十壺間三尺。北、四間五尺三寸餘。

四谷御門之内能勢治左衛門殿火消御役屋敷之内、御用屋敷隣仁科五郎左衛門殿拜領屋鋪割殘、右御用屋敷之内、御割込、小普請方、御渡被成、四方面數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月五日

石川傳太郎祖
小尾友右衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

安川善太夫。原五郎左衛門。

牛田頼氏

圖略○

小石川 牛田甚五左衛門屋敷 坪數五百三坪三合。

東、道。南、宮崎甚右衛門。西、山崎伊兵衛。

東、十八間三尺。西、十八間三尺。南、十七間四尺。北、十七間四尺。

湯島天神切通シ牛田甚左衛門○頭元屋敷差上ひ爲代地、小石川横瀬駿河守殿上ケ屋敷拜領仕ひ。四方面數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月○開四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。廿六日

牛田甚左衛門内
立花 只 七印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、預之。

圖略○

小石川御殿近所 志村又兵衛上ケ地 坪數貳百五坪。

東、道。南、道。西、本間彦兵衛。北、橋詰源太夫。菅波權右衛門。

東、西、九間貳尺。南、北、十間貳尺。

小石川御殿近所志村又兵衛上ケ地、拙者共兩人、御預ケ被成、四方面數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永二乙酉年四月○開四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。四月ノ條ニ在リ。晦日

松前伊豆守組
本間彦兵衛印
御天守番青木彦兵衛組
菅波權右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。
右立合相改、預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

本間彦兵衛
菅波權右

寶永二乙酉年

四月二日領。仁科五郎左衛門上ヶ地

役名不知 伊藤安兵衛

一、麻布五百六拾五坪

役名不知 櫻井甚五左衛門

四月四日渡。脇坂基兵衛上ヶ地之内

右 同 預地

一、赤坂築地四百坪

同 仁科五郎左衛門

同日領。同前

小普請方一木小普請方石川傳太郎組小尾友左衛門

一、同所三百八拾六坪四合

但、麻布屋敷差上爲代地元坪之通被下。

四月五日渡。火消御役屋敷上ヶ地割讓

同日渡。同前

一、同所五拾五坪

役名不知 牛田甚左衛門

但、御用屋敷爲添地渡ス。

松前伊豆守組 本間彦兵衛

四月一、四月四日渡。不明廿六日渡。横瀬河守上ヶ地

御天守番 菅波權右衛門

一、小石川五百三坪三合

右兩人預地 屋敷書拔

一本二、但、湯島天神切通拜領屋敷差上、爲代地被下之。

子爵内藤家母壽。回答

四月一、四月四日渡。不明同日領。志村又兵衛上ヶ地

一、寶永二年四月七日道三河岸御普請小屋屋敷貳千五百五拾五坪受領。常盤橋屋敷上

一、小石川御殿近所貳百五坪

納。

昌陽虎之助。田邊。

拜領屋敷高祖父田澤惣左衛門昌。寶永二戊辰年四月廿五日四ッ谷鮫ヶ橋之上五百坪

内藤政森

田澤昌陽

拜領仕、其後乾次郎昌天明八年十二月廿八日四ッ谷内藤宿新屋敷大名小路六百八拾坪餘、大御番大久保能登守組服部富藏拜領屋敷奉願相對替仕。

寛政呈譜

根津權現社 構營

晦日癸巳寶永二年(紀元二三六五年)四月。癸巳、三正綜覽。作事奉行曲淵重羽越前守等命ヲ受ケテ

根津權現社ヲ構營ス。閏四月十八日辛亥寶永二年(紀元二三六五年)五月。辛亥、三正綜覽。次

城主淺野長澄土佐守ニ助役ヲ命ズ。五月朔日癸亥寶永二年(紀元二三六五年)五月。癸亥、三正綜覽。鉾

初、四日丙寅寶永二年(紀元二三六五年)五月。丙寅、三正綜覽。鉾初有リ。八月十五日丙午寶永二年(紀元二三六五年)八月。丙午、三正綜覽。將軍綱吉德川生

母本莊氏昌院ノ喪ニ服スルヲ以テ也。三年丙戌寶永二年(紀元二三六五年)七月。丙戌、三正綜覽。七月二日

丁巳正綜覽。若年寄久世重之和守。總督ニ任シ、三日戊午寶永三年(紀元二三六六年)七月。戊午、三正綜覽。城主ノ毛利元

工ヲ董ス。九月十一日丙寅寶永三年(紀元二三六六年)九月。丙寅、三正綜覽。德山防國。城主ノ毛利元

次飛騨守亦助役ヲ命セラル。十六日辛未寶永三年(紀元二三六六年)九月。辛未、三正綜覽。立柱。十一

月晦日甲申寶永三年(紀元二三六六年)十月。甲申、三正綜覽。上棟。十二月三日丁亥寶永三年(紀元二三六六年)十二月。丁亥、三正綜覽。

遷座。四日戊子寶永三年(紀元二三六六年)十二月。戊子、三正綜覽。供養有リ。五日己丑寶永三年(紀元二三六六年)十二月。己丑、三正綜覽。

助役諸侯及掛員ノ行賞有リ。十二日丙申寶永三年(紀元二三六六年)十二月。丙申、三正綜覽。

般 昌 期

九一九

根津權現社
構營事蹟

綜覽

助役諸侯ノ家臣亦受賞ス。○柳營日記。寶永二錄。寶永三錄。憲廟實錄。容

根津現權社構營 駒込ノ根津社ヲ今ノ根津ニ移シテ構營ス。顯末左ノ如シ。

神社敷地。

根津之内○中略

寶永年中、當所より東北に續、甲府殿下谷當時地屋鋪此地所東北地續、當時根津權之内、當時根津權現社地ニ被仰出、駒込千駄木ニ有之、權現社當所の御引移有之、由、同永。三戌年中根津權現別當神主爲助成、境内の新規道敷出來門前町屋願濟之由ニ有之。

根津之内○中略

延寶年中、當所東南ノ西手の折廻し、一圓甲府殿下谷屋鋪此地所東南地續、當時根津權現共右部出ル之内、當所西南之方根津社地ニ被仰出、駒込千駄木ニ有之、權現社、同所の御引移有之、由、同永。三戌年中根津權現別當神主爲助成、境内の新規道敷出來門前町屋願濟之由ニ有之、其頃右御屋鋪跡地之内ニ前々住居來い者其儘屋鋪拜領々々し、銘々屋鋪ニ相成、又之根津權現御建立ニ付、同所之内ニ屋鋪振替被下い者、有之哉、之相見、得共、舊記不詳、依之右御屋鋪跡地之内、小屋鋪名前、根津權



延寶年中之根津

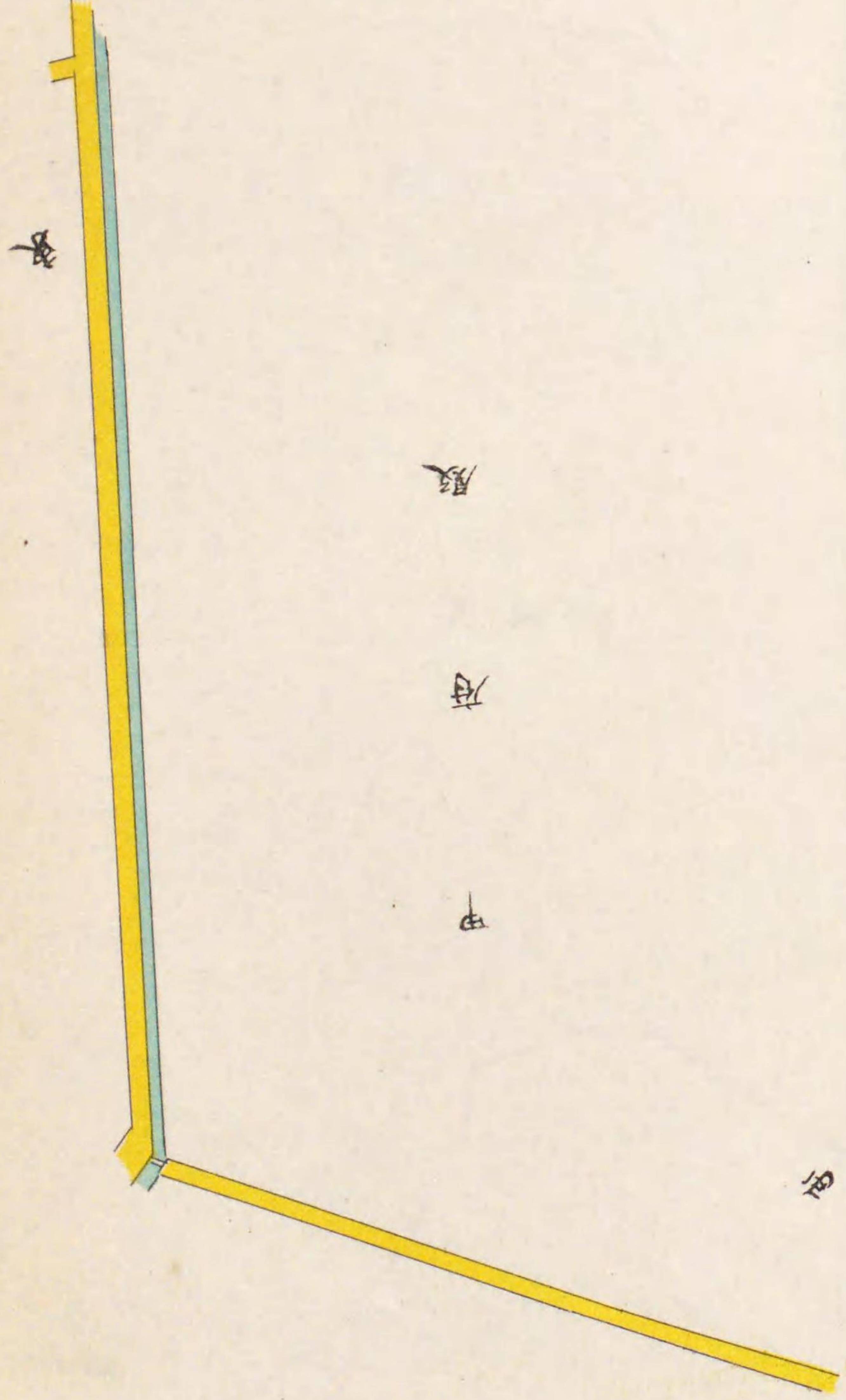
延至耳中之狀

耳

股

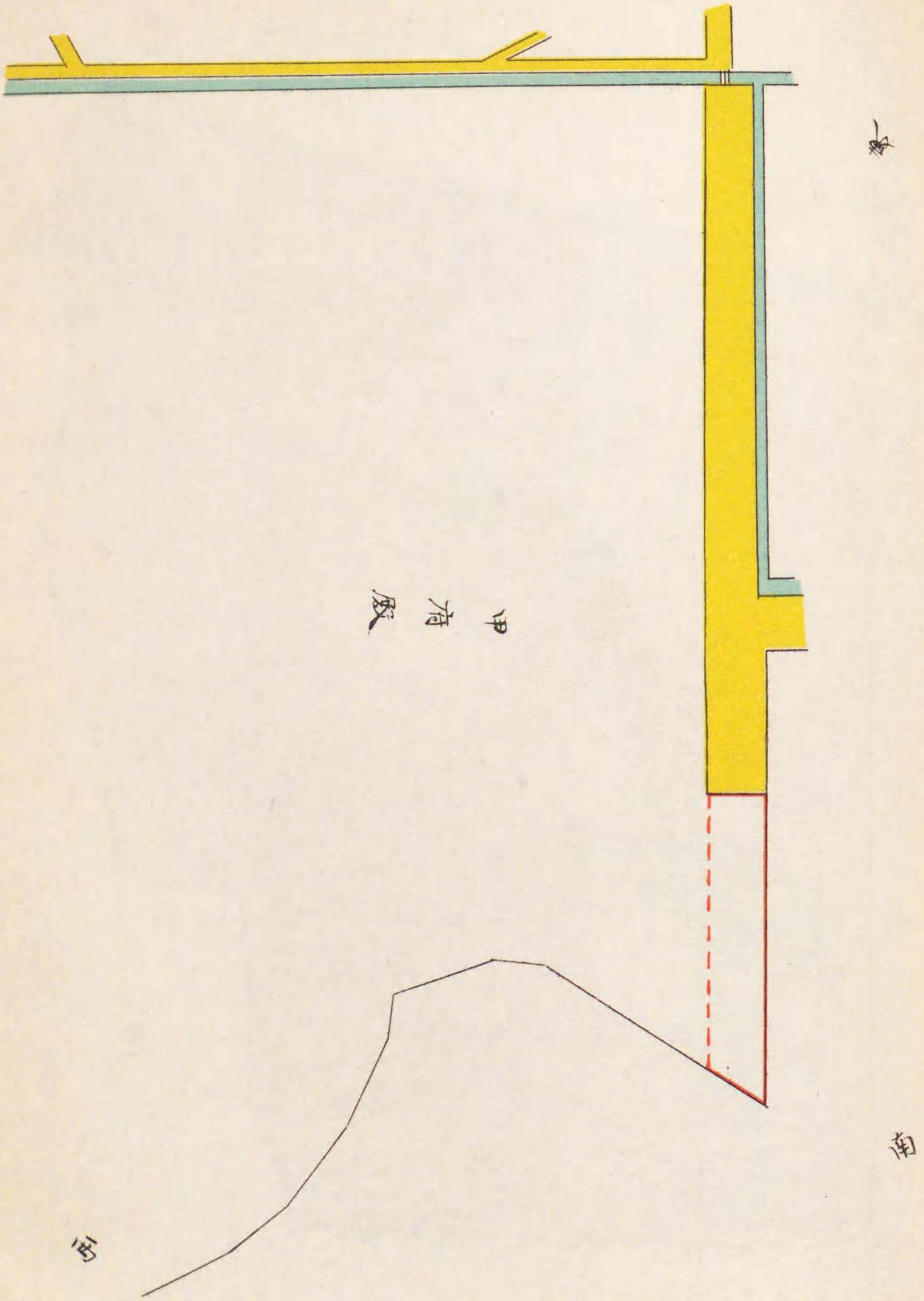
府

甲



耳

九種八支斗之板



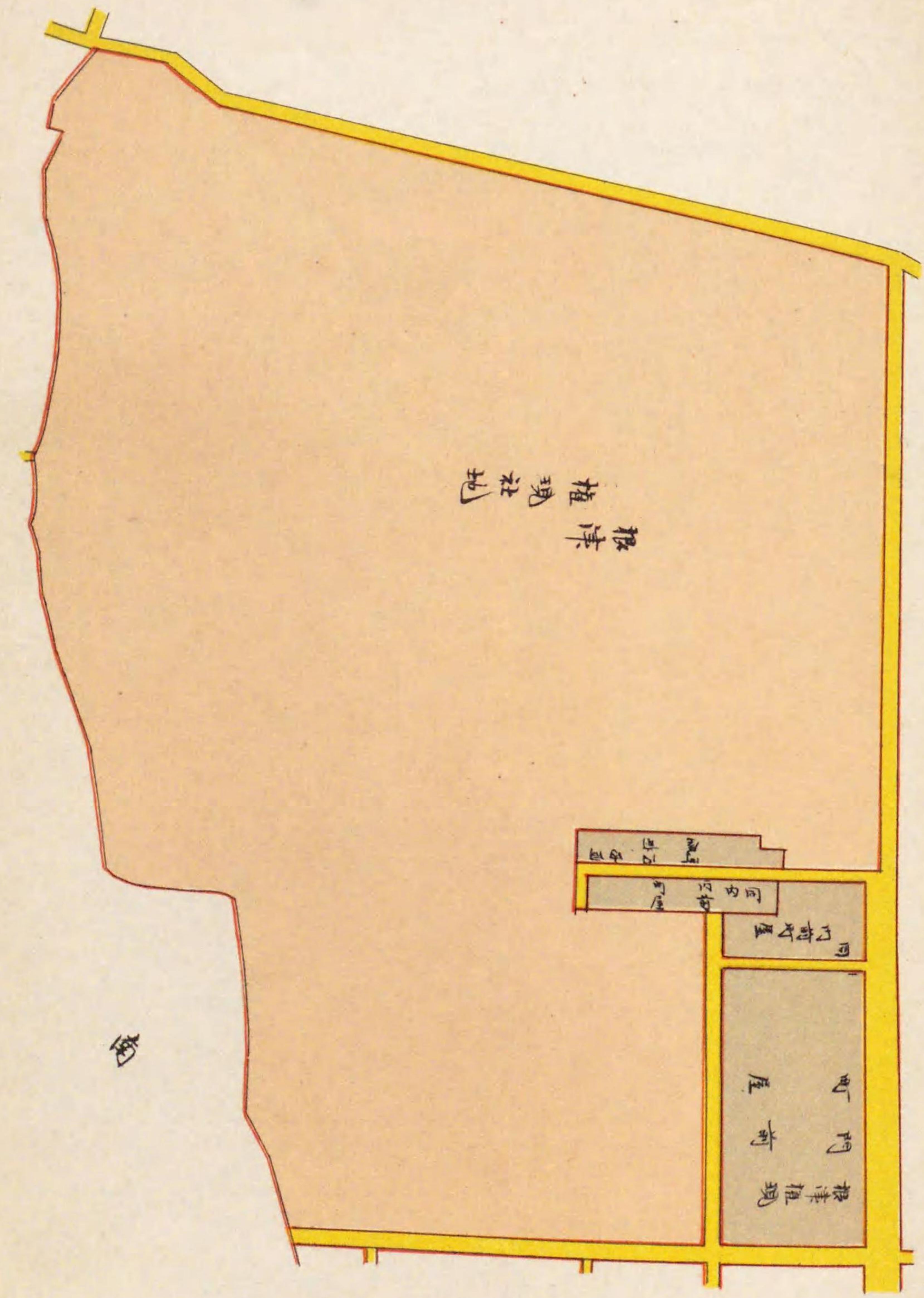
甲 有 殿

一 板

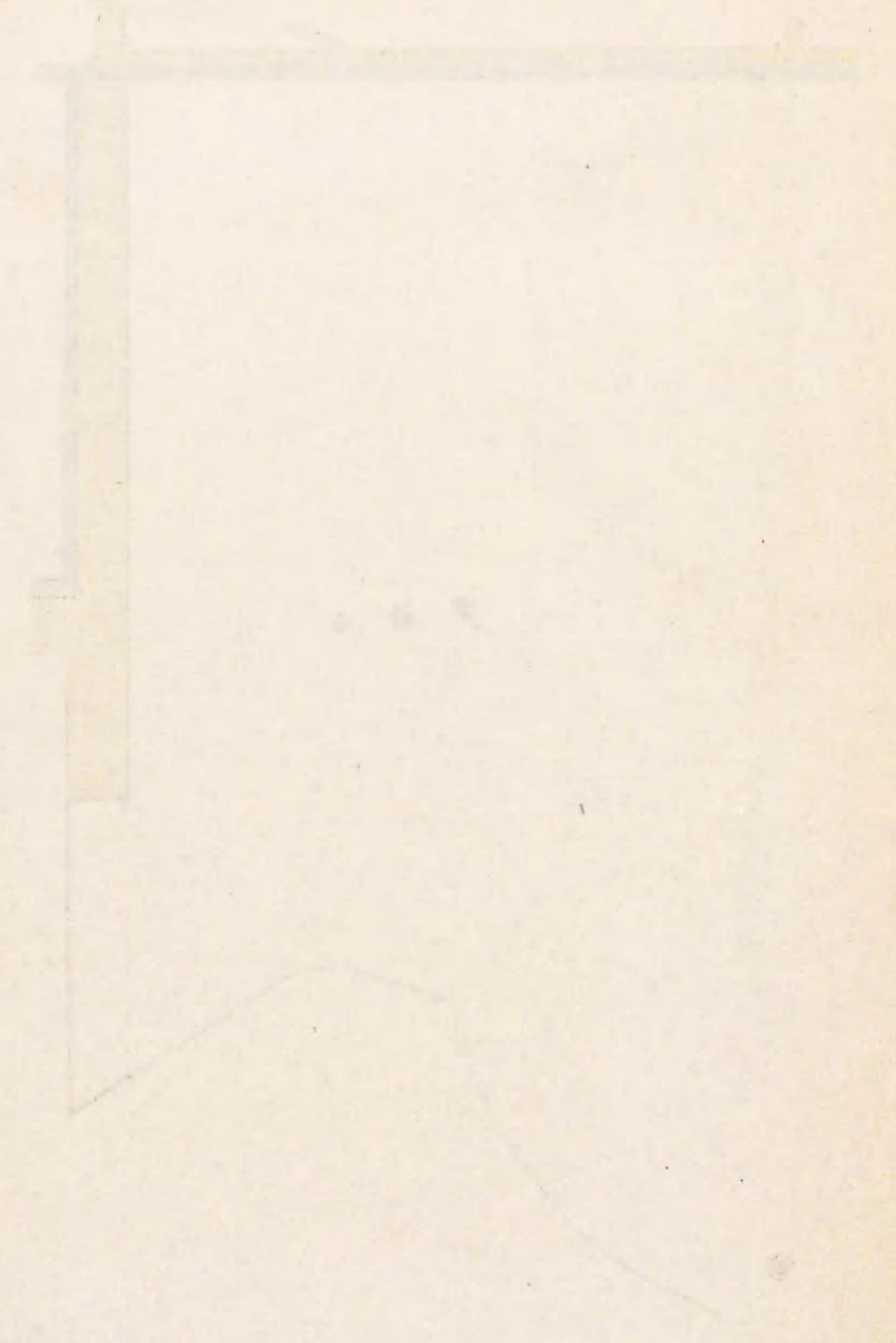
乙

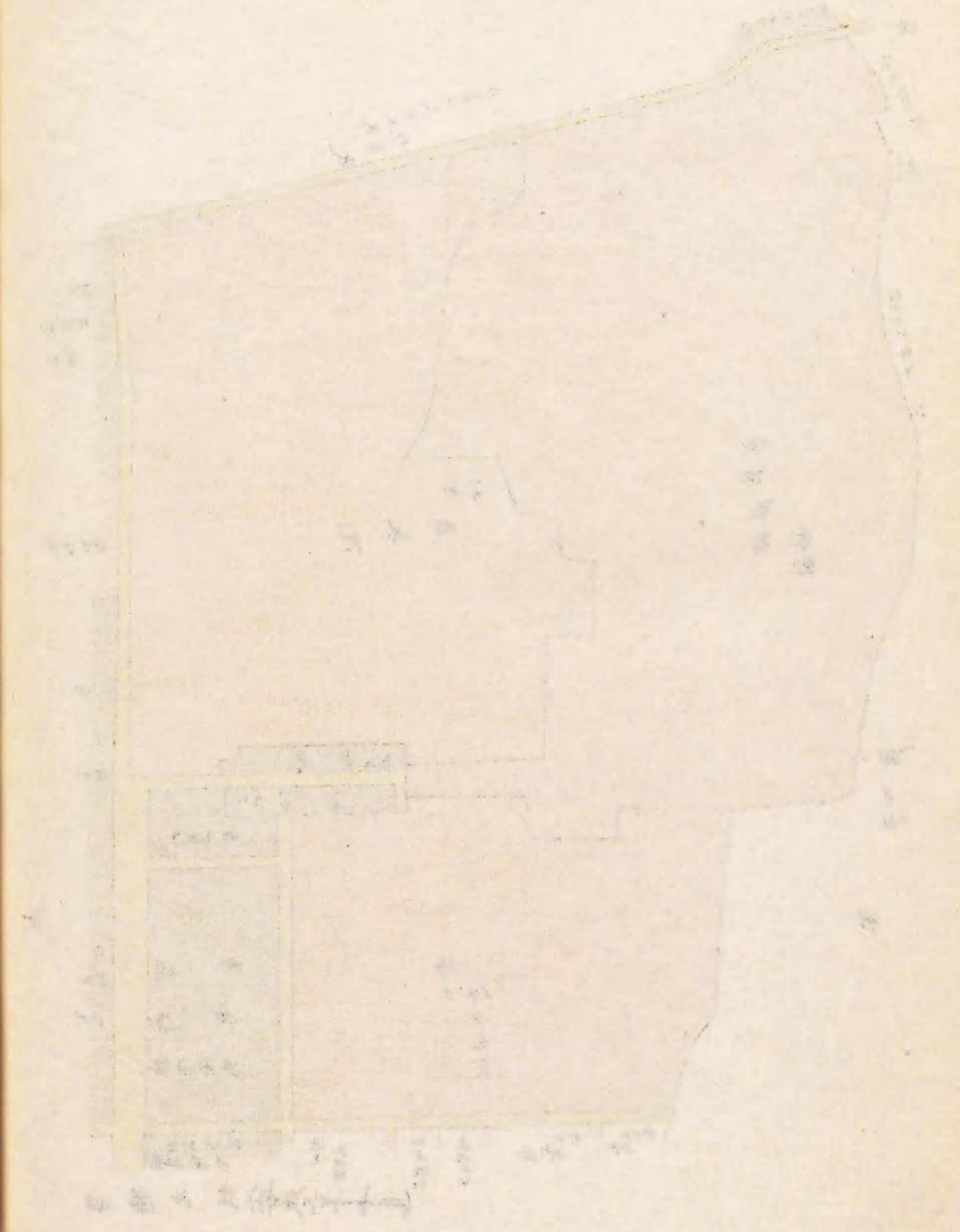
甲

啓



同安 永二西 三改年頃之概





現別當昌泉院地中共門前町屋其外道敷等地形相知い分て同年より出之
 根津之内略中

延寶年中之南手之梶和泉守屋鋪年月不詳上ケ地甲府殿添地二成有之其外當所より北手之
 續一圓甲府殿下谷屋鋪此地所北手地續之當時根津權現社有之部并根津より處元祿八亥年
 三月前書梶和泉守屋鋪上ケ地并同人屋鋪脇行留道敷とも甲府殿水屋鋪差上い爲代
 地元地水屋鋪何被下右地所當町御同人屋鋪の圍込成其後寶永元申年文昭院様西丸
 の御入後同二酉年中前書甲府殿下谷御屋鋪跡地當時小屋鋪有之邊地名根津元御屋鋪之内當所より西手
 根津權現社地之被仰出駒込千駄木之有之權現社當所の御引移有之由同三戌年
 根津權現別當神主爲助成境内の新規定式出來門前町屋願濟之由之有之其頃屋鋪跡
 地之内之前々住居來い者其儘屋鋪拜領いたし銘々屋鋪之相成又之根津權現社御
 建立之付同所之内之多屋敷振替被下い者爰有之哉之相見い得共舊記不詳依之右御
 屋鋪跡地之内小屋鋪名前并根津權現門前町屋其外道屋敷等地形相知い分て同年より
 出之
 御府内場末在還沿革圖書

圖略

下谷 牛奥七太夫上ケ地 坪數八百貳坪

東、道。西、道。北、安藤内記。
 東、道。十六間五尺九寸。西、道。十貳間九寸。
 南、道。三十三間一尺九寸。北、道。三十貳間四尺壹寸。

殷昌期

同 水戸中納言殿御上ヶ地 坪數百九拾五坪七合。

東、道。西、水戸中納言殿。
南、道。北、道。

東、西、五間三尺。北、三十五間四尺。

下谷水戸中納言殿御上ヶ地同所牛與七太夫殿上ヶ地貳ヶ所根津權現爲御用地、小普請方、御渡被下、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寶永三丙戌年十月廿三日

橫山藤兵衛組頭

浦井 彦 助印

梶作右衛門組

内村 文 次 郎印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

平野善三郎、宇野小兵衛、吾孫子幸右衛門、安川善太夫。

圖略。

巢鴨

齋藤善右衛門屋敷 坪數七拾壹坪。

東、御金拂方同心上ヶ地割殘り。

南、久保權四郎。

東、十五間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

東、十六間三尺。

南、十四間貳尺六寸。

慶昌期

寶永三丙戌年十一月十九日

座請取申、爲後日仍如件。
殿上ヶ地之願之通屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定枕之通、相違無御

川村小十郎組之組頭、西九御切手同心、遠藤彌次右衛門印

齋藤善右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、渡之。

圖略。

- 巢鴨 吉野源右衛門屋敷 坪數七拾五坪。
東、荒井六左衛門。西、小石川御殿番同心。
南、道。北、割殘り。
- 同 荒井六左衛門屋敷 坪數七拾五坪。
東、近藤與右衛門。西、吉野源右衛門。
南、道。北、割殘り。
- 同 近藤與右衛門屋敷坪數七拾五坪。
東、新道。西、荒井六左衛門。
南、道。北、割殘り。
- 同 飯塚伊兵衛屋敷 坪數七拾五坪。
東、遠藤彌次右衛門。西、新道。
南、割殘り。
- 同 遠藤彌次右衛門屋敷 坪數七拾五坪。
東、百姓地。西、飯塚伊兵衛。
南、割殘り。北、道。

東、西、十三間四尺六寸。北、五間三尺。
南、五間四尺四寸。六寸。
下谷元御屋敷之内御切手同心五人屋敷今度根津御用地之差上い爲代地、巢鴨松風伊左衛門殿上ヶ地神田御殿同心上ヶ地之内之願之通屋敷拜領仕い。四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申い爲後日仍如件。

寶永三丙戌年十一月十九日

川村小十郎親之祖、西九御切手同心
遠藤彌次右衛門印
同 齋藤善右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、渡之。

圖略。

- 巢鴨 中九鬼次兵衛屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、安藤文右衛門。小細工手代上ヶ地割殘り。
南、高柳十左衛門。西、森岡右衛門。
東、十四間。西、十三間五尺四寸。
南、六間。北、五間。
- 同 森岡右衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、中九鬼次兵衛。西、松崎安右衛門。
南、石川半左衛門。北、道。
- 同 松崎安右衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、森岡右衛門。西、荒井半平。
南、鹽谷淺右衛門。北、道。

同 荒井半平屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、北、西、南、五、三、間、三、尺、四、寸。
東、松崎安右衛門。西、松浦平助。南、留澤六兵衛。北、道。

同 松浦平助屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、荒井半平。西、沼野庄藏。南、石川惣兵衛。北、道。

同 沼野庄藏屋鋪 坪數七拾六坪四合。
東、松浦平助。西、戸代彌五右衛門。南、片倉彦八。北、道。

同 戸代彌五右衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、沼野庄藏。西、安藤文右衛門上ヶ地。南、片倉彦八。北、道。

同 片倉彦八屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、石川惣兵衛。西、安藤文右衛門上ヶ地。南、道。

同 石川惣兵衛屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、九間三尺。西、七間一尺六寸。南、道。

同 留澤六兵衛屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、鹽谷淺右衛門。西、石川惣兵衛。南、道。

同 鹽谷淺右衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、石川半左衛門。西、留澤六兵衛。南、道。

同 石川半左衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、高柳十左衛門。西、鹽谷淺右衛門。南、道。

同 高柳十左衛門屋敷 坪數七拾六坪四合。
東、小細工手代上ヶ地割殘。西、石川半左衛門。南、道。

下谷元御屋敷之内御切手同心拾三人屋敷、今度根津御用地之差上ハ爲代地、巢鴨御路次之者上ヶ地之願之通り屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永三丙戌年十一月十九日

川村小十郎組之組頭西丸御切手同心
遠藤彌次右衛門印
同 齋藤善右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。
右立合相改、渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寶永三丙戌年

十月廿三日渡。水戸中納言殿半込七大夫上ケ地
一、下谷九百九拾七坪七合

小 普 請 方

但、根津權現社地爲御用地渡ス。

十一月十九日渡。山田半助上ケ地
一、巢鴨七拾壹坪宛

但、下谷元御屋敷之内屋敷根津御用地之差上ハ爲代地被下。

西丸御切手同心

齋藤善右衛門

大藪小左衛門

岸 宗 内

金田新五左衛門

北澤平九郎

吉田善兵衛

同 吉野源右衛門

同日渡。松風伊左衛門上ケ地并神田御殿同心上ケ地之内
一、同所七拾五坪宛

但、右同斷。

十一月十九日渡。御路次之著上ケ地
一、巢鴨七拾六坪四合宛
但、右同斷。

西丸御切手同心

遠藤彌次右衛門

中丸鬼次兵衛

森岡右衛門

松崎安右衛門

荒井半平

杉浦平助

沼野庄藏

戸代彌五右衛門

片倉彦八

石川惣兵衛

富澤六兵衛

鹽谷淺右衛門

石川半左衛門

高柳十左衛門

——屋敷書拔

此外屋鋪渡預繪圖證文屋敷書拔ニ根津神社ノ用地ト爲リタル者若干有リ。下文記ス前ノ如シ。斯ニ知ル根津權現社地ハ、舊甲府下谷屋鋪ノ外、若干ノ水戸邸地其他ヲ含ミタル者ナルコトヲ。尤モ若干ノ割殘ヲ生シテ、之ヲ小笠原氏等預ト爲シタルコトハ、亦下文ニ之ヲ記ス。

〔參考〕 柳營日記記ニ、

廿二日○寶永三年十二月

綱註付

一、去年當年根津權現社御用付、屋敷上り内、彼地家作住居仕分へハ、挽料金被下い間、支配々頭々、遂吟味、御勘定奉行石尾阿波守御目付戸田七内へ相達、請取

一、阿波守七内へ、左之書付加賀守保忠増渡之。

一、千石之内より三百石迄 金廿兩。

一、三百石之内より百石迄 同十五兩。

一、百石之内より四十石迄 同十兩。

一、四十石之内より拾石迄 同五兩。

右去年當年根津權現社御用付、屋敷上内、

一、家作仕罷在い者、外へ借し置い共、自分之少之も家作いさし住居仕い者、右之

分ハ挽料金被下い間、支配々頭々より斷次第、其品承届可被渡い。

一、家作一圓無之者。

一、屋敷を借し家を作らざ、其身ハ其所ノ不罷在者。

一、家ハ屋敷主より作ら外へ借し置い者。

一、御長屋ノ住居仕い者。

右之分ハ挽料金不被下い間、可被得其意い。以上。

掛員任命。

晦日○寶永二年
四月○中略。

根津權現社御普請御用被仰付。

御作事奉行

曲淵越前守羽重

小普請方

石川傳太郎

竹村權左衛門武嘉

——柳營日記

三十日○寶永二年
四月○中略。此日根津權現社構造あるにより、作事奉行曲淵越前守重羽并に小普

請方二人、其事奉る。

十一日○寶永二年
五月○中略。

大岡忠右衛門組

飯田彦七郎

土岐内記組

長尾作左衛門

右之根津權現増上寺方丈御普請中、吟味役被仰付之。○寶永
二錄同。

——柳營日記

助役

十八日○寶永二年閏四月○中略。

淺野土佐守○長澄。

右根津權現御普請御手傳被仰付旨、御白書院ヲをひて小笠原佐渡守○長澄。申渡之。

——柳營日次記

十八日○寶永二年閏四月○中略。淺野○土佐守殿。佐渡守、根津權現御普請被仰付旨、於御白書院小笠原佐渡守申渡之。

——寶永二錄

十八日○寶永二年閏四月○中略。淺野土佐守長澄、根津權現祠營建の人夫を出し。

——憲廟實錄

一、十八日○寶永二年閏四月○中略。根津權現御手傳

淺野土佐守

——天享吾妻鑑

閏四月八日○寶永二年閏四月○中略。根津權現御手傳淺野土佐守。

——文露叢

一、同○寶永二年閏四月。廿九日、根津權現大納言○徳川家寛。様之御氏神ニ付、今般御造營被仰付。右御手傳淺野土佐守殿ニ被仰付。

——容山亭日記

十八日○寶永二年閏四月○中略。淺野土佐守長澄は、根津權現造營の人夫出すべしと命ぜらる。

——常憲院殿御實紀

鉦初。

朔日○寶永二年五月○中略。

根津權現社鉦初有之。

——柳營日次記

鉦初。

五月朔日○寶永二年閏四月○中略。根津權現の社鉦初あり。

——常憲院殿御實紀

四日○寶永二年五月○中略。

一、根津權現社鉦初有之。

——柳營日次記

四日○寶永二年五月○中略。この日根津權現の社鉦初あり。

——常憲院殿御實紀

工事延期助役免除。

十五日○寶永二年八月○中略。

一、淺野土佐守事、根津權現社御普請御手傳被仰付之處、御服申付テ、至來年御普請可被仰付之、依之御手傳御免之旨、佐渡守宅ニ申渡す。

——柳營日次記

十五日○寶永二年八月○中略。このほど御服により、根津の社構造遅緩せらる。よて淺野土佐守長澄助役をゆるさる。

——常憲院殿御實紀

翌三年七月ニ至り、之ガ工事ヲ繼續ス。

總奉行任命。

二日○寶永三年七月○中略。

殷昌期